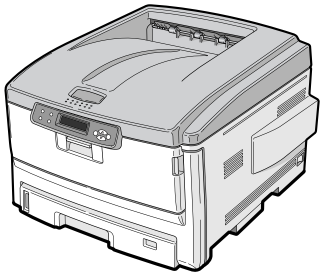
RICOH

IPSiO SP C711

ソフトウェアガイド



ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」をお読みください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

重要

- 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1) 複製、印刷することが禁止されているもの
(見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。)
・紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
・日本や外国の郵便切手、印紙
(関係法律)
　・紙幣類似証券取締法
　・通貨及証券模造取締法
　・郵便切手類模造等取締法
　・印紙等模造取締法
　・(刑法 第１４８条 第１６２条)
2) 不正に複製、印刷することが禁止されているもの
・外国の紙幣、貨幣、銀行券
・株券、手形、小切手などの有価証券
・国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
・個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
(関係法律)
　・刑法 第１４９条 第１５５条 第１５９条 第１６２条
　・外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
3) 著作権法で保護されているもの
著作権法により保護されている著作物(書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など)を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

* 画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

目次

1. 印刷するための準備

2. プリンタードライバー画面と設定方法

3. いろいろな印刷

4. デジタルカメラから直接印刷する（PictBridge）

5. プリンター本体の設定

6. 機器の監視

7. プリントサーバーの準備

8. Windows の補足情報

9. Mac OS で使う

10. UNIX で使う

11. 付録

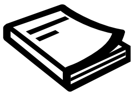
使用説明書について

本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

使用説明書の分冊構成

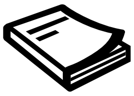
お使いになる目的に応じて、必要な使用説明書をお読みください。

♦ かんたんセットアップ



本機に同梱されています。プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

♦ クイックガイド



本機に同梱されています。困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

♦ ハードウェアガイド

本機に同梱されています。オプションの接続方法や用紙に関する情報、消耗品の交換手順、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。また付属の CD-ROM には、同内容の Web ブラウザでお読みいただく HTML 形式の電子マニュアルが収録されています。

♦ ソフトウェアガイド（本書）



付属の CD-ROM に、Web ブラウザでお読みいただく HTML 形式の電子マニュアルが収録されています。プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

⚠警告

※安全上のご注意についての説明です。
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

⚠注意

※安全上のご注意についての説明です。
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
『ハードウェアガイド』「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。
各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]
キーとボタンの名称を示します。

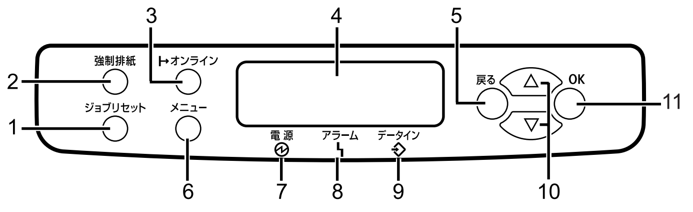
『 』
本書以外の分冊名称を示します。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

操作部

プリンター操作部の各部の名称とはたらきに関する説明です。



1 ［ジョブリセット］キー（JobReset）
印刷中または受信中のデータを取り消すときに使用します。

2 ［強制排紙］キー（FormFeed）
オフライン状態のときはプリンター内に残っているデータを強制的に印刷します。
オンライン状態のときに送られたデータの用紙サイズや用紙種類が、実際にセットされている用紙サイズや用紙種類と合わなかった場合に、強制的に印刷することができます。

3 オンラインランプ /［オンライン］キー（Online）
プリンターが「オンライン状態」か「オフライン状態」かを示し、キーを押すことでオンラインとオフラインを切り替えることができます。
オンライン状態はパソコンからのデータを受信できる状態でランプは点灯します。
オフライン状態はパソコンからデータを受信できない状態でランプは消灯します。
各種の設定中に［オンライン］キーを押すと、通常の画面に戻ります。

4 画面
プリンターの状態やエラーメッセージが表示されます。
省エネモードに移行すると、バックライトが消灯します。
設定が有効になっている項目の左側には、「＊」が表示されます。

5 ［戻る］キー（Escape）
設定を有効にせずに上位の階層に戻るとき、またはメニューから通常の表示に戻るときに使用します。

6 ［メニュー］キー（Menu）
操作部で行うプリンターに関するすべての設定は、このボタンを押してメニュー内部で行います。

7 電源ランプ（Power）
電源が入っているときに点灯します。ただし、省エネモードになっているときは消灯します。

8 アラームランプ（Alert）
エラーが発生しているときに点灯します。ディスプレイでエラーの内容を確認して対処してください。

9 データインランプ（DataIn）

パソコンから送られたデータを受信しているときに点滅します。印刷待ちのデータがあるときは点灯します。

10［▵］［▿］キー

表示画面をスクロールさせるとき、または設定値を増減させるときに使用します。キーを押しつづけると、表示が早くスクロールしたり、数値が 10 倍の単位で増減したりします。

11［OK］キー（# or Enter）

設定や設定値を確定させるとき、または下位の階層に移動するときに使用します。

補足

・各キー名称の後ろに画面を英語表示したときの英語名称を記載しています。表示言語メニューの切り替えについては、「表示言語メニュー」を参照してください。

参照

・P.157 「表示言語メニュー」

1. 印刷するための準備

同梱のCD-ROMからドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについての説明です。

おすすめインストール

Windows 95/98/Me/2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2、または Windows NT 4.0 をご使用の場合、同梱の CD-ROM から簡単にソフトウェアをインストールすることができます。

[おすすめインストール] ボタンをクリックすると、プリンターをネットワーク接続している場合は「プリンタードライバー」と「Ridoc Desk Navigator - Ridoc IO Navi」がインストールされ、TCP/IP ポートが設定されます。プリンターをパラレル接続している場合は「プリンタードライバー」がインストールされ、LPT1 ポートが設定されます。

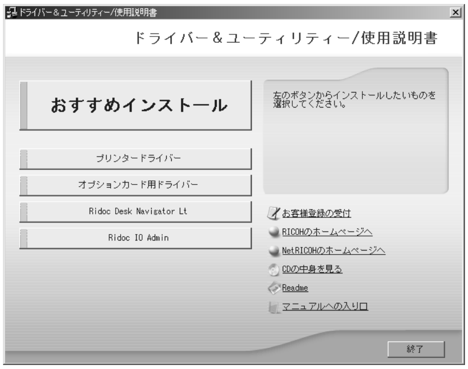
重要

- Windows 95/98/Me、Windows NT4.0 のプリンタードライバーは、2008 年 3 月 31 日をもってサポートを終了します。詳細はリコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）をご覧ください。
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、または Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。



3 **[おすすめインストール] をクリックします。**

[使用許諾] ダイアログが表示されます。

1

4 ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目をお読みください。同意する場合は［次へ］をクリックします。

5 ［モデル名］をクリックし、使用する機種を選択します。

ネットワーク接続の場合、［接続先］に IP アドレスが表示されているプリンターを選択します。
パラレル接続の場合、［接続先］にプリンタポートが表示されているプリンターを選択します。

6 ［インストール］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされ、［導入完了］ダイアログが表示されます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

7 ［完了］をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示された場合は、Windows を再起動してください。

8 最初の画面で［終了］をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- 本機を USB 接続で使用する場合、おすすめインストールではプリンタードライバーをインストールすることができません。USB 接続で使用する場合は、「USB 接続」を参照してください。
- パラレル接続で本機とパソコンが双方向通信していない場合、おすすめインストールをすることができません。「双方向通信が働かない場合」を参照して、本機とパソコン間の双方向通信を設定してください。
- ［おすすめインストール］でのインストールに失敗したときは、「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.42 「USB 接続」
- P.57 「双方向通信が働かない場合」
- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

接続方法を確認する

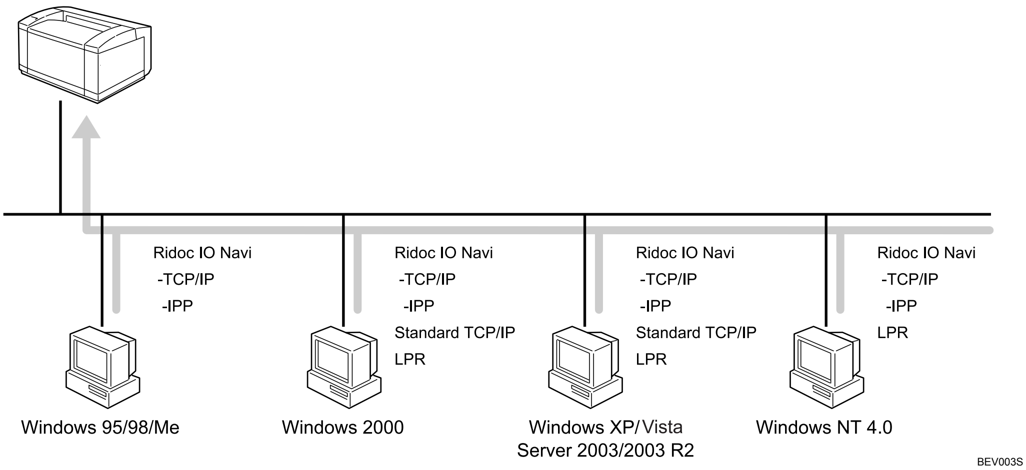
プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続することができます。
プリンタードライバーをインストールする前に、プリンターをどのように接続したかを確認し、ご使用の接続方法でのインストール方法を参照し、プリンタードライバーをインストールしてください。

ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへダイレクト印刷(Peer-to-Peer ネットワーク)、またはサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。インターフェースは、イーサネット、無線 LAN インターフェースを使用します。



♦ Windows 95/98 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	Ridoc IO Navi ポート

♦ Windows Me の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	Ridoc IO Navi ポート

◆ Windows 2000 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート

◆ Windows XP の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート

◆ Windows Vista の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート

◆ Windows Server 2003/2003 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・Standard TCP/IP ポート ・LPR ポート

◆ Windows NT 4.0 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	・Ridoc IO Navi ポート（推奨） ・LPR ポート

補足

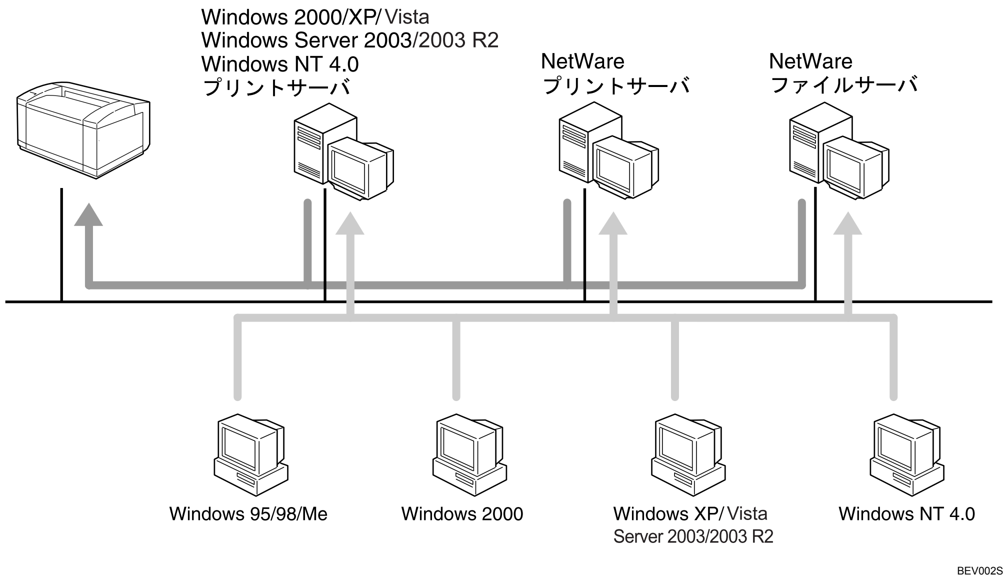
- 各ポートごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のポートの記載を参照してください。

参照

- P.19 「Ridoc IO Navi ポートを使う」
- P.28 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.31 「LPR ポートを使う」

プリントサーバーを使用する

Windows ネットワークプリンター、NetWare プリントサーバ、または NetWare リモートプリンターとして使用できます。



補足

- ネットワークプリンターの種類ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のネットワークプリンターの記載を参照してください。

参照

- P.34 「Windows ネットワークプリンターを使う」
- P.37 「NetWare プリントサーバー、リモートプリンターを使う」

ローカル接続

ローカル接続には、USB 接続とパラレル接続があります。
ご使用の Windows によって、使用できる接続方法が異なります。

- Windows 95 の場合
  - パラレル接続
- Windows 98 の場合
  - パラレル接続
- Windows Me の場合
  - USB 接続、パラレル接続
- Windows 2000 の場合
  - USB 接続、パラレル接続
- Windows XP の場合
  - USB 接続、パラレル接続
- Windows Vista の場合
  - USB 接続、パラレル接続
- Windows Server 2003/2003 R2 の場合
  - USB 接続、パラレル接続
- Windows NT 4.0 の場合
  - パラレル接続

補足

- 接続方法ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用の接続方法の記載を確認してください。

参照

- P.42 「USB 接続」
- P.50 「パラレル接続」

Ridoc IO Navi ポートを使う

ここでは Ridoc IO Navi を使用する場合の方法を説明します。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- Ridoc IO Navi ポートを使う場合、プリンタードライバーをインストールする前に Ridoc Desk Navigator Lt をインストールします。
- Ridoc Desk Navigator Lt をインストールすると、同時に Ridoc IO Navi もインストールされます。

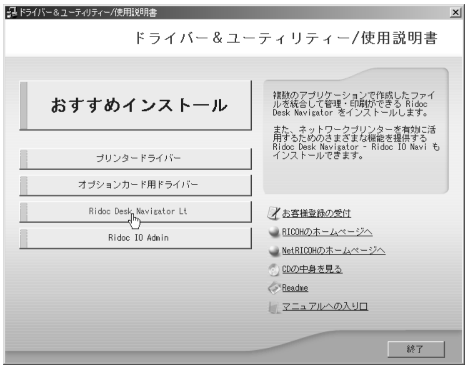
Ridoc Desk Navigator Lt のインストール

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

3 [Ridoc Desk Navigator Lt] をクリックします。



Ridoc Desk Navigator Lt のインストーラーが起動します。

4 [Ridoc Desk Navigator Lt] をクリックします。

ダイアログが表示されます。内容の確認をしたあと、[はい] をクリックします。

5 Ridoc Desk Navigator Lt のセットアップ画面が表示されます。[次へ] をクリックします。

6 [使用許諾契約] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。

7 **ユーザー名、会社名を入力し、[次へ] をクリックします。**

8 **[フルインストール]、[カスタムインストール] または [Ridoc IO Navi のみインストール] をクリックします。**

9 **表示されるメッセージに従って Ridoc IO Navi をインストールします。**

インストールが完了するとメッセージが表示されます。

10 **[完了] をクリックします。**

「Windows の再起動」ダイアログが表示されます。Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

プリンタードライバーのインストール（TCP/IP）

TCP/IP を使用する場合のインストール方法です。

重要

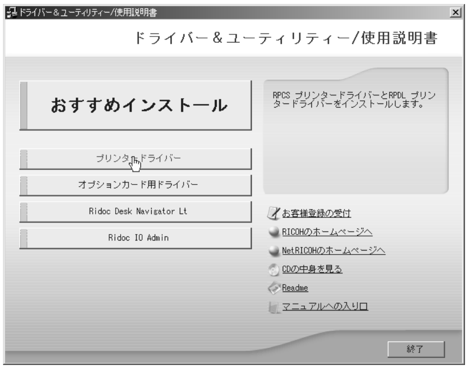
- ご使用のOSがWindows 2000、Windows XP Professional、Windows　Vista、またはWindows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたはPowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD- ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

3 **［プリンタードライバー］をクリックします。**



4 **［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、［次へ］をクリックします。**

5 **［コンポーネントの選択］ダイアログで、使用するプリンタードライバーをチェックし、［次へ］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 **［プリンタードライバーの導入］ダイアログの使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

［コメント :］、［ドライバー :］、［ポート :］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 **［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。**

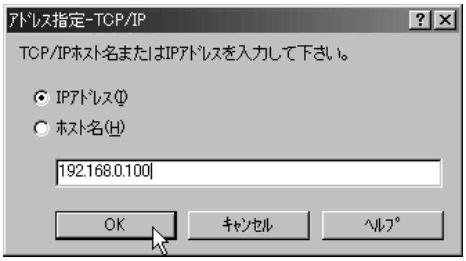
8 「Ridoc IO Navi」を選択し、[OK] をクリックします。



9 [TCP/IP] をクリックします。

10 [機器検索] をクリックします。

TCP/IP プロトコルで印刷可能なプリンターが検索され、一覧表示されます。
コンピューターからのブロードキャストに応答したプリンターだけが表示されます。表示されないプリンターに印刷するときは、[アドレス指定] をクリックし、本機のアドレスまたはホスト名を直接入力してください。



11 印刷するプリンターをクリックして選択します。

12 [OK] をクリックします。

ポートの追加ダイアログが閉じます。

13 [ポート :]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

14 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

15 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

16 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

17 [コンポーネントの選択] ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

18 ［導入完了］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Admin で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

プリンタードライバーのインストール（IPP）

IPP を使用する場合のインストール方法です。

重要

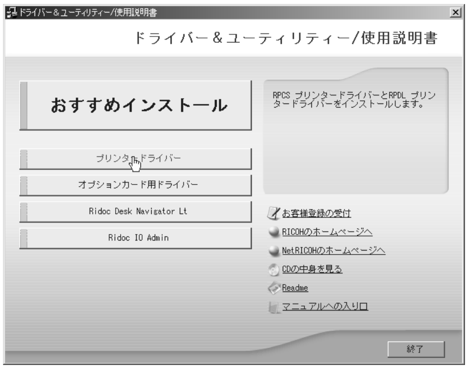
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、または Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators グループまたは PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

3 ［プリンタードライバー］をクリックします。



4 **［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、［次へ］をクリックします。**

5 **［コンポーネントの選択］ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 **［プリンタードライバーの導入］ダイアログの使用する［プリンタ名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 **［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。**

8 **「Ridoc IO Navi」を選択し、［OK］をクリックします。**



9 **［IPP］をクリックします。**

［IPP の設定］ダイアログが表示されます。

10 **［プリンタの URL］に「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/printer」のように入力します。**

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。

［プリンタの URL］には「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/ipp 」のように入力することもできます。

11 **必要に応じて［IPP ポート名］にプリンターを区別するための名前を入力します。すでにある他の IPP ポート名と違う名前を入力してください。**

入力を省略すると、［プリンタの URL］に入力したアドレスが IPP ポート名に設定されます。

12 **プロキシサーバーや IPP ユーザー名などの設定を行う場合は、［詳細設定］をクリックし、必要な項目を設定し、［OK］をクリックします。**

詳しい設定項目については、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

13 ［OK］をクリックします。

ポートの追加ダイアログが閉じます。

14 ［ポート :］に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

15 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

16 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

17 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、［完了］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

18 ［コンポーネントの選択］ダイアログに戻り、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

19 ［導入完了］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Admin で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Ridoc IO Navi ポートの設定を変更する

代行印刷や並行印刷、プリンタグループなど、Ridoc IO Navi の設定を変更することができます。

■Windows 95/98/Me の場合

1. ［プリンタ］ウィンドウを表示します。
2. 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。
3. ［詳細］タブをクリックし、［ポートの設定］をクリックします。
   ポートの設定画面が表示されます。

■Windows 2000/Windows NT 4.0 の場合

1. ［プリンタ］ウィンドウを表示します。
2. 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。
3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。
   ポートの設定画面が表示されます。

■Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1. ［プリンタと FAX］ウィンドウを表示します。
2. 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。
3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。
   ポートの設定画面が表示されます。

■Windows Vista の場合

1. ［プリンタ］ウィンドウを表示します。
2. 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、右クリックして表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。
3. ［ポート］タブをクリックし、［ポートの構成］をクリックします。
   ポートの設定画面が表示されます。

補足

- 印刷通知、代行印刷 / 並行印刷の設定は拡張機能設定でおこないます。設定は使用するRidoc IO Navi ポートすべてに有効となります。Ridoc IO Navi を起動し、タスクトレイのRidoc IO Navi アイコンを右クリックして［拡張機能設定］を選択してください。
- ［代行印刷 / 並行印刷］はポート毎に設定できます。Ridoc IO Navi を起動し、タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックして［拡張機能設定］を選択し、［代行 / 並行印刷をポート毎に設定する］にチェックを付けます。
- IPP の場合、IPP ユーザー設定、プロキシ設定、タイムアウト設定ができます。
- 設定方法の詳細は、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

1

Standard TCP/IP ポートを使う

Standard TCP/IP ポートを使用する場合のインストール方法です。

重要

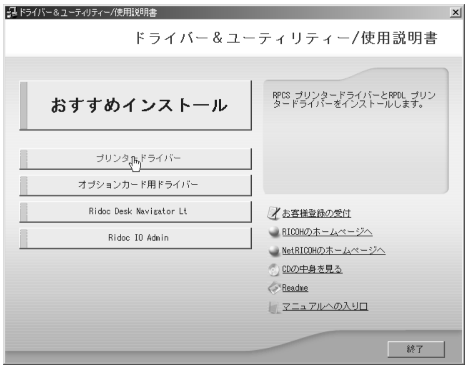
- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

3 ［プリンタードライバー］をクリックします。



4 ［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、［次へ］をクリックします。

5 ［コンポーネントの選択］ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 ［プリンタードライバーの導入］ダイアログの使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

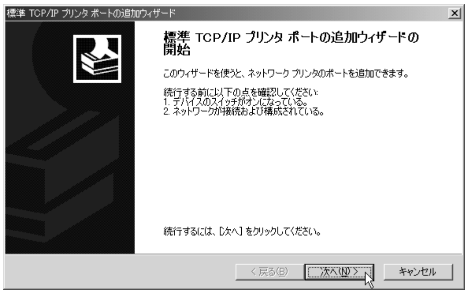
7 ［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。

8 「Standard TCP/IP Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「Standard TCP/IP Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して Standard TCP/IP の設定をしてください。

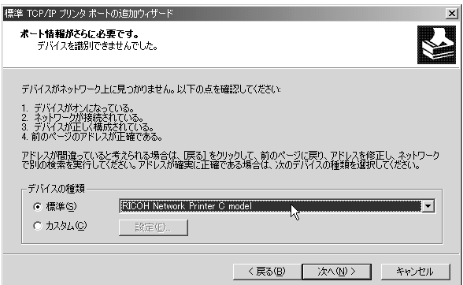
9 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザードの開始」画面で、[次へ] をクリックします。



10 [プリンタ名または IP アドレス]ボックスにプリンター名または本機のアドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

[ポート名] ボックスには自動的にポート名が入力されます。必要があれば変更してください。

デバイスの種類を選択する画面が表示された場合は、「RICOH NetworkPrinter C Model」を選択してください。



11 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザードの完了」の画面で、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーの導入画面に戻ります。

12 [ポート :]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

1

13 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

14 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

15 ［完了］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

16 ［コンポーネントの選択］ダイアログが表示された場合は、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

17 ［導入完了］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Admin で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

LPR ポートを使う

LPR ポートを使用する場合のインストール方法です。

重要

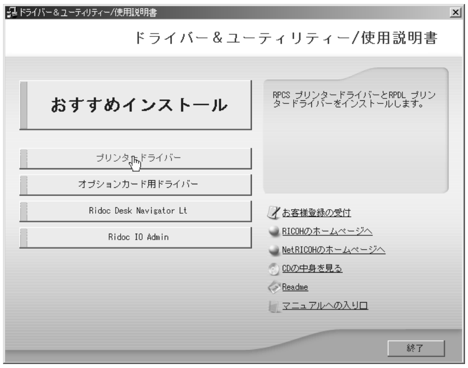
- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、または Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

3 **[プリンタードライバー] をクリックします。**



4 **[使用許諾] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。**

5 **[コンポーネントの選択] ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。**

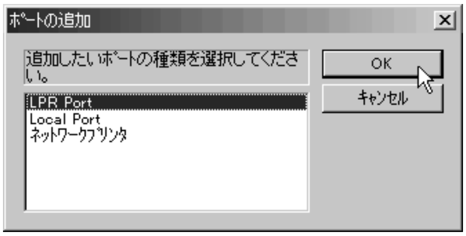
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 **[プリンタードライバーの導入] ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

[コメント :]、[ドライバ :]、[ポート :] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 **[ポート :] を選択し、[追加] をクリックします。**

8 「LPR Port」を選択し、［OK］をクリックします。



「LPR Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して組み込んでください。

9 [lpd を提供しているサーバーの名前またはアドレス] ボックスに、本機のアドレスを入力します。

10 ［サーバーのプリンタ名またはプリンタキュー名］ボックスに「lp」と入力し、［OK］をクリックします。

ポートが追加されます。

11 [ポート :] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、［完了］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

15 ［コンポーネントの選択］ダイアログに戻り、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

16 ［導入完了］ダイアログが表示された場合は、［完了］をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Admin で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows ネットワークプリンターを使う

Windows ネットワークプリンターを使う場合は、プリンタードライバーを「ネットワークプリンタ」を指定してインストールし、Windows ネットワーク上の共有プリンターを選択します。

重要

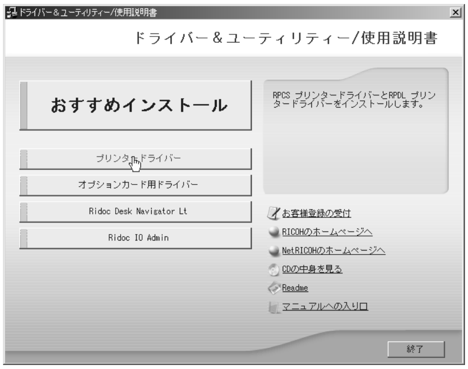
- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- Ridoc IO Navi ポートで本機を接続しているネットワークプリンターをご使用の場合、クライアントからの代行印刷、並行印刷を行うことはできません。
- Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 の共有プリンターの場合、クライアントに印刷通知が行われない場合があります。
- 共有プリンターが Windows NT 4.0 の場合は、共有プリンターに接続する前にプリンタードライバーをインストールしておいてください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

3 **［プリンタードライバー］をクリックします。**



4 **［使用許諾］ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、［次へ］をクリックします。**

5 **［コンポーネントの選択］ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 ［プリンタードライバーの導入］ダイアログの使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 ［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。

8 ［ネットワークプリンター］を選択し、［OK］をクリックします。



9 ネットワークツリー上で、プリントサーバーとして使用するコンピューターの名前をダブルクリックします。

10 印刷するプリンターを選択し、［OK］をクリックします。

11 ［ポート :］に選択したプリンターのパスが表示されていることを確認します。

12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、［完了］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

15 ［導入完了］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Admin で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。
- Windows ネットワークプリンターが正しく設定されていないと、インストールを続けることができません。インストールをキャンセルしてから、「Windows ネットワークプリンターを設定する」を参照して Windows ネットワークプリンターを設定してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」
- P.245 「Windows ネットワークプリンターを設定する」

NetWare プリントサーバー、リモートプリンターを使う

WindowsをNetWareのクライアントとして使用する場合のセットアップ方法を説明します。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- IPv6 の環境では、NetWare は使用できません。

NetWare のファイルサーバーにログインした状態で操作してください。操作例は次の条件で設定しています。

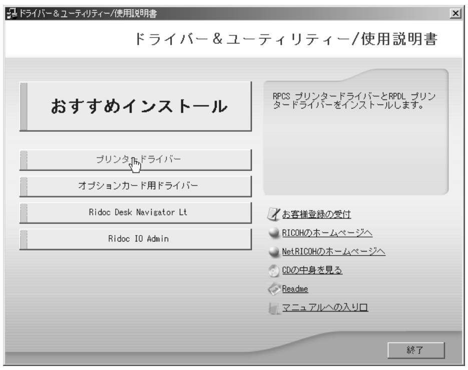
- OS：Windows 98
- NetWare のバージョン：4.1J
- ファイルサーバーの名前：CAREE
- キューの名前：R-QUEUE

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

3 **[プリンタードライバー] をクリックします。**



4 **[使用許諾] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。**

5 **[コンポーネントの選択] ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

1

6 **［プリンタードライバーの導入］ダイアログの使用する［プリンター名］をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

［コメント：］、［ドライバ：］、［ポート：］は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 **［ポート :］を選択し、［追加］をクリックします。**

8 **［ネットワークプリンタ］を選択し、［OK］をクリックします。**



9 **ネットワークツリー上で、NetWareのファイルサーバーの名前をダブルクリックします。**



作成されているキューが展開されます。

10 **印刷するキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。**

11 **［ポート :］に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。**

12 **使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、［完了］をクリックします。**

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

13 ［コンポーネントの選択］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

14 ［導入完了］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

15 再起動後［プリンタ］ウィンドウからプリンターのプロパティを開きます。

16 ［プリンタ設定］タブ、または［NetWare 設定］タブをクリックします。

17 ［フォームフィード］と［バナーの使用］のチェックを両方とも外します。

Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているので、フォームフィード（用紙送り）を NetWare 上で設定する必要はありません。設定していると正しく印刷できない場合があります。

補足

- 本機の工場出荷時の設定はプロトコルが無効になっています。操作部、Web Image Monitor または、telnet で有効にしてください。
- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- プロトコルの設定方法については、「Web ブラウザを使う」または「telnet を使う」を参照してください。

参照

- P.159 「Web ブラウザを使う」
- P.192 「telnet を使う」

1

PostScript（Windows）で印刷するとき

PostScript 3 を含んだモジュールを使って PostScript 印刷するときは、次の設定をします。

1 ［プリンタ］ウィンドウ、または［プリンタと FAX］ウィンドウからプリンターのプロパティを開きます。

2 ［PostScript］タブをクリックします。

Windows 2000/XP/Vista または、Windows NT 4.0 をお使いの場合は、[デバイス設定] タブをクリックして、チェックを外す手順にお進みください。

3 ［詳細設定］をクリックします。

4 [ジョブの前に Ctrl+D を送信] と [ジョブの後に Ctrl+D を送信] のチェックを両方とも外し、［OK］をクリックします。

5 ［OK］をクリックし、プロパティを閉じます。

フォームフィードの設定

NetWare 上で用紙送り（フォームフィード）の設定をしないでください。Windows のプリンタードライバーで改ページの制御を行っているため、NetWare 上で設定する必要はありません。設定していると正しく印刷できない場合があります。
用紙送りをしないようにするには、使用している OS に応じて以下のように設定します。

- Windows 95/98/Me の場合は、プリンターのプロパティの [プリンタ設定] タブで [フォームフィード] のチェックを外します。
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows NT 4.0 の場合は、プリンターのプロパティの[NetWare設定]タブで[フォームフィード]のチェックを外します。

バナーページの設定

NetWare 上でバナーページの設定をしないでください。
バナーページを付けないようにするには、使用している OS に応じて以下のように設定します。

- Windows 95/98/Me の場合は、プリンターのプロパティの［プリンタ設定］タブで［バナーの使用］のチェックを外します。
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows NT 4.0 の場合は、プリンターのプロパティの［NetWare 設定］タブで［バナーの使用］のチェックを外します。

プリンターのリセット後に印刷するとき

リモートプリンターとして使用しているプリンターをリセットすると、プリンターは30〜40 秒後にいったんプリントサーバーから切断され、そのあと再び接続されます。リセット後、切断されるまでの間も印刷ジョブは受け付けられますが、このジョブは実際には廃棄されて印刷されないことがあります。これは NetWare の仕様によるものです。
プリンターをリモートプリンターとして使用していて、リセットした直後に印刷するときは、プリントサーバー上でプリンターのステータスが未接続になったことを確認するか、リセットしてから 2 分程度待って印刷してください。

USB 接続

ここでは、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、必要なドライバーをインストールする方法を説明します。
セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。

- OS 以外のソフトウェアが起動していない
- 印刷を行っていない

Windows Me と USB で接続する

重要

- Windows 95/98 は対応していません。Windows Me でご利用いただけます。
- Windows　Me をお使いの場合は、リコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）から USB Printing Support をダウンロードする必要があります。
- Windows 95/98/Me、Windows NT4.0 のプリンタードライバーは、2008 年 3 月 31 日をもってサポートを終了します。詳細はリコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）をご覧ください。

USB ケーブルを初めて使用する場合、プラグアンドプレイが働き、[新しいハードウェアの追加ウィザード］が表示されます。

1. **本機の電源が切れていることを確認します。**
2. **リコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）から USB Printing Support をダウンロードして、お使いのパソコンに保存します。**
   リコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）からお使いの機種に該当するページを検索して、Windows Me 用の USB Printing Support をダウンロードして保存します。保存先は、わかりやすい場所にしてください。
3. **本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。**
4. **本機の電源を入れます。**
   プラグアンドプレイが働き［新しいハードウェアの追加ウィザード］が表示されます。
5. **［ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）］を選択し、［次へ］をクリックします。**
6. **［検索場所の指定］にチェックを付け、［参照］をクリックします。**
   ［フォルダの参照］ダイアログが表示されます。
7. **リコーのホームページからダウンロードした USB Printing Support を保存した場所を選択し、［次へ］をクリックします。**

8 **表示されている［ドライバのある場所］を確認し、［次へ］をクリックします。**

USB Printing Support がインストールされ、メッセージが表示されます。

9 **［完了］をクリックします。**

ご使用の機器のプリンタードライバーがすでにインストールされている場合、プラグアンドプレイが働き、「USB001」を［印刷先のポート先］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

10 **続いてプリンタードライバーをインストールします。［ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）］を選択し、［次へ］をクリックします。**

11 **［検索場所の指定］にチェックを付け、［参照］をクリックします。**

［フォルダの参照］ダイアログが表示されます。

12 **パソコンの CD-ROM ドライブに同梱の CD-ROM を挿入します**

オートランでインストーラーが起動しますので、［終了］をクリックしてください。

13 **プリンタードライバーの場所を選択し、［次へ］をクリックします。**

プリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥RPCS¥WIN9X_ME」です。

14 **表示されている［ドライバのある場所］を確認し、［次へ］をクリックします。**

プリンタの追加ウィザードが表示されます。

15 **［完了］をクリックします。**

プリンタードライバーがインストールされます。インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷先のポート先］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

- 「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- USB Printing Support をインストール後に別のプリンターを USB インターフェースで接続する場合、あらためて USB Printing Support をインストールする必要はありません。
- プリンタードライバーをインストールしていない場合は、USB Printing Support のインストールに続き、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、プリンタードライバーをインストールします。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows 2000 と USB で接続する

Windows 2000 で、USB 接続をしてプリンタードライバーをインストールする方法です。

1

重要

- 管理者権限が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード]が表示され、Windows 2000 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。
ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が 表示され、[プリンタ]フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。
プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に 従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1. **本機の電源が切れていることを確認します。**
2. **本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。**
3. **本機の電源を入れます。**
   プラグアンドプレイが働き[新しいハードウェアの検出ウィザード]画面が表示されます。
4. **[次へ]をクリックします。**
5. **[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]をチェックし、[次へ]をクリックします。**
6. **[場所を指定]をチェックし、[次へ]をクリックします。**
7. **キーボードの左側の[Shift]キーを押しながら、本機の同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**
   パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の[Shift]キーを押し続けます。
   CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル]をクリックします。
8. **[参照]をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。**
   インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:¥ の場合は「D:¥DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1」です。
9. **[製造元のファイルのコピー元]にプリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[OK]をクリックします。**
10. **[次へ]をクリックします。**
11. **プリンタードライバーのインストールが開始されます。**
    インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい]または[続行]をクリックし、インストールを続行してください。

12 **［完了］をクリックします。**

インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷するポート］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

- 「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する

重要

- 管理者権限が必要です Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 **本機の電源が切れていることを確認します。**

2 **本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。**

3 **本機の電源を入れます。**

プラグアンドプレイが働き［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。

4 **［一覧または特定の場所からインストールする（推奨）］をチェックし、［次へ］をクリックします。**

5 **キーボードの左側の［Shift］キーを押しながら、本機の同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の［Shift］キーを押し続けます。
CD-ROM のオートランが起動した場合は、［キャンセル］をクリックします。

1

6 ［次の場所で最適のドライバを検索する］の［次の場所を含める］をチェックし、［参照］をクリックしてプリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROMドライブがD:¥の場合は「D:¥DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1」です。

7 プリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、［次へ］をクリックします。

8 プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoftのメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

9 ［完了］をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷先のポート先］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

- 「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROMからのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROMからのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows Vista と USB で接続する

重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、［プリンタ］フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。
プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

［新しいハードウェアが見つかりました］ダイアログが表示されます。

2 ［ドライバソフトウェアを検索してインストールします（推奨）］をクリックします。

［ユーザーアカウント制御］ダイアログが表示された場合は［続行］をクリックします。
［新しいハードウェアの検出］画面が表示され、本機に付属している CD-ROM の挿入を促すメッセージが表示されます。

3 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

自動的に検索が始まり、プリンタードライバーの一覧が表示されます。

4 本機の RPCS プリンタードライバーを選択し、［次へ］をクリックします。

インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、［このドライバソフトウェアをインストールします］をクリックします。

5 ［閉じる］をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷するポート］に指定したプリンターが［プリンタ］ウィンドウに作成されます。

補足

・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。

USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルを再接続し、接続した後電源を ON にしてください。
Windowsが自動的にUSB接続の設定をしてしまった。(「不明なポート」や「不明なデバイス」が表示される)	Windows のデバイスマネージャで、不明なデバイスを［ユニバーサル シリアル バス コントローラ］から削除してください。不明なデバイスは、アイコンに黄色の［！］がついたり、黄色の［？］がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようにご注意ください。 Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をお使いの場合、不明なデバイスはデバイスマネージャの［USB(Universal Serial Bus) コントローラ］に表示されます。 P.49 「「不明なデバイス」の削除手順」
Windows Me から接続できない。	Windows Me をお使いの場合は、最新ドライバーをリコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）から OS 別対応状況を確認し、必要なファイルをダウンロードしてインストールしてください。

■「不明なデバイス」の削除手順

1 Windows の［スタート］メニューから［設定]、[コントロールパネル］をクリックします。

コントロールパネル画面が表示されます。

2 ［システム］をダブルクリックします。

システムのプロパティ画面が表示されます。

3 ［ハードウェア］をクリックします。

4 ［デバイスマネージャ］をクリックします。

デバイスマネージャー画面が表示されます。

5 ［表示］メニューをクリックします。

メニューが表示されます。

6 ［非表示のデバイスの表示］をクリックします。

7 ［不明なデバイス］を右クリックし、[削除］をクリックします。

デバイスの削除の確認画面が表示されます。

8 ［OK］をクリックします。

9 デバイスマネージャー画面を閉じます。

システムのフロパティ画面に戻ります。

10 ［OK］をクリックします。

パラレル接続

プリンターをパラレル接続して使う場合は、プリンタードライバーを「ローカルポート」に指定してインストールします。

1

★重要

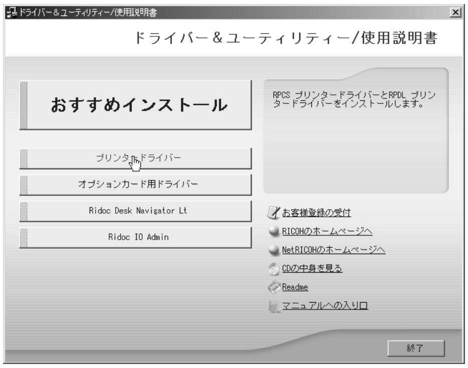
- ご使用の OS が Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、または Windows Server 2003/2003 R2 の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 **すべてのアプリケーションを終了します。**

2 **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

3 **[プリンタードライバー] をクリックします。**



4 **[使用許諾] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[次へ] をクリックします。**

5 **[コンポーネントの選択] ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。**

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 **[プリンタードライバーの導入] ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。**

[コメント：]、[ドライバ：]、[ポート：] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 **[ポート :] にプリンターを接続したポート（通常は、LPT1:）が設定されていることを確認します。**

8 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

［ユーザーコード :］をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

9 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、必要に応じて選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

10 ［完了］をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名がみつかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、［はい］または［続行］をクリックし、インストールを続行してください。

11 ［コンポーネントの選択］ダイアログに戻り、［完了］をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

12 ［導入完了］ダイアログが表示されたら、［完了］をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で［キャンセル］を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Ridoc IO Admin で確認できます。詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.52 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき

CD-ROM メニューの［おすすめインストール］を選択してインストールに失敗したときは、「Ridoc IO Navi ポートを使う」を参照して再度インストールしてください。CD-ROM メニューの［プリンタードライバー］を選択してもインストールに失敗したときは、以下の手順でインストールしてください。

Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows NT 4.0の場合

重要

- Windows 95/98/Me、Windows NT4.0 のプリンタードライバーは、2008 年 3 月 31 日をもってサポートを終了します。詳細はリコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）をご覧ください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。**

2 **［プリンタの追加］アイコンをダブルクリックします。**

3 **［プリンタの追加ウィザード］にしたがってインストールします。**

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥RPCS¥WIN9X_ME、¥¥DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XP、または ¥DRIVERS¥RPCS¥NT4 になります。インストーラーが起動したときは［キャンセル］をクリックして終了させます。

4 **ポートを設定します。**

手順はご使用のポートの記載を参照してください。

補足

- お使いの Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。「Windows の印刷ポートを使用する」でご確認ください。
- 最新版のドライバーをリコーホームページ（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）から入手できます。

参照

- P.15 「Windows の印刷ポートを使用する」
- P.19 「Ridoc IO Navi ポートを使う」
- P.28 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.31 「LPR ポートを使う」

Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。

2 ［プリンタの追加］をクリックします。

3 ［プリンタの追加ウィザード］にしたがってインストールします。

プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の ¥DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XP になります。インストーラーが起動したときは［キャンセル］をクリックして終了させます。

4 ポートを設定します。

手順はご使用のポートの記載を参照してください。

補足

- お使いの Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。「Windows の印刷ポートを使用する」でご確認ください。
- 最新版のドライバーをリコーホームページ（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）から入手できます。

参照

- P.15 「Windows の印刷ポートを使用する」
- P.19 「Ridoc IO Navi ポートを使う」
- P.28 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.31 「LPR ポートを使う」

1

Windows XP Home Edition の場合

1 **スタートボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。**

2 **[プリンタとその他のハードウェア] をクリックします。**

3 **[プリンタと FAX] をクリックします。**

4 **[プリンタのインストール] をクリックします。**

5 **[プリンタの追加ウィザード] にしたがってインストールします。**

プリンタードライバーのディスクがCD-ROMの場合、RPCSのインストール元はCD-ROMの¥DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XPになります。インストーラーが起動したときは[キャンセル] をクリックして終了させます。

6 **ポートを設定します。**

手順はご使用のポートの記載を参照してください。

補足

- お使いの Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。「Windows の印刷ポートを使用する」でご確認ください。
- 最新版のドライバーをリコーホームページ（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）から入手できます。

参照

- P.15 「Windows の印刷ポートを使用する」
- P.19 「Ridoc IO Navi ポートを使う」
- P.28 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.31 「LPR ポートを使う」

Windows Vistaの場合

1 スタートボタンをクリックし、[コントロールパネル]をクリックします。

2 [ハードウェアとサウンド]から[プリンタ]をクリックします。

3 [プリンタのインストール]をクリックします。

4 [プリンタの追加]にしたがってインストールします。

プリンタードライバーのディスクがCD-ROMの場合、RPCSのインストール元はCD-ROMの¥DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XPになります。インストーラーが起動したときは[キャンセル]をクリックして終了させます。

5 ポートを設定します。

補足

- お使いのWindowsとインターフェースによって、使用できるポートが異なります。詳しくは、『プリンター機能編』「印刷するための準備」を参照してください。
- 最新版のドライバーをリコーホームページ（http://www.ricoh.co.jp/download/index.html）から入手できます。

参照

- P.15 「Windowsの印刷ポートを使用する」
- P.19 「Ridoc IO Naviポートを使う」
- P.28 「Standard TCP/IPポートを使う」
- P.31 「LPRポートを使う」

オプション構成の設定

双方向通信が働いていない場合は、本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定してください。

補足

- 本体オプションを設定する方法は、「双方向通信が働かない場合」を参照してください。

双方向通信が働く条件

双方向通信が働いていると、本機にセットされている用紙サイズなどの情報が自動的にパソコンに伝わります。またパソコン側からも本機の状態を確認することができます。双方向通信が働く条件についての説明です。

♦ ネットワーク接続の場合

- Ridoc IO Naviがインストールされている、または標準 TCP/IPポートが使用されている。
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 では、RPCS ドライバーの［ポート］タブにある［双方向サポートを有効にする］が選択されており、［プリンタプールを有効にする］が選択されていない。

標準 TCP/IP ポートを使用しない場合、上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- Ridoc IO Navi ポートを使用し、プロトコルに TCP/IP を使用している。
- Microsoft TCP/IP 印刷で IP アドレスを指定して使っている。（Windows NT 4.0 の場合）
- IPP プロトコル使用時に、ポート名に IP アドレスを含んでいる。

♦ ローカル接続の場合

- パソコンが双方向通信に対応している。
- プリンターのプロパティで双方向通信が可能な設定になっている。

上記２つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- 本機のパラレルコネクターとパソコンのパラレルコネクターが、双方向通信に対応したインターフェースケーブルで接続されている。
- 本機の USB インターフェースコネクターとパソコンの USB コネクターが、USB ケーブルで接続されている（Windows Me/2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 の場合）。

補足

- Ridoc IO Navi は本機に同梱の CD-ROM からインストールしてください。

双方向通信が働かない場合

双方向通信が働かない場合は、手動で本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定します。

重要

- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 の場合、[プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- Windows NT 4.0 の場合、[プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 [プリンター] ウィンドウを開きます。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は [プリンタと FAX] ウィンドウを開きます。

Windows Vista の場合は、[ハードウェアとサウンド] から [プリンタ] ウィンドウを開きます。

2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

インストール後最初にプリンターのプロパティを表示する場合、または装着しているオプションを設定していない場合は、オプション設定を促す画面が表示されます。[OK] をクリックします。

3 [オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブをクリックします。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブの項目がグレー表示になっていて選択できないときは、双方向通信が働いています。このときオプションの設定は必要ありません。

4 [オプション選択：] ボックスで、取り付けたオプションにチェックを付けます。

5 SDRAM モジュールを増設した場合は、[トータルメモリー：] で増設後の合計メモリー容量を選択し、[OK] をクリックします。

6 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、「ファイル」メニューの [印刷設定] をクリックします。

7 「基本」タブの [給紙トレイ：] で設定するトレイを選択し、[原稿サイズ：]・[原稿方向]・[用紙種類] を正しく設定します。

8 [OK] をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。

[初期設定] タブをクリックして [オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] をクリックすると、オプション選択の画面が表示され ます。

メモリー容量と用紙サイズ

本機に搭載されているメモリー容量による、印刷可能な解像度と用紙サイズについての説明です。

補足

- システム設定メニューの「優先メモリー」で、「ページメモリー」か「ユーザーメモリー」の選択によって 印刷できる用紙サイズが違います。
- 手差しトレイから印刷する場合は、メモリー容量にかかわらず両面印刷の指示は解除され、片面のみに印刷されます。

片面印刷（600 dpi × 600 dpi）の場合

ページメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙に印刷できます。
- 長尺では、ほとんどの画像で片面印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）、長尺の用紙に印刷できます。

ユーザーメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）の用紙に印刷できます。
- 長尺では、ほとんどの画像で片面印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（$8^1/_2$ × 14）、Letter（$8^1/_2$ × 11）、長尺の用紙に印刷できます。

片面印刷（600 dpi × 1200 dpi）の場合

ページメモリーを優先している場合

重要

・長尺紙を使用する場合、片面印刷（600 dpi × 1200 dpi）の設定で印刷を行うと画像が乱れる場合があります。長尺紙を使用する場合は片面印刷（600 dpi × 600 dpi）での印刷を推奨します。

♦ 256 MB（標準）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（8 $^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8 $^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。
- 長尺では、ほとんどの画像で片面印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（8 $^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8 $^{1}/_{2}$ × 11）、長尺の用紙に印刷できます。

ユーザーメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（8 $^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8 $^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。
- 長尺では、ほとんどの画像で片面印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、A6、郵便はがき、往復はがき、Legal（8 $^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8 $^{1}/_{2}$ × 11）、長尺の用紙に印刷できます。

両面印刷（600 dpi × 600 dpi）の場合

ページメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）、512（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、Legal（8$^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8$^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。

ユーザーメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）、512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、Legal（8$^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8$^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。

両面印刷（600 dpi × 1200 dpi）の場合

ページメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）

- A4、B5、A5、Letter（8$^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。
- A3、B4、Legal（8$^{1}/_{2}$ × 14）では、ほとんどの画像で両面印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、Legal（8$^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8$^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。

ユーザーメモリーを優先している場合

♦ 256 MB（標準）

- A4、B5、A5、Letter（8$^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。
- A3、B4、Legal（8$^{1}/_{2}$ × 14）では、ほとんどの画像で両面印刷が可能です。

♦ 512 MB（標準 256＋ オプションの SDRAM）

- A3、B4、A4、B5、A5、Legal（8$^{1}/_{2}$ × 14）、Letter（8$^{1}/_{2}$ × 11）の用紙に印刷できます。

2. プリンタードライバー画面と設定方法

プリンタードライバー画面の説明と、設定方法についての説明です。

2 種類の操作画面

プリンタードライバーの設定画面は「機能別ウィンドウ」と「ワンクリック設定」の２つの表示タイプがあります。
本書では「機能別ウィンドウ」の画面例を使用しています。表示タイプの切り替え方について詳しくはヘルプの「プリンタードライバーのウィンドウタイプを切り替える」を参照してください。

♦ **機能別ウィンドウ**

印刷のたびに設定を変更することが多く、さまざまな印刷をする方に向いているウィンドウタイプです。



♦ **ワンクリック設定**

あまり印刷条件を変えず、いつも決まった印刷のしかたをする方に向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定の表示はオプションの装着状態によって変化することがあります。

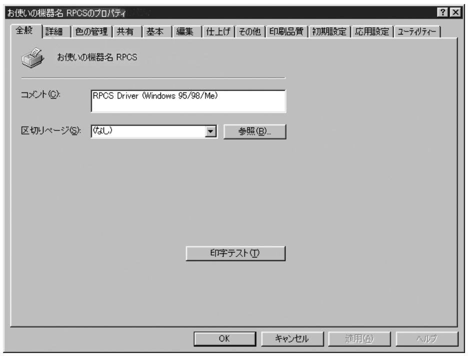
Windows 95/98/Me の場合

Windows 95/98/Me には、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法が２種類あります。

Windows 95/98/Me で［プリンタ］ウィンドウからプロパティを表示する

アプリケーションから印刷するときの初期値を設定できます。

[プリンタ] ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、[全般] または [詳細]、[色の管理]、[共有]、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[応用設定]［ユーティリティー］タブが表示されます。



［全般］または［詳細]、[色の管理]、[共有］タブは Windows 95/98/Me が追加するタブで、Windows 95/98/Me の機能に関する設定を行います。ただし、Windows 95 をお使いの場合、［色の管理］タブは表示されません。

[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[応用設定]、[ユーティリティー］タブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するときの設定の初期値になります。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。**

2 **初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

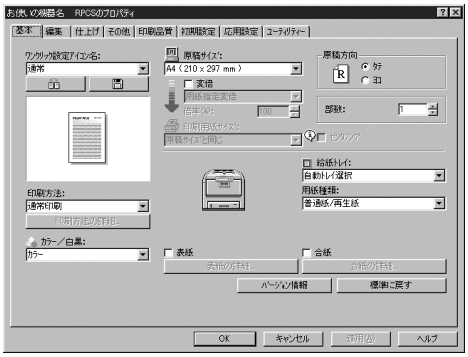
プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows 95/98/Me でアプリケーションからプロパティを表示する

アプリケーションから、プリンタードライバーの設定画面を表示させせると、印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をします。
アプリケーションからプリンターのプロパティを表示させせると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[応用設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



[プリンタ] ウィンドウから表示させたプリンターのプロパティで設定した内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
ここでは Windows 98 に付属の「ワードパッド」を例に説明します。
実際の表示の手順はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。

1 [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

[印刷] ダイアログが表示されます。印刷部数や印刷範囲など基本的な項目は、このダイアログで指定できます。

2 [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows 2000 の場合

Windows 2000 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

Windows 2000 で［プリンタ］ウィンドウからプロパティを表示する

2

［プリンタ］ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または Power Users グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタ］ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更／給紙トレイ設定]、[応用設定］タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ］タブは Windows 2000 が追加するタブで、Windows 2000 の機能に関する設定を行います。
[オプション構成の変更]、[応用設定］タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。**

2 **初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows 2000 で［プリンタ］ウィンドウから印刷設定を表示する

［プリンタ］ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

重要

- 印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタ］ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー］タブが表示されます。



[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質］タブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。**

2 **初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［印刷設定］をクリックします。**

印刷設定が表示されます。

補足

- ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

2

Windows 2000 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows 2000 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。
アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[全般]、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー]タブが表示されます。



[全般]タブは Windows 2000 が追加するタブで、Windows 2000 の機能に関する設定を行います。
[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]タブには[プリンタ]ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows 2000 に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 [ファイル]メニューの[印刷]をクリックします。

[印刷]ダイアログが表示されます。
印刷部数や印刷範囲など基本的な項目は、プリンターのプロパティを開かなくても、このダイアログで指定できます。

2 プリンターを選択し、右クリックして[プロパティ]をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の手順はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの[印刷]ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

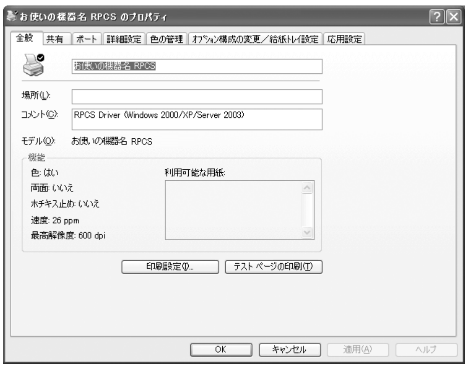
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で［プリンタと FAX］ウィンドウからプロパティを表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

重要

- Windows XP ProfessionalおよびWindows Server 2003/2003 R2でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または Power Users グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタと FAX］ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、Windows XP では［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［オプション構成の変更／給紙トレイ設定］、［応用設定］タブが表示されます。
Windows Server 2003/2003 R2 では［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］、［オプション構成の変更／給紙トレイ設定］、［応用設定］タブが表示されます。



［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］タブは Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 が追加するタブで、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の機能に関する設定を行います。
［オプション構成の変更／給紙トレイ設定］、［応用設定］タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

1 タスクバーの［スタート］ボタンから、［プリンタと FAX］ウィンドウを表示します。

2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で［プリンタと FAX］ウィンドウから印刷設定を表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

重要

- 印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタと FAX］ウィンドウから印刷設定を表示させると、［基本］、［編集］、［仕上げ］、［その他］、［印刷品質］、［初期設定］、［ユーティリティー］タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

1 タスクバーの［スタート］ボタンから、［プリンタと FAX］ウィンドウを表示します。

2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［印刷設定］をクリックします。

印刷設定が表示されます。

補足

- ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。
アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー］タブが表示されます。



これらのタブには［プリンタと FAX］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 ［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。

2 プリンターを選択し、[詳細設定］をクリックします。

［印刷設定］ダイアログが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの［印刷］ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows Vista の場合

Windows Vista で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

Windows Vista で［プリンタ］ウィンドウからプロパティを表示する

2

［プリンタ］ウィンドウから、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

Windows Vista では［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］、［オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定］、［応用設定］タブが表示されます。



［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］タブは Windows Vista が追加するタブで、Windows Vista の機能に関する設定を行います。

［オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定］、［応用設定］タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

1 **タスクバーのスタートボタンから、［コントロールパネル］ウィンドウを表示します。**

2 **［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］をクリックします。**

3 **初期値を設定するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックします。**

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- 設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows Vista で［プリンタ］ウィンドウから印刷設定を表示する

2

［プリンタ］ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

重要

- 印刷設定（ドキュメントプロパティ）は、設定項目によって動作が異なります。プリンタードライバーごとやプリンターアイコンごと、プリンターアイコンごとのユーザーごとに、それぞれの設定を保持できる設定項目があります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタ］ウィンドウから印刷設定を表示させると、［基本］、［編集］、［仕上げ］、［その他］、［印刷品質］、［初期設定］、［ユーティリティー］タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

1 **タスクバーのスタートボタンから、［コントロールパネル］ウィンドウを表示します。**

2 **［ハードウェアとサウンド］カテゴリーの中から、［プリンタ］をクリックします。**

3 **初期値を設定するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［印刷設定］をクリックします。**

印刷設定が表示されます。

補足

- ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows Vista でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows Vista で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。
アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー]タブが表示されます。



これらのタブには［プリンタ］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows Vista に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 ［ファイル］メニューの［印刷］をクリックします。

2 本機を選択し、［詳細設定］をクリックします。

［印刷設定］ダイアログが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳しくは、アプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの［印刷］ダイアログから表示したプロパティは、標準ユーザーでも変更することができます。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows NT 4.0 の場合

Windows NT 4.0 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

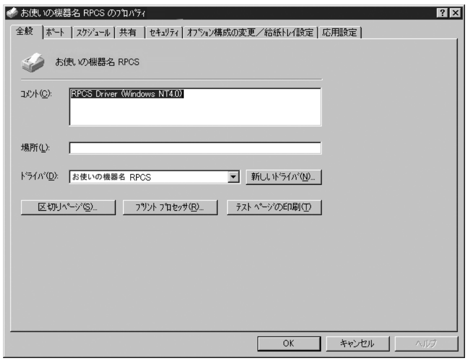
Windows NT 4.0 で［プリンタ］ウィンドウからプロパティ表示する

［プリンタ］ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するには「フルコントロール」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または Power Users グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタ］ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、［全般］、［ポート］、［スケジュール］、［共有］、［セキュリティ］、［オプション構成の変更／給紙トレイ設定］、［応用設定］タブが表示されます。



［全般］、［ポート］、［スケジュール］、［共有］、［セキュリティ］タブは Windows NT 4.0 が追加するタブで、Windows NT 4.0 の機能に関する設定を行います。

［オプション構成の変更／給紙トレイ設定］、［応用設定］タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。**

2 **初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。**

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows NT 4.0 で［プリンタ］ウィンドウからドキュメントの既定値を表示する

［プリンタ］ウィンドウのドキュメントの既定値から、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

重要

- ドキュメントの既定値の内容を変更するには「フルコントロール」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または Power Users グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ドキュメントの既定値をユーザーごとに変えることはできません。ドキュメントの既定値で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタ］ウィンドウからドキュメントの規定値を表示させせると、［基本］、［編集］、［仕上げ］、［その他］、［印刷品質］、［初期設定］、［ユーティリティー］タブが表示されます。



［基本］、［編集］、［仕上げ］、［その他］、［印刷品質］タブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するときの設定の初期値になります。

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［プリンタ］をクリックします。

2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［ドキュメントの既定値］をクリックします。

ドキュメントの既定値が表示されます。

補足

- ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows NT 4.0 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows NT 4.0 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。
アプリケーションからプリンターのプロパティを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



[プリンタ] ウィンドウから表示させたドキュメントの既定値の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。
印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows NT 4.0 に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 **[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。**
[印刷] ダイアログが表示されます。

2 **[プロパティ] をクリックします。**
プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- 印刷部数や印刷範囲など基本的な項目は、プリンターのプロパティを開かなくても、このダイアログで指定できます。
- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の手順はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの [印刷] ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。
- お使いの機器によっては、表示されないタブがあります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

3. いろいろな印刷

PDF ファイルの直接印刷、試し印刷、機密印刷、保留印刷、保存文書印刷、強制印刷や印刷の中止、およびソートなどの注意事項についての説明です。

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。

重要

- この機能は、オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードを装着しているときに使用できます。
- Adobe 純正の PDF のみ可能です。
- 対応している PDF ファイルのバージョンは、1.3、1.4、1.5 です。
- PDF バージョン 1.4 の固有機能である Transparency を使用した PDF ファイルは印刷できない場合があります。
- PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter、16bit イメージには対応していません。
- PDF バージョン 1.6 の固有機能を使用していない PDF ファイルは印刷できます。
- 当社の複合機のスキャナー機能で作成されたクリアライト PDF は印刷できない場合があります。

補足

- 不定形サイズの用紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

Ridoc Desk Navigator Lt を使用する

個人文書管理ソフト Ridoc Desk Navigator Lt に PDF ファイルを登録し、PDF ファイルを直接本機に送って印刷することができます。
PDF ダイレクトプリントの印刷条件は、PDF ダイレクトプリントのプロパティで設定できます。

重要

- RPCS プリンタードライバーがインストールされている必要があります。
- Ridoc Desk Navigator Lt をご使用の場合は、Port の設定をしてからご使用ください。

補足

- Ridoc Desk Navigator Lt がインストールされていると、プリンタードライバーがインストールされていない場合でも印刷することができます。
- 操作方法の詳細は、Ridoc Desk Navigator Lt のヘルプを参照してください。

参照

- P.78「Ridoc Desk Navigator Lt のインストール」

Ridoc Desk Navigator Lt のインストール

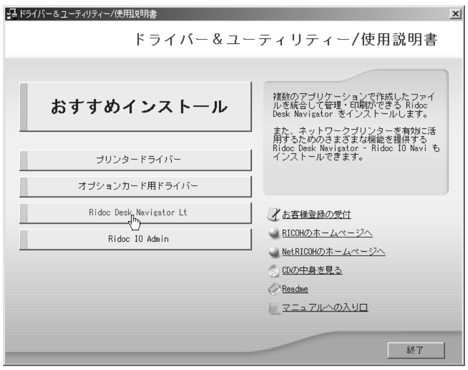
Ridoc Desk Navigator Lt のインストール方法は次のとおりです。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

3 ［Ridoc Desk Navigator Lt］をクリックします。



Ridoc Desk Navigator Lt のインストーラーが起動します。

4 ［Ridoc Desk Navigator Lt］ダイアログが表示されたら、［Ridoc Desk Navigator Lt］をクリックします。

確認の画面が表示されます。

5 ［はい］をクリックします。

6 表示されるメッセージに従って Ridoc Desk Navigator Lt をインストールします。

インストールが完了すると、完了画面が表示されます。

7 [完了] をクリックします。

8 [セットアップ終了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張について

ここでは PDF ファイルを直接印刷するために必要な Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張手順について説明します。

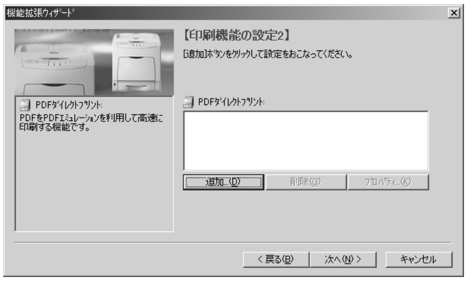
1 Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[RICOH Ridoc Desk Navigator]、[機能拡張ウィザード] をクリックします。

機能拡張ウィザード画面が表示されます。

2 [簡単設定] を選んで [設定の開始] をクリックし、「印刷機能の設定 2」画面が表示されるまで [次へ] をクリックします。

[全機能設定] を選んだ場合は、分類：から出力をクリックします。選択できる機能：の中から PDF ダイレクトプリントを選び、[追加] をクリックします。

3 「印刷機能の設定 2」画面で、[追加 ...] をクリックします。



PDF ダイレクトプリントのプロパティが表示されます。

4 プリンタ名を選んでから [OK] をクリックし、[完了] が表示されるまで [次へ] をクリックします。

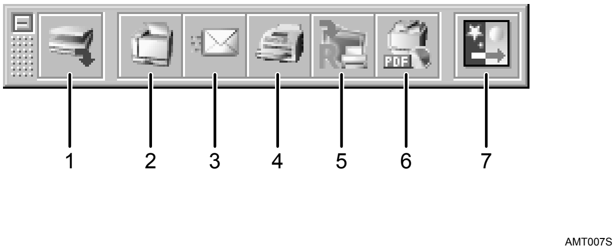
5 [完了] をクリックします。

6 「機能拡張ウィザードの終了」ダイアログが表示されます。

[OK] をクリックします。

Ridoc Function パレットについて

あらかじめ Ridoc Desk Navigator Lt の機能拡張で設定した機能が Ridoc Function パレットにボタンで表示され、Ridoc Desk Navigator Lt を起動することなく、Windows ファイルの印刷や印刷プレビューなどができます。また、これらの機能はパレットのボタンに対象ファイルをドラッグ＆ドロップするだけで使用することもできます。
弊社の複合機を含むネットワーク上では、本機のみでは使用できない機能のアイコンを同じパレットに表示させてご使用いただけます。



1 スキャン（本機のみの環境では使用できません）

2 印刷

3 メール送信（本機のみの環境では使用できません）

4 ファクス送信（本機のみの環境では使用できません）

5 Job Binder 保存（本機のみの環境では使用できません）

6 PDF ダイレクトプリント

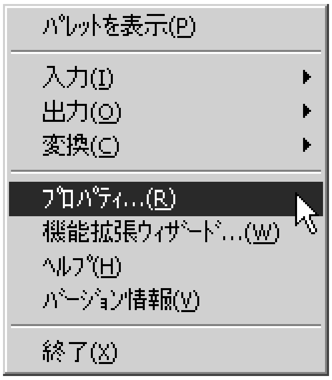
7 画像変換

1 **Windows の［スタート］メニューから［プログラム］、［RICOH Ridoc Desk Navigator］、［Ridoc Function パレット］をクリックします。**

右下のタスクトレイに、Ridoc Function パレットのアイコンが追加されます。



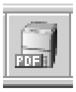
2 タスクトレイに表示されたアイコンを右クリックし、［プロパティ ...］をクリックします。



プロパティ画面が表示されます。

3 ［構成］タブをクリックし、中央に表示されるボックスから［PDF ダイレクトプリント］のチェックボックスにチェックして、［OK］をクリックします。

プロパティ画面が終了し、パレットに PDF ダイレクトプリントのアイコンが追加されます。



PDF ダイレクト印刷について

ここでは PDF ファイルの直接印刷の方法について説明します。

1 印刷したい PDF ファイルを、パレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。

出力ファイル一覧画面が表示されます。

2 出力したい PDF ファイルを選択し、反転させて [OK] をクリックします。

PDF ファイルが印刷されます。

PDF パスワード文書を印刷する

ここではパスワードで保護された PDF ファイルを印刷する場合の手順を説明します。

1 **Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[RICOH Ridoc Desk Navigator]、[機能拡張ウィザード] をクリックします。**

機能拡張ウィザード画面が表示されます。

2 **[設定の開始] をクリックし、「印刷機能の設定 2」画面が表示されるまで [次へ] をクリックします。**

3 **「印刷機能の設定 2」の画面で、[プロパティ] をクリックします。**

PDF ダイレクトプリントのプロパティが表示されます。

4 **画面右下の [PDF パスワードを使用する] のチェックボックスにチェックし、[OK] をクリックします。**



5 **[完了] が表示されるまで、[次へ] をクリックします。**

6 **[完了] をクリックします。**

7 **「機能拡張ウィザードの終了」ダイアログが表示されます。**

[OK] をクリックします。

8 **印刷したい PDF ファイルを、パレットの PDF ダイレクトプリントのアイコンにドラック＆ドロップします。**

出力ファイル一覧画面が表示されます。

9 **右下の[PDF パスワード]に印刷したい PDF のパスワードを入力し、[OK] をクリックします。**

パスワードで保護された PDF ファイルが印刷されます。

補足

- パスワードが設定されている PDF ファイルを印刷する場合、次の 2 つの設定のいずれかが必要です。
  - PDF ダイレクトプリントのプロパティで PDF パスワードを入力します。
  - 本機の[PDF設定]メニューから、[PDFパスワード変更]でPDFパスワードを設定します。
- Ridoc Desk Navigator Lt、または本機の［PDF 設定］メニューの［PDF グループパスワード］でグループパスワードを設定している場合は、もう一方にも同様のグループパスワードを設定する必要があります。

PDF ダイレクトプリントのプロパティについて



AZH141D

1 設定名
プラグインの設定名を表示します（半角英数字 63 文字までです）。

2 アイコン変更
ツールバーに表示されるアイコンを変更できます。

3 プリンタ名
PDF ダイレクトプリントに対応した RPCS ドライバー一覧が表示されます。

4 両面
両面印刷をする場合は、ここで指定します。

5 集約
集約印刷する場合は、ここで指定します。

6 パンチ（本機では選択できません）
出力した用紙にパンチする場合は、ここで指定します。

7 ステープル（本機では選択できません）
出力した用紙にステープルする場合は、ここで指定します。

8 印刷時にこの画面を表示する
チェックをつけた場合は、PDF ダイレクト印刷時にこの画面が表示されます。

9 原稿の向き
印刷する原稿の向きを指定します。

10 印刷部数
印刷部数を指定します。

11 ソート
ソート印刷をする場合は、ここで指定します。

12 ページ範囲
印刷する範囲をページ指定します。

13 印刷用紙サイズ
印刷する用紙のサイズを選択します。

14 カラー／白黒
カラー出力か白黒出力かを選択します。

15 解像度
印刷の解像度を選択します。

16 PDF パスワード
PDF ファイルがパスワードで保護されている場合は、ここにパスワードを入力します。パスワードを入力しないと、印刷できません。

17 グループパスワード
Ridoc Desk Navigator Lt と本機にグループパスワードが設定されている場合は、ここにグループパスワードを入力します。グループパスワードを入力しないと、印刷できません。

コマンドを使用する

UNIX から、ftp、lpr などのコマンドを使用して、PDF ファイルを直接印刷できます。

参照

・P.285 「セットアップ（UNIX）」

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の地紋と文字列を埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷は、「不正コピーガード機能」と「マスクパターン」により構成されています。

重要

- 不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
- この機能は、RPCS プリンタードライバーで使用できます。

不正コピーガード機能

プリンタードライバーで不正コピーガード用の地紋を埋め込んで、印刷することができます。

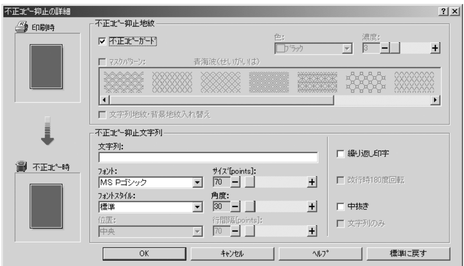
■不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

1 RPCS ドライバーの印刷設定で編集タブを表示させます。

2 [不正コピー抑止] にチェックをし、[詳細 ...] をクリックします。

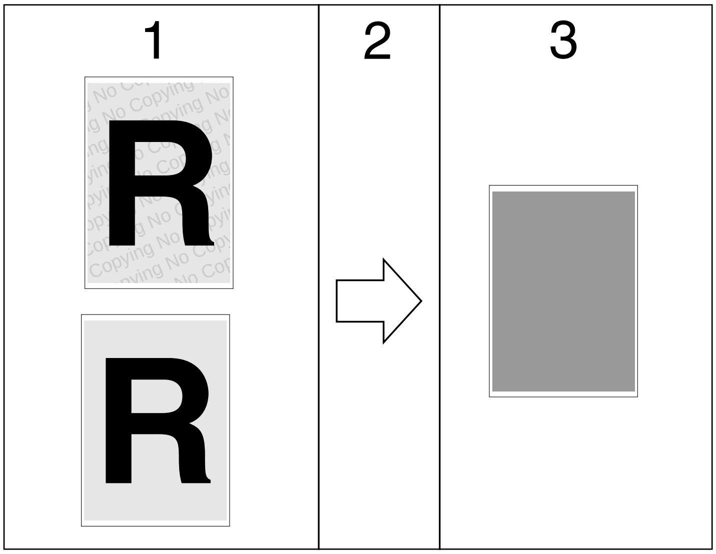
ダイアログが表示された場合は、[OK] をクリックします。

♦ 必要な設定項目



- [不正コピーガード] のチェックボックスにチェックを入れます。[文字列：] に、不正コピー抑止文字列を入力することもできます。
- [マスクパターン] を選択することはできません。

♦ 不正コピーガード機能を使って印刷された文書をコピーすると



AJO041

1 不正コピーガードを設定した文書を印刷すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。

2 当社の不正コピーガードモジュールが搭載された複写機／複合機を使って、コピーを行います。

3 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

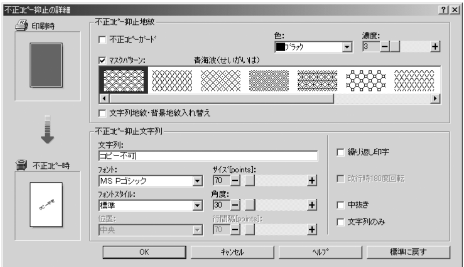
補足

- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70% 以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピー抑止の詳細」画面での詳しい設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 不正コピーガードモジュールは当社の複合機／複写機用のオプションです。本機には装着できません。

マスクパターン

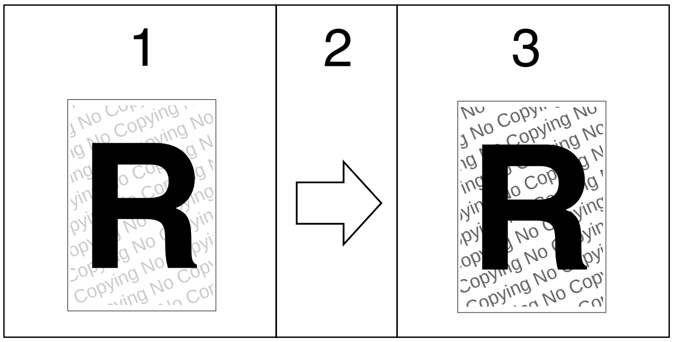
プリンタードライバーで不正コピー抑止地紋と不正コピー抑止文字列を設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

♦ 必要な設定項目



- ［マスクパターン：］で不正コピー抑止地紋を選択し、［文字列］で不正コピー抑止文字列を設定します。
- ［色 :］からブラック、マゼンタ、シアンのいずれかの色を設定します。
- ［文字列：］だけを設定することはできますが、［マスクパターン：］だけを設定することはできません。

♦ 不正コピー抑止印刷機能を使って印刷された文書をコピーすると



AJO040

1 不正コピー抑止印刷を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。

2 複写機／複合機を使って、コピーを行います。

3 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- 地紋効果は、コピー結果をすべて保証しているものではありません。またコピー結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピー抑止の詳細」画面での詳しい設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

おことわり

1) 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
2) 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

強制印刷する

印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致するトレイがないときや、本機にセットした用紙がなくなったときの操作について説明します。

重要

・表紙、合紙が設定されている場合は、トレイの変更はできません。

印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致するトレイがないときや、本機にセットした用紙がなくなったときは、操作部に警告画面が表示されます。

表示された画面の指示に従って、[強制排紙]キーを押し、トレイを選んで強制印刷をするか、[ジョブリセット]を押して印刷を中止してください。

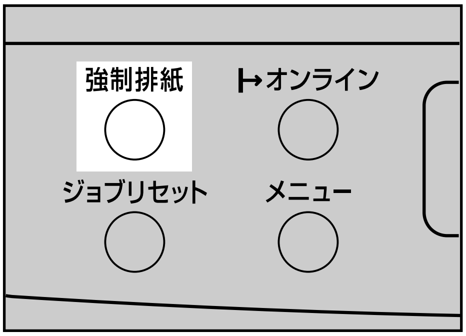
補足

・エラースキップの設定がされている場合は、設定時間経過後に、いずれかのトレイの用紙で印刷されます。

トレイを選んで印刷するとき

強制印刷で、トレイを選んで印刷する方法です。

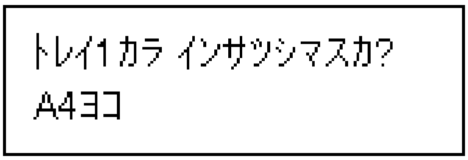
1 警告画面で[強制排紙]キーを押します。



AZH098S

確認画面が表示されます。

2 [▽][△]キーを押して印刷する用紙またはトレイを選択し、[OK]キーを押します。



選んだトレイで印刷されます。

用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

強制印刷を取り消す場合は、[戻る]キーを押します。

補足

- 用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機とパソコン両方から行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なりますので、状況を確認し、以下の手順で操作してください。

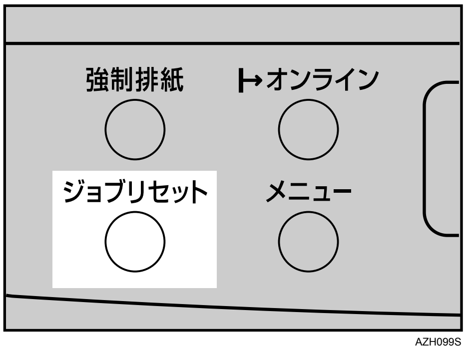
1 **印刷を中止したいデータが、現在本機から印刷されているか確認します。**
データが印刷されていなくてもデータインランプが点滅・点灯していれば、本機はデータを受信しています。

2 **印刷を中止します。**
データの印刷状況によって、次のいずれかの操作を行ってください。

中止したいデータが印刷されている場合

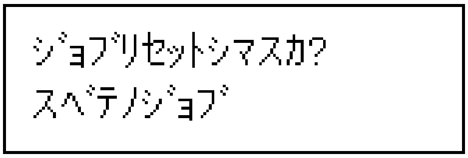
印刷を中止したいデータが印刷されている場合の、操作方法です。

1 **[ジョブリセット] キーを押します。**



確認画面が表示されます。

2 **[▽] [△] キーを押して、印刷されていたジョブのみを消去したい場合は [カレントジョブ] を、すべてのジョブを消去したい場合は [スベテノジョブ] を表示させ、[OK] キーを押します。**



印刷を継続したい場合は、[▽] [△] キーを押して [インサツケイゾク] を表示させ、[OK] キーを押します。

3 確認画面が表示されます。確認して、［OK］キーを押します。

```
ｽﾍﾞﾃﾉｼﾞｮﾌﾞｦ
ﾘｾｯﾄｼﾏｽｶ?
```

文書が消去されます。
消去を取り消すときは、［戻る］キーを押します。

補足

- 印刷を中止し、いったん印刷は中止されたにもかかわらず、データ途中から印刷が再び開始されるときは、「インターフェース設定」の［IF キリカエジカン］を長くしてください。
- 大容量データの印刷を中止したいときは、［ジョブリセット］キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

中止したいデータが印刷されていない場合

印刷を中止したいデータが、まだ印刷されていない場合の操作方法です。

1 Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。
印刷中のプリンターのウィンドウが開くので、印刷を中止する文書の状態を確認します。

2 印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。

3 ［ドキュメント］メニューの［印刷中止］または［キャンセル］をクリックします。
印刷が中止されます。

補足

- Windows 95/98/Me では［印刷中止］、Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 および Windows NT 4.0 では［キャンセル］をクリックします。
- Windows 95/98/Me では、［プリンタ］メニューの［印刷ドキュメントの削除］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、ネットワークプリンターとしてご使用の場合、他のユーザーのドキュメントをローカルのパソコンから削除することはできません。
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 では、［プリンタ］メニューの［すべてのドキュメントの取り消し］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、［すべてのドキュメントの取り消し］を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- Windows NT 4.0 では、［プリンタ］メニューの［印刷ドキュメントの削除］をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、［印刷ドキュメントの削除］を使って印刷を中止するには、「フルコントロール」のアクセス権が必要です。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

ソートについて

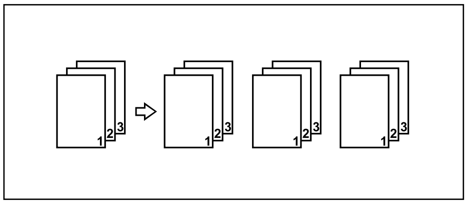
会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

補足

- ソート可能なページ数は、最大 150 ページです。

◆ ソート

1 部ずつそろえて印刷します。



補足

- 一部目でエラースキップが発生した場合は、ソートは解除されます。
- 一部目で強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

表紙について

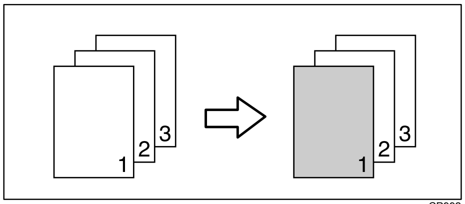
表紙用の用紙に印刷します。表紙には両面印刷することもできます。

重要

・ソートの設定が必要です。回転ソートの設定はできません。

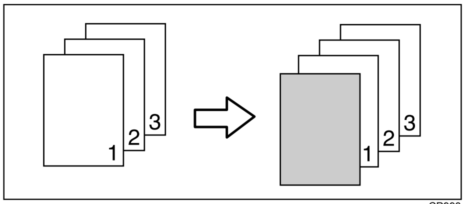
♦ 片面印刷の場合

・表紙用の用紙に印刷するとき



CP992

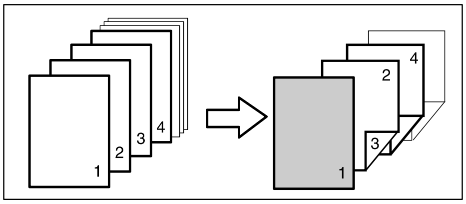
・表紙用の用紙に印刷しないとき



CP993

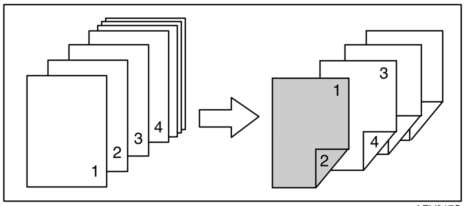
♦ 両面印刷の場合

・表紙用の用紙に片面印刷するとき



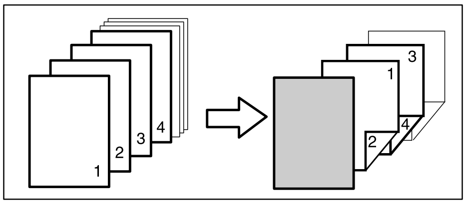
AGP008S

・表紙用の用紙に両面印刷するとき



AEV017S

・表紙用の用紙に印刷しないとき



AEV033S

補足

・表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。
・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

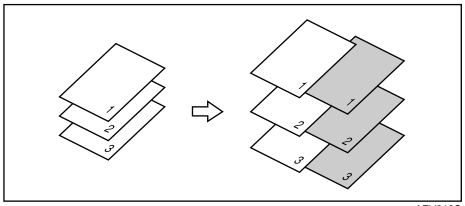
合紙について

ページごとに合紙を挿入します。

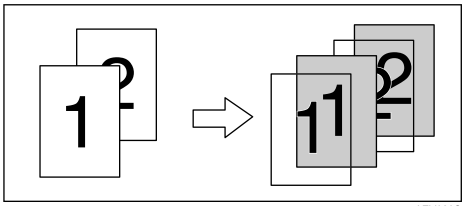
重要

- この機能は、オプションの 500 枚増設トレイが装着されている場合に使用できます。
- 両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。

♦ 合紙に印刷する

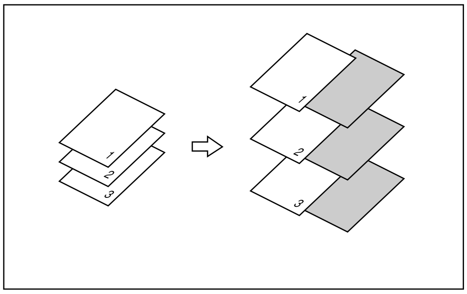


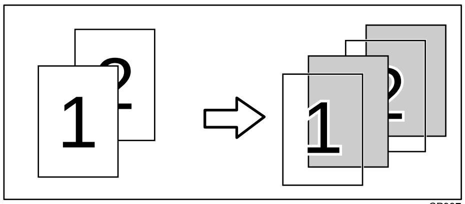
AEV019S



AEV020S

♦ 合紙に印刷しない





CP997

補足

- ソートは設定できません。

印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える

複数のパソコンでプリンターを共有している場合で、その中に DOS で印刷しているパソコンがあるときに使用する機能です。
通常、DOS から印刷するには、使用するアプリケーションに応じてプリンターのエミュレーションを設定しておく必要があります。印刷後のエミュレーションとして DOS から印刷するときのエミュレーション（または、プログラム）を選択しておくと、次の印刷が DOS からの場合でもエミュレーションを切り替えずに印刷することができます。

1 **アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの設定画面を表示します。**

2 **ウィンドウタイプとして「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能］タブで［アイコンの変更／新規作成］をクリックし、[その他］タブをクリックします。**

「機能別ウィンドウ」を選択しているときは、[その他］タブをクリックします。

3 **[印刷後のエミュレーション］ボックスのドロップダウンメニューからエミュレーションを選択します。**

Windows だけでお使いの場合は、[なし］または［直前のエミュレーション］を選択してください。[直前のエミュレーション］を選択すると、印刷前に設定されていたエミュレーションに戻ります。

4 **「ワンクリック設定」選択時は［名前をつけて保存］または［上書き保存］をクリックし、設定を保存します。**

5 **その他の印刷条件を必要に応じて指定し、[OK］をクリックします。**

プリンタードライバーの設定画面が閉じます。

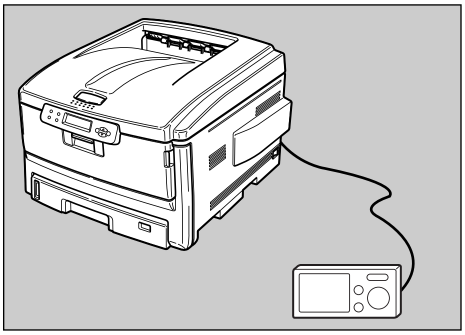
6 **印刷の指示をします。**

4. デジタルカメラから直接印刷する（PictBridge）

USB ホストボードとデジタルカメラ接続カードを装着することによって、デジタルカメラから直接印刷できます。

PictBridge とは？

本機と PictBridge 対応のデジタルカメラを USB ケーブルで接続し、デジタルカメラから操作を行うことで、撮影した画像を直接印刷することができます。



AZH087S

この機能を使用するためには、以下のオプションが搭載されている必要があります。

・USB ホストボード
・デジタルカメラ接続カード

補足

・お使いのデジタルカメラが、PictBridge 対応であることをご確認ください。PictBridge 対応に関するお問合せは、各メーカーまでお願いいたします。
・一回の印刷で送信できる画像枚数は 999 枚です。それ以上の枚数を送信した場合はカメラ側にエラーを返し、印刷は行われません。
・印刷条件はデジタルカメラ側で設定するため、お使いのデジタルカメラによって設定できる項目が異なります。詳しくはデジタルカメラの説明書をご確認ください。
・本機能は USB1.1 に対応しています。

印刷を行うには

ここでは本機を使い PictBridge の印刷を行うまでの手順の説明を行います。

重要

- データの送信中に USB ケーブルを抜かないでください。正しく印刷されない場合があります。

1 本機の電源、お使いのデジタルカメラの電源が入っていることを確認します。

2 本機に設置されている USB ホストボードに USB ケーブルを接続し、デジタルカメラと接続を行います。

接続の方法については、『ハードウェアガイド』「プリンターとデジタルカメラの接続」を参照してください。

PictBridge として認識をし、本機のデータインランプが数秒間点滅し、本機に「PctBrdg」と表示されます。

3 お使いのデジタルカメラより、印刷を行いたい画像の選択と印刷条件の設定を行ってください。

4 デジタルカメラで設定した内容を本機に送信し、印刷を行います。

補足

- お使いのデジタルカメラによっては、手動で PictBridge を使うために設定する必要があります。詳細はデジタルカメラの使用説明書をご確認ください。
- 印刷条件はデジタルカメラ側で設定するため、お使いのデジタルカメラによって設定できる項目が異なります。詳しくはデジタルカメラの説明書をご確認ください。

参照

- 『ハードウェアガイド』「プリンターとデジタルカメラの接続」
- P.91 「印刷を中止する」

4

本機でできること

ここでは本機に対応している PictBridge を使ったいろいろな印刷の機能の紹介をします。
使用できる設定項目につきましては以下の通りです。

- 単一画像印刷
- 任意選択画像印刷
- インデックス印刷
- 全画像印刷
- トリミング
- 日付／ファイル名印刷
- 用紙サイズ
- 画像印刷サイズ
- 集約
- 印刷品質
- カラーマッチング
- 紙種通知
- 帳票印刷
- カメラメモ出力

補足

- 本機では以下の設定項目には対応していません。
  - DPOF 印刷
  - フチなし印刷
- お使いのデジタルカメラにより、印刷の機能名や設定できる項目が異なることがあります。詳しくはデジタルカメラの使用説明書をご確認ください。

インデックス印刷

画像のインデックスを作成します。

◆ A3

横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
12 × 16	タテ

◆ A4

横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
8 × 12	タテ
12 × 8	ヨコ

◆ A5

横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
5 × 8	タテ
8 × 5	ヨコ

◆ Letter（8 $^{1}/_{2}$ × 11）

横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
8 × 10	タテ
10 × 8	ヨコ

◆ B4

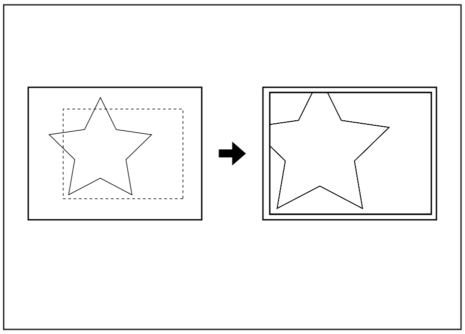
横コマ数 × 縦コマ数	用紙の向き
10 × 14	タテ

補足

- インデックス印刷は、指定されたサイズの用紙がトレイにセットされている向きによって出力結果が異なります。
- お使いのデジタルカメラによっては、改ページが入る場合があります。
- 各用紙サイズでのコマ数は固定です。

トリミング

デジタルカメラで指定されたトリミング領域のみを出力します。

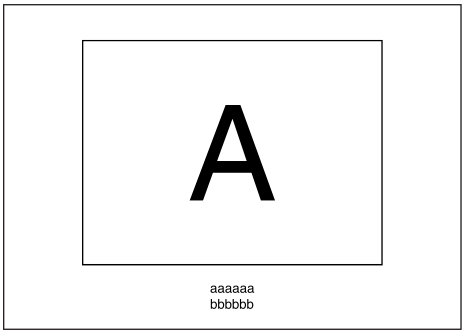


AGZ007S

「----（点線）」はトリミング領域を表しています。

日付／ファイル名印刷

画像の下に日付やファイル名をつけて出力します。



AGZ005S

「aaaaa」ファイル名、「bbbbb」日付を表しています。

用紙サイズ

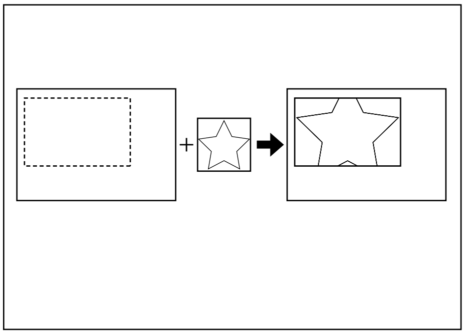
デジタルカメラより指定された用紙サイズを使って出力します。

用紙サイズ	サイズ
2L (5× 7)	178 mm × 127 mm
ハガキ	148 mm × 100 mm
100 mm × 150 mm	100 mm × 150 mm
4× 6	152.4 mm × 101.6 mm
8× 10	254 mm × 203.2 mm
Letter （8 1/2 × 11）	279.4 mm × 216 mm
11× 17	431.8 mm × 279.4 mm
A3	420 mm × 297 mm
A4	297 mm × 210 mm
A5	210 mm × 148 mm
A6	148 mm × 105 mm
B4	257 mm × 364 mm
B5	257 mm × 182 mm
B6	182 mm × 128 mm

2L、100 mm × 150 mm については不定形サイズを指定してください。

画像印刷サイズ

デジタルカメラで指定された画像サイズになるように、用紙に出力します。



AGZ008S

「---（点線）」はカメラで指定された画像サイズを表しています。
画像印刷サイズで指定できるサイズは以下の通りです。

♦ **固定サイズ**

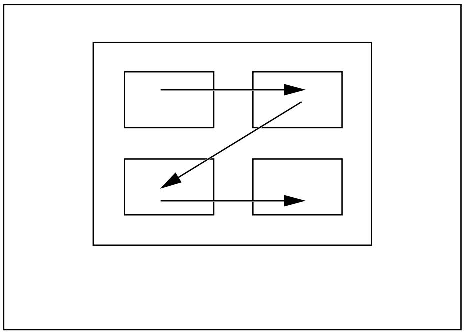
- 3.25" × 2.5"
- 5" × 2.5"
- 6" × 4"
- 7" × 5"
- 10" × 8"
- 254 mm × 178 mm
- 110 mm × 74 mm
- 89 mm × 55 mm
- 148 mm × 100 mm
- 8 cm × 6 cm
- 10 cm × 7 cm
- 13 cm × 9 cm
- 15 cm × 10 cm
- 18 cm × 13 cm
- 21 cm × 15 cm
- 24 cm × 18 cm

補足

- 指定された固定サイズが用紙サイズよりも大きい場合はエラーとなります。

集約

指定された用紙に、複数の画像を印刷します。



AGZ002S

4

1 枚に印刷できる画像数（コマ数）は下表の通りです。

用紙サイズ	指定可能なコマ数
2L (5 × 7)	2、4、8、9
ハガキ	2、4
100 mm × 150 mm	2、4
4 × 6	2、4、8、9
8 × 10	2、4、8、9、16、25、32
Letter（$8^1/_2$ × 11）	2、4、8、9、16、25、32
11 × 17	2、4、8、9、16、25、32、49、64
A3	2、4、8、9、16、25、32、36、49、64
A4	2、4、8、9、16、25、32
A5	2、4、8、9、16
A6	2、4、8
B4	2、4、8、9、16、25、32、36、49
B5	2、4、8、9、16、25
B6	2、4、8、9

また、指定可能なコマ数のコマの並び方は以下の通りです。

コマ数	縦方向コマ数 × 横方向コマ数	用紙の方向
2	2 × 1	タテ
4	2 × 2	ヨコ
8	4 × 2	タテ
9	3 × 3	ヨコ
16	4 × 4	ヨコ
25	5 × 5	ヨコ
32	8 × 4	タテ
36	6 × 6	ヨコ
49	7 × 7	ヨコ
64	8 × 8	ヨコ

補足

- お使いのデジタルカメラによっては、途中で改ページが入る場合があります。
- 印刷する画像枚数の組み合わせによっては、指定どおりに印刷できない場合があります。

印刷品質

選択された印刷品質で画像を出力します。
本機では［Default］および［Normal］が選択された場合は標準画質、［Fine］の場合は高画質で出力します。

カラーマッチング

画像の色合いを最適化し、出力します。
本機では［Default］および［OFF］が選択された場合は階調優先によるカラーマッチング処理を、［ON］の場合はあざやか優先によるカラーマッチング処理を行います。

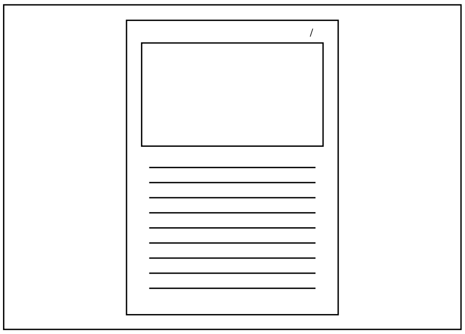
紙種

本機でトレイにセットされている紙種を設定しておくと、デジタルカメラにその情報が通知され、紙種を確認してから出力できます。

デジタルカメラに通知される紙種	プリンターにセットされている紙種
Default	すべての紙種
Plain Paper	普通紙・再生紙
First Photo Paper	光沢紙

帳票印刷

定められたレイアウトフォーマットを用いた画像の出力を行います。



AGZ009S

4

カメラメモ出力

印刷する画像にテキストデータが添付されている場合に、そのテキストデータの印刷を行います。

PictBridge を終了するには

ここでは PictBridge モードを終了する手順を説明します。

重要

- データの送信中に USB ケーブルを抜かないでください。正しく印刷されない場合があります。

1 本機のパネルが「インサツデキマス」の状態になっている事を確認します。

2 本機に接続されている USB ケーブルを抜きます。

こんなときには

印刷がうまくいかないときの原因と対処方法について説明します。

状態	対処方法
PictBridge が利用できない。	以下の順番で確認してください。 1) USB ケーブルの抜き差しを行ってください。 2) PictBridge　の設定が有効になっているか確認をしてください。 3) 一度 USBケーブルを抜き本機の電源の OFF/ON を行い、再度立ち上がったのを確認してから USB ケーブルを接続してください。
複数のデジタルカメラを接続したが、2 台目以降のデジタルカメラが認識しない。	デジタルカメラの接続可能台数は 1 台になります。複数台の接続は行わないでください。
印刷ができない。	一回で印刷指定できる画像枚数は 999 枚までです。指定枚数が超えている場合は減らして再度印刷を行ってください。
印刷ができない。	本機の用紙を確認してください。用紙切れの場合は用紙のセットを、指定サイズ以外の用紙に印刷する場合は強制印刷を、印刷をとりやめる場合にはジョブキャンセルを、それぞれ本機で行ってください。
印刷ができない。	本機で印刷できない用紙サイズを指定していないか確認してください。指定していた場合は、本機で印刷できるサイズの用紙に変更してください。

その他の参考情報

本機で印刷を行うために必要な情報につきましては、以下を確認してください。

参照

・P.120 「用紙設定メニュー」
・『ハードウェアガイド』「使用できる用紙の種類とサイズ」

5. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目についての説明です。

［メニュー］キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

♦ 用紙設定（ヨウシセッテイ）

設定項目
1. 手差し用紙サイズ（テサシ ヨウシサイズ）
2. トレイ用紙サイズ（トレイ ヨウシサイズ）
3. 用紙種類（ヨウシシュルイ）
4. 自動トレイ選択（ジドウトレイセンタク）
5. 優先給紙トレイ（ユウセンキュウシトレイ）

参照

• P.120 「用紙設定メニュー」

♦ テスト印刷（テストインサツ）

設定項目
1. 一括リスト印刷（イッカツリストインサツ）
2. システム設定リスト（システムセッテイリスト）
3. エラー履歴（エラーリレキ）
4. ネットワークサマリー（ネットワークサマリー）
5. サプライ情報リスト (サプライジョウホウリスト）
6. 印刷条件リスト（インサツジョウケンリスト）
7. メニューリスト（メニューリスト）
9. カラーサンプル（カラーサンプル）
10. 全文字印刷（ゼンモジインサツ）
11. フォントリスト（フォントリスト）
12. PS 情報リスト（PS ジョウホウリスト）
13. PDF 情報リスト（PDF ジョウホウリスト）
14. ヘキサダンプ（ヘキサダンプ）

補足

- 使用するエミュレーションによって表示されないものがあります。

参照

- P.124 「テスト印刷メニュー」

♦ 給紙トレイ選択（キュウシトレイ センタク）

印刷する給紙トレイを切り替えます。

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

♦ エミュレーション呼び出し（エミュレーションヨビダシ）

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

補足

- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

♦ 印刷条件（インサツジョウケン）

アプリケーションやパソコンに合わせて印刷条件を設定します。

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

♦ 印刷部数（インサツブスウ）

印刷部数を設定します。

補足

- RTIFF、RP-GL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

♦ プログラム登録（プログラム トウロク）

設定した印刷条件を登録します。

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- 詳しくは各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

♦ 調整 / 管理（チョウセイ / カンリ）

設定項目
1. 色ずれ補正（イロズレ ホセイ）
2. 階調補正（カイチョウ ホセイ）
3. 印刷位置調整（インサツイチ チョウセイ）
4. レターヘッド紙設定（レターヘッドシ セッテイ）
5. 光沢紙設定（コウタクシ セッテイ）
6. コート紙設定（コートシ セッテイ）
7. ラベル紙設定（ラベルシ セッテイ）
8. 封筒設定（フウトウ セッテイ）
9. サプライエンド動作（サプライエンド ドウサ）
10. 日付 / 時刻設定（ヒヅケ / ジコクセッテイ）
11. 電波状態（デンパジョウタイ）
12. IEEE 802.11b 設定値初期化（ムセンセッテイチ ショキカ）
16. 用紙サイズエラー設定（ヨウシサイズエラー）

補足

- 装着されているオプションによって表示されないものがあります。

参照

- P.129 「調整 / 管理メニュー」

♦ システム設定（システムセッテイ）

設定項目
1. エラーレポート印刷（エラーレポート インサツ）
2. エラースキップ（エラースキップ）
3. 画像エラー処理（ガゾウエラーショリ）
4. エラー表示設定（エラーヒョウジセッテイ）
5. 180 度回転（180 ドカイテン）
6. 予熱モード（ヨネツモード）
7. 省エネエモード（ショウエネモード）
8. オートリセット設定（オートリセットセッテイ）
9. エミュレーション検知（エミュレーション ケンチ）
10. 優先エミュレーション（ユウセン エミュレーション）
11. 優先メモリー（ユウセンメモリー）
12. 白黒画像認識（シロクロガゾウニンシキ）
13. 印刷速度設定（インサツソクドセッテイ）
14. 補助用紙サイズ（ホジョヨウシサイズ）
15. レターヘッド紙設定（レターヘッドシ セッテイ）
16. 手差し設定選択（テサシセッテイセンタク）
17. RAM ディスク（RAM ディスク）
18. メール通知設定（ジドウメールツウチ）

参照

• P.135 「システム設定メニュー」

♦ システム設定 (EM)(システムセッテイ (EM))

設定項目
1. 白紙排紙（ハクシ ハイシ）
2. 用紙なしエラー（ヨウシナシエラー）
3. 自動排紙時間（ジドウハイシジカン）
4. マクロキャッシュ（マクロキャッシュ）
5. リミットレス給紙（リミットレスキュウシ）

補足

- RPDL、R16、R55、R98、RTIFF、RP-GL/GL2 のいずれかをエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。
- マクロキャッシュは RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

参照

- P.142 「システム設定（EM）メニュー」

♦ PS 設定（PS セッテイ）

設定項目
1. 両面設定（リョウメンセッテイ）
2. 白紙排紙（ハクシ ハイシ）
3. データ形式（データケイシキ）
4. 解像度（カイゾウド）
5. RGB 補正（RGB ホセイ）
6. カラープロファイル
7. 最大領域印刷（サイダイリョウイキ）

補足

- PostScript 3 をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

参照

- P.145 「PS 設定メニュー」

♦ PDF 設定（PDF セッテイ）

設定項目
1. パスワード変更（パスワードヘンコウ）
2. グループパスワード（グループパスワード）
3. 両面設定（リョウメンセッテイ）
4. 白紙排紙（ハクシ ハイシ）
5. 解像度（カイゾウド）
6. RGB 補正（RGB ホセイ）
7. カラープロファイル（カラープロファイル）
8. 最大領域印刷（サイダイリョウイキ）

補足

- PDF をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

参照

- P.148 「PDF 設定メニュー」

♦ インターフェース設定（インターフェースセッテイ）

設定項目
1. 受信バッファ（ジュシンバッファ）
2. インターフェース切替時間 （I/F キリカエジカン）
3. ネットワーク設定（ネットワークセッテイ）
4. パラレルインターフェース設定 （パラレル I/F セッテイ）
5. IEEE 802.11b 設定（IEEE 802.11b）

補足

- パラレルインターフェース設定（パラレル I/F セッテイ）は、オプションの IEEE1284 ボードを装着しているときに表示されます。
- IEEE 802.11b 設定（IEEE802.11b）は、オプションの無線 LAN インターフェースとオプションの SDRAM を装着しているときに表示されます。

参照

- P.151 「インターフェース設定メニュー」

♦ 表示言語切替（ヒョウジゲンゴ）

設定項目
日本語（ニホンゴ）
英語（English）

補足

・オプションのエミュレーションは、英語表示には対応しておりません。

参照

・P.157 「表示言語メニュー」

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

♦ **手差し用紙サイズ（テサシ ヨウシサイズ）**
手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

♦ **トレイ用紙サイズ（トレイ ヨウシサイズ）**
用紙サイズダイヤルが「＊」に設定されている給紙トレイにセットする用紙サイズを設定します。
設定できる用紙サイズについては、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

♦ **用紙種類（ヨウシシュルイ）**
セットする用紙の種類を設定します。
本機のパネルで必ず用紙種類を設定してください。設定していないと、期待した印刷結果が得られない場合があります。
設定できる用紙種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

♦ **自動トレイ選択（ジドウトレイセンタク）**
「自動トレイ選択」を設定すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが「タイショウニスル」になっています。手差しトレイは自動トレイ選択の対象にはなりません。

♦ **優先給紙トレイ（ユウセンキュウシトレイ）**
「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択やリミットレス給紙のときに一番初めに対象となるトレイです。工場出荷時の設定は「トレイ 1」です。手差しトレイは優先給紙トレイの対象にはなりません。

補足

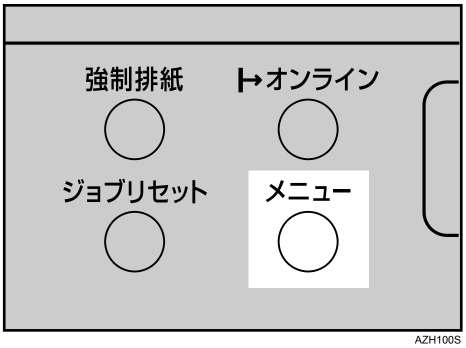
- RPCS プリンタードライバーを使用している場合、A4▯をトレイ 1、A4▭をトレイ 2 にセットし、優先給紙トレイ設定でトレイ 1 を選択しても、用紙はトレイ 1 ではなくトレイ 2 から給紙されます。

用紙設定メニューの設定を変更する

特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す

自動レイ選択の対象としないトレイを設定します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。



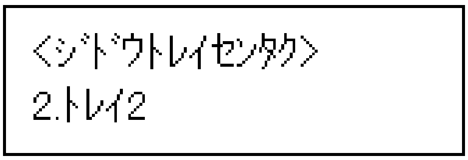
2 ［△］［▽］キーを押して、「ヨウシセッテイ」を表示させ、［OK］キーを押します。



3 ［△］［▽］キーを押して、「4．ジドウトレイセンタク」を表示させ、［OK］キーを押します。

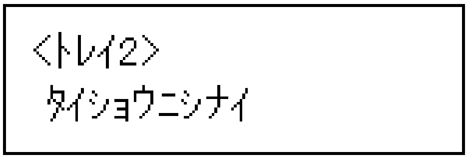


4 ［△］［▽］キーを押して、自動トレイ選択の対象としないトレイを表示させ、［OK］キーを押します。



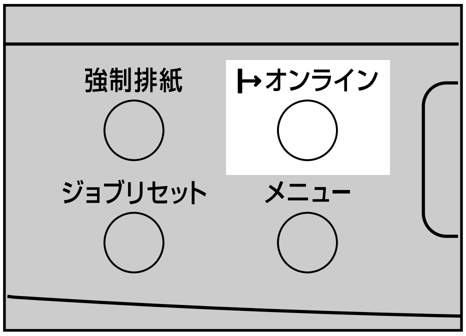
対象にするかどうかの選択画面が表示されます。

5 [△] [▽] キーを押して、「タイショウニシナイ」を表示させ、[OK] キーを押します。



設定が確定し、自動トレイ選択メニューに戻ります。

6 [オンライン] キーを押します。



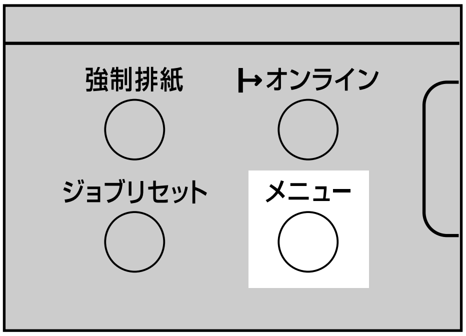
AZH101S

通常の画面が表示されます。

優先給紙トレイを設定する

優先給紙トレイを設定します。

1 操作部の [メニュー] キーを押します。



AZH100S

2 [△] [▽] キーを押して、「ヨウシセッテイ」を表示させ、[OK] キーを押します。



3 [△] [▽] キーを押して「5. ユウセンキュウシトレイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

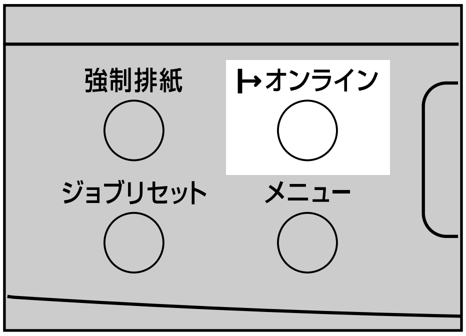
<ヨウシセッテイ>
5.ユウセンキュウシトレイ

4 [△] [▽] キーを押して目的のトレイを表示させ、[OK] キーを押します。

<ユウセンキュウシトレイ>
*トレイ1

設定が完了し、2 秒後に用紙設定メニューに戻ります。

5 [オンライン] キーを押します。



AZH101S

通常の画面が表示されます。

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。
また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

テスト印刷メニューの設定項目です。

◆ 一括リスト印刷（イッカツリストインサツ）
システム設定リスト、エラー履歴、ネットワークサマリー、サプライ情報リストが印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ システム設定リスト（システムセッテイリスト）
本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ エラー履歴（エラーリレキ）
エラーになったジョブの履歴が印刷されます。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ ネットワークサマリー（ネットワークサマリー）
ネットワークの設定内容が印刷されます。

◆ サプライ情報リスト（サプライジョウホウリスト）
サプライ情報が印刷されます。

◆ 印刷条件リスト（インサツジョウケンリスト）
印刷条件の設定内容が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16、RTIFF、RP-GL/GL2 が対象となります。

◆ メニューリスト（メニューリスト）
［メニュー］キーを使って設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。
選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ カラーサンプル（カラーサンプル）
カラーサンプルが印刷されます。

◆ 全文字印刷（ゼンモジインサツ）
現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できる全ての文字が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16 が対象となります。

◆ フォントリスト（フォントリスト）
現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるフォントの一覧が印刷されます。
エミュレーションの RPDL、R55、R98、R16 が対象となります。

- **PS 情報リスト（PS ジョウホウリスト）**
  オプションの PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳しくは、PostScript 3 使用説明書を参照してください。
- **PDF 情報リスト（PDF ジョウホウリスト）**
  オプションの PS3 カードまたは PDF ダイレクトプリントカードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。
  エミュレーションの PS3、PDF が対象となります。
- **ヘキサダンプ（ヘキサダンプ）**
  印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。
  選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

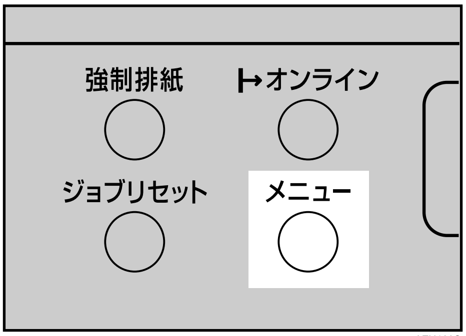
テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

システム設定リストを印刷する

システム設定リストの印刷方法です。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

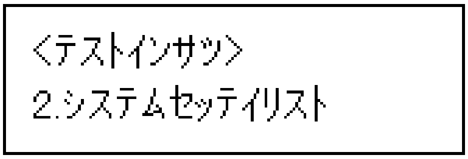


AZH100S

2 ［△］［▽］キーを押して「テストインサツ」を表示させ、［OK］キーを押します。

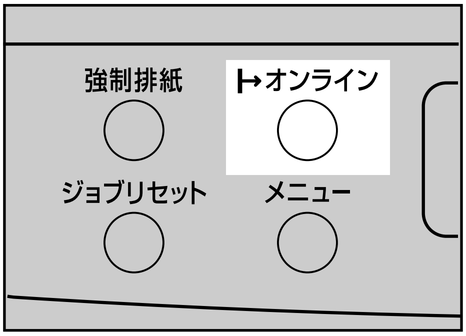


3 ［▵］［▿］キーを押して印刷したいリスト名を表示させ、［OK］キーを押します。



印刷終了後、テスト印刷メニューに戻ります。

4 ［オンライン］キーを押します。



AZH101S

通常の画面が表示されます。

補足

- システム設定リストは A4 または Letter（8 $^{1}/_{2}$×11）で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイに A4 または Letter（8 $^{1}/_{2}$×11）の用紙をセットしてください。

システム設定リストの見かた

システム設定リストの見かたの説明です。



システム設定リスト

■システム構成情報

機番　未設定　搭載メモリ　512 MB
トータルカウンター　111[白黒: 105/カラー: 6]
ファームウェアバージョン　プリンター[0.24 / G1545251], エンジン[006033], NCS[6.06.2 / G1545252]
接続デバイス　IEEE 802.11b
搭載エミュレーション　RPCS [3.4.23], R98 [2.14f], R16 [2.16f], R55 [3.13h], RPGL [0.1.10], RPGL2 [0.1.10], RTIFF [9.28G], RPDL [6.30f], BMLinkS [1.03.10C], Adobe PostScript 3 [0.05], Adobe PDF [0.05], PictBridge [1.00.3], MSIS(OPTION) [6.00.09], KAN-G [1.00.01]
接続機器　両面ユニット, 増設給紙トレイ2

■用紙設定

優先給紙トレイ　トレイ1
手差しトレイ（マルチ）　Ａ４Ｒ　210.0 x 297.0mm　普通紙
トレイ1　Ａ４　297.0 x 210.0mm　普通紙
トレイ2　Ａ３Ｒ　297.0 x 420.0mm　普通紙

■調整/管理

印刷位置調整-ヨコ：トレイ1　0.0　印刷位置調整-ヨコ：トレイ2　0.0
印刷位置調整-ヨコ：両面時裏面　0.0　印刷位置調整-タテ：トレイ1　0.0
印刷位置調整-タテ：トレイ2　0.0　印刷位置調整-タテ：両面時裏面　0.0
レターヘッド紙設定-トレイ1　レターヘッド1　レターヘッド紙設定-トレイ2　レターヘッド1
レターヘッド紙設定-手差しトレイ（マルチ）　レターヘッド1　光沢紙設定　光沢紙2
コート紙設定　コート紙2　ラベル紙設定　ラベル紙2
封筒設定　封筒1　サプライエンド時動作　印刷継続

■システム設定　*マークは設定値が初期値と異なる項目です。

エラーレポート印刷　しない　エラースキップ　しない
画像エラー処理　ジョブリセット　エラー表示設定　全て表示
180度回転　しない　予熱モード　*移行する
省エネモード　移行設定　移行する　省エネモード　移行時間　30分
オートリセット設定　する　オートリセット時間（秒）　60
エミュレーション検知　しない　優先エミュレーション　RPCS
優先メモリー　ページメモリー　白黒画像認識　文書ごと
補助用紙サイズ　しない　レターヘッド紙使用設定　使用しない
手差しトレイ設定選択　ドライバー/コマンド優先　RAMディスク　4 MB
自動メール通知　する

■システム設定(EM)

白紙排紙　しない　用紙なしエラー通知　印刷実行時
自動排紙時間　排紙しない　マクロキャッシュ　マクロなし
リミットレス給紙　しない

■登録プログラム一覧

プログラム番号　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11　12　13　14　15　16
エミュレーション名　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-　-

■PS設定

両面設定　しない　白紙排紙　する
データ形式　TBCP　解像度　600dpi
RGB補正　精密（濃いめ）　カラープロファイル　自動
最大領域印刷　通常で印刷する

■PDF設定

両面設定　しない　白紙排紙　する
解像度　600dpi　RGB補正　精密（濃いめ）
カラープロファイル　自動　最大領域印刷　通常で印刷する

■インターフェース設定

受信バッファ　128 KB　I/F切り替え時間　15 秒
DHCP　Off　IPv4アドレス　192.168.000.100
サブネットマスク　255.255.255.000　ゲートウエイアドレス　192.168.000.001
ステートレス設定　有　効　NWフレームタイプ　自動選択
IPv4　有　効　IPv6　無　効
NetWare　無　効　SMB　有　効
AppleTalk　有　効　イーサネット速度　自動選択
I/F選択　イーサネット　通信モード　802.11 アドホック
チャンネル　11　通信速度　自動設定
IEEE 802.11b設定　セキュリティー方式　*WPA
暗号方式　TKIP　認証方式　WPA-PSK

■インターフェース情報

物理アドレス　00.00.74.b4.bf.a1　ホスト名　RNPB4BFA1
動作モード(NW)　プリントサーバ　プリントサーバ名(NW)　RNPB4BFA1
ファイルサーバ名(NW)　未設定　ＮＤＳコンテキスト名(NW)　未設定
ワークグループ名(SMB)　WORKGROUP　ネットワークパス名(SMB)　¥¥RNPB4BFA1¥SP_C711
物理アドレス(IEEE 802.11b)　00.00.74.86.c8.79
無効インターフェース　なし

AZH156S

1 システム構成情報

本機のバージョン情報やオプションの装着状況、カウンター情報、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

2 トータルカウンター

本機から出力した枚数が表示されます。

3 用紙設定

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

4 調整／管理

濃度調整や印刷位置設定など、調整／管理メニューの設定項目が印刷されます。

5 システム設定

システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

6 システム設定（EM）

システム設定（EM）メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
＊印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

7 登録プログラム一覧

登録されているプログラムのエミュレーション名が表示されます。

8 インターフェース設定、インターフェース情報

インターフェース設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

調整 / 管理メニュー

調整 / 管理メニューでは、階調や濃度などの印刷条件の調整や、日付・時刻などの設定ができます。

調整 / 管理メニューの項目

調整管理メニューの設定項目です。

◆ 色ずれ補正（イロズレ ホセイ）

本機を移動したとき、厚紙を印刷したとき、また通常の印刷を繰り返しているうちに、カラー原稿を印刷すると色ずれが発生することがあります。このとき、色ずれ補正を行うことにより適正な印刷結果を得ることができます。

色ずれの補正方法は、『ハードウェアガイド』「色ずれを補正する」を参照してください。

◆ 階調補正（カイチョウ ホセイ）

カラー印刷の階調はさまざまな要素によって微妙に変化します。印刷を繰り返しているうちに色味が変化したり、トナーを交換したときに色味が変わることがあります。この場合、カラー階調を補正することにより、適切な階調の印刷結果を得ることができますが、通常は特に設定する必要はありません。

カラー階調の補正方法は、『ハードウェアガイド』「カラー階調を補正する」を参照してください。

◆ 印刷位置調整（インサツイチ チョウセイ）

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイや、両面印刷ユニットを取り付けたときに調整します。

参照

・『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」

◆ レターヘッド紙設定（レターヘッドシ セッテイ）

レターヘッド紙を使用する場合に、使用するレターヘッド紙によって1〜3を選択します。

◆ トレイ1

- レターヘッド 1（工場出荷時の設定）
- レターヘッド 2

◆ トレイ2

- レターヘッド 1（工場出荷時の設定）
- レターヘッド 2

◆ 手差しトレイ

- レターヘッド 1（工場出荷時の設定）
- レターヘッド 2

補足

- プリンタードライバー側では、［レターヘッド付き用紙］を選択してください。

♦ 光沢紙設定（コウタクシ セッテイ）

光沢紙を使用する場合に、使用する光沢紙によって 1~3 を選択します。

- 光沢紙 1
- <u>光沢紙 2（工場出荷時の設定）</u>
- 光沢紙 3

補足

- プリンタードライバー側では、［光沢紙］を選択してください。

♦ コート紙設定（コートシ セッテイ）

コート紙を使用する場合に、使用するコート紙によって 1~3 を選択します。

- コート紙 1
- <u>コート紙 2（工場出荷時の設定）</u>
- コート紙 3

補足

- プリンタードライバー側では、［コート紙］を選択してください。

♦ ラベル紙設定（ラベルシ セッテイ）

ラベル紙を使用する場合に、使用するラベル紙によって 1~3 を選択します。

- ラベル紙 1
- <u>ラベル紙 2（工場出荷時の設定）</u>
- ラベル紙 3

補足

- プリンタードライバー側では、［ラベル紙］を選択してください。

♦ 封筒設定（フウトウ セッテイ）

封筒を使用する場合に、使用する封筒によって 1~3 を選択します。

- <u>封筒 1（工場出荷時の設定）</u>
- 封筒 2
- 封筒 3

補足

- プリンタードライバー側では、［封筒］を選択してください。

♦ サプライエンド動作 (サプライエンドドウサ)

ドラムユニットのサプライエンド時に印刷を継続するかしないかを選択します。

- <u>印刷継続（工場出荷時の設定）</u>
- 印刷停止

♦ 日付 / 時刻設定（ヒヅケ / ジコクセッテイ）

日付および時刻を設定します。

♦ 電波状態（デンパジョウタイ）

無線 LAN の電波状態を確認する必要があるときは、「調整 / 管理」メニューの［デンパジョウタイ］を実行します。

♦ IEEE 802.11b 設定値初期化（ムセンセッテイチ ショキカ）

オプションの無線 LAN ボードが装着されているときに表示されます。

無線 LAN の設定値を初期化する必要があるときは、「調整 / 管理」メニューの［ムセンセッテイチ ショキカ］を実行します。

♦ 用紙サイズエラー設定（ヨウシサイズエラー）

送信データの用紙サイズと給紙トレイの用紙サイズが異なる場合に、エラー検知するかしないかを設定します。

・検知する（工場出荷時の設定）

・検知しない

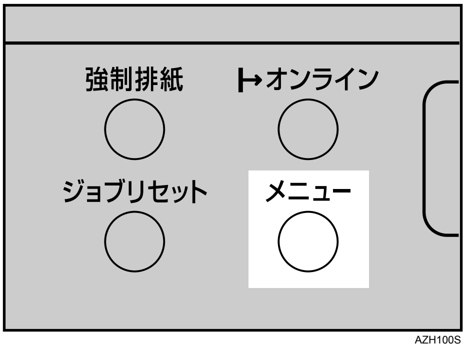
調整 / 管理メニューの設定を変更する

調整 / 管理メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

無線 LAN の電波状態を表示する

無線 LAN の電波状態を表示する方法の説明です。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。



2 ［△］［▽］キーを押して「チョウセイ / カンリ」を表示させ、［OK］キーを押します。



3 [△][▽]キーを押して「11. デンパジョウタイ」を表示させ、[OK]キーを押します。

<ﾁｮｳｾｲ/ｶﾝﾘ>
11.ﾃﾞﾝﾊﾟｼﾞｮｳﾀｲ

現在の電波状態が表示されます。

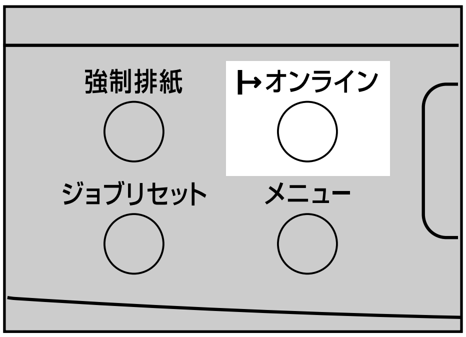
ﾃﾞﾝﾊﾟｼﾞｮｳﾀｲ
ｻｲﾘｮｳ　　100%

ﾃﾞﾝﾊﾟｼﾞｮｳﾀｲ
ﾘｮｳ　　　70%

ﾃﾞﾝﾊﾟｼﾞｮｳﾀｲ
ﾌｱﾝﾃｲ　　35%

ﾃﾞﾝﾊﾟｼﾞｮｳﾀｲ
ﾂｳｼﾝﾌｶ　　10%

4 [オンライン]キーを押します。



AZH101S

通常の画面が表示されます。

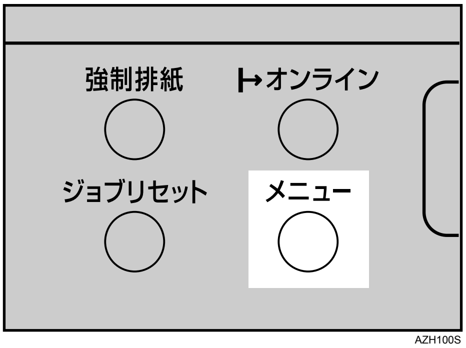
補足

- ［デンパジョウタイ］が表示されない場合は「インターフェース設定」メニューの「ネットワーク設定」内「I/F 選択」で［IEEE802.11b］が選択されていません。「I/F 選択」で［IEEE 802.11b］を選択してから、再度「調整 / 管理」メニューの［デンパジョウタイ］を選択してください。
- 電波状態が測定できるのは、「インターフェース設定」メニューの「IEEE 802.11b」内「通信モード」が［インフラストラクチャー］のときだけです。
- ［OK］キーを押すたびに電波状態が更新されます。
- 電波状態は、76〜100% で最良、41〜75% で良、21〜40% で不安定、0〜20% で通信不可と表示されます。電波の状態が不安定または通信不可のときは、電波の通る場所に移動するか障害物を取り除いてください。
- 近くで電子レンジや無線機器等をお使いになると、電波の状態に影響を与えることがあります。

無線 LAN の設定値を初期化する

無線 LAN の設定値を初期化する方法の説明です。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。



2 ［▵］［▿］キーを押して「チョウセイ / カンリ」を表示させ、［OK］キーを押します。



3 **［△］［▽］キーを押して「12．ムセンセッテイチ　ショキカ」を表示させ、［OK］キーを押します。**

<ﾁｮｳｾｲ/ｶﾝﾘ>
12.ﾑｾﾝｾｯﾃｲﾁ ｼｮｷｶ

確認のメッセージが表示されます。

4 **［OK］キーを押します。**

IEEE 802.11b ﾉ
ｾｯﾃｲｦ ｼｮｷｶ ｼﾏｽｶ?

無線設定値が初期化されます。

ｼｮｷｶ ｻﾚﾏｼﾀ
OKｦｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

［OK］キーを押すと設定を変更し、通常の画面が表示されます。

補足

- この実行により初期化される項目は、「インターフェース設定」メニューの「IEEE 802.11b」内「通信モード」「チャンネル」「通信速度」「SSID」「セキュリティー方式」の5項目です。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上での基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

♦ エラーレポート印刷（エラーレポート インサツ）

エミュレーションが RPCS、PS3 または PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定します。

- する
- しない（工場出荷時の設定）

♦ エラースキップ（エラースキップ）

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- しない（工場出荷時の設定）
  プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。
- 即時
  用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。
- 1 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。
- 5 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。
- 10 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。
- 15 分
  用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

♦ 画像エラー処理（ガゾウエラーショリ）

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- ジョブリセット（工場出荷時の設定）
  エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。
- エラーシート印刷
  エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大 16 ページ分印刷します。

♦ エラー表示設定（エラーヒョウジセッテイ）

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定します。

- すべて表示（工場出荷時の設定）
- 簡易表示

5

♦ 180 度回転（180 ドカイテン）

画像の 180 度回転印刷をするかしないかを選択します。

- する
- しない（工場出荷時の設定）

♦ 予熱モード（ヨネツモード）

予熱モードに移行するかしないかを選択します。

- 移行する（工場出荷時の設定）
- 移行しない

補足

- 「移行する」を設定すると、省エネモードの移行時間が 30 分以上に設定されているとき、印刷終了後から 20 分で予熱モードに移行します。省エネモードほどの省電力にはなりませんが、30 秒ほどで印刷可能状態に復帰します。

♦ 省エネモード（ショウエネモード）

省エネモードとは、本機の消費電力を節約する機能です。

・移行設定

省エネモードに移行するかしないかを選択します。

・移行する（工場出荷時の設定）

・移行しない

・移行時間

省エネモードに移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間本機を使用しないと、省エネモードに切り替わります。省エネモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。

1 分

5 分

15 分

30 分（工場出荷時の設定）

45 分

60 分

♦ オートリセット設定（オートリセットセッテイ）

一定時間操作を行わなかったとき、設定内容を電源投入直後の状態に戻すかどうかを設定します。また、戻すまでの時間を設定します。

・リセット設定

オートリセットするかしないかを選択します。

工場出荷時の設定は「する」に設定されています。

・リセット時間

オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を設定します。

10〜999 秒（1 秒単位）の範囲で設定します。

工場出荷時の設定は「60 秒」に設定されています。

♦ エミュレーション検知（エミュレーション ケンチ）

本機に送られたデータを自動的に判断して､エミュレーションを決定することができます。対象となるのは PS3 です。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

・する

・しない（工場出荷時の設定）

♦ 優先エミュレーション（ユウセン エミュレーション）

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

- RPCS（工場出荷時の設定）
- RPDL
- R98
- R16
- R55
- RP-GL/GL2
- RTIFF
- PS3
- PDF
- BMLinkS
- PictBridge
- プログラム 1〜16

補足

- 「プログラム 1」〜「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。RPCS、PostScript 3 以外で有効です。

♦ 優先メモリー（ユウセンメモリー）

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

- ユーザーメモリー
  外字やフォントなどのデータを登録するためにメモリーが優先的に使用されます。
- ページメモリー（工場出荷時の設定）
  印刷の高速化のためにフレームメモリーとして使用されます。

♦ 白黒画像認識（シロクロガソウニンシキ）

白黒画像認識をするかしないかを選択します。白黒画像認識とは、印刷がカラー指定をされていても、すべてのページが白黒の原稿の場合は白黒モードで印刷できる機能です。

- ページごと
- 文書ごと（工場出荷時の設定）
- しない

♦ 印刷速度設定（インサツソクドセッテイ）

カラーページと白黒ページが混在するデータを印刷するときの印刷速度モードを設定します。

- カラー切り換え優先
  白黒／カラー印刷の切り換えが速く、白黒ページとカラーページが混在している文書を印刷する場合に適しています。
  「白黒優先」に比べて、白黒／カラー印刷の切り換えは速いですが、カラードラムユニットの寿命が短くなります。
- 白黒優先
  白黒ページの連続印刷に適しています。白黒ページだけの文書やドライバーで白黒印刷を指定する場合、「カラー切り換え優先」より速く印刷できます。

◆ **補助用紙サイズ（ホジョヨウシサイズ）**

A4 と Letter （8 1/2×11）の切り替えをするかどうかを設定します。

・自動
・しない（工場出荷時の設定）

補足

・切り替えを行った場合、A4 と Letter（8 1/2×11）では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れるなど、正常に印刷されない場合があります。

◆ **レターヘッド紙設定（レターヘッドシ セッテイ）**

レターヘッド紙印刷を行うかどうかを設定します。

レターヘッド紙印刷を行うと、両面印刷のとき、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

・使用しない（工場出荷時の設定）
  レターヘッド紙印刷を行いません。
・使用する（自動）
  レターヘッド紙が指定されたときに行います。
・使用する（常時）
  常にレターヘッド紙印刷を行います。

補足

・両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。
・印刷の途中で片面印刷から両面印刷になった場合、ソートの 2 部目以降は全て両面印刷となります。2 部目以降も片面で印刷したいときは、両面印刷ができない紙サイズを給紙してください。
・レターヘッド紙を使用するときは用紙のセット方向に注意してください。

◆ **手差し設定選択（テサシセッテイセンタク）**

手差しの設定を機器側で行うか、プリンタードライバーやコマンドで行うかを設定します。

・機器側
・ドライバー / コマンド（工場出荷時の設定）

◆ **RAM ディスク（RAM ディスク）**

PDF ダイレクトプリントをする場合に指定します。2MB 以上の値を指定してください。

・0MB
・2MB
・4MB（工場出荷時の設定）
・8MB
・16MB

◆ **メール通知設定（ジドウメールツウチ）**

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかをしていします。

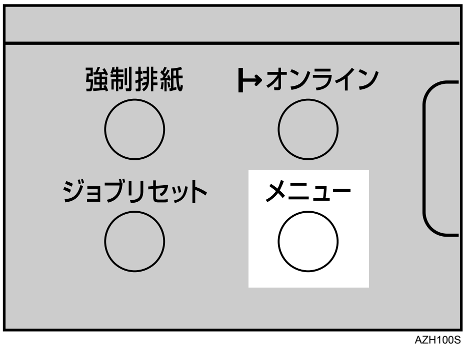
設定を変更したときは、いったん電源をOFFにし、あらためて電源をONにしてください。

・する（工場出荷時の設定）
・しない

システム設定メニューの設定を変更する

システム設定メニュー「省エネモード」の変更方法を、例として説明します。

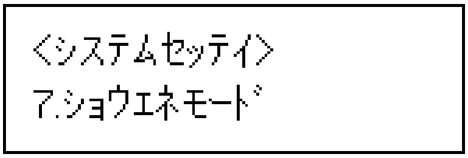
1 操作部の［メニュー］キーを押します。



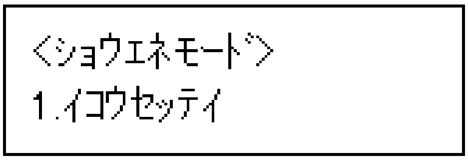
2 ［△］［▽］キーを押して、「システムセッテイ」を表示させ、［OK］キーを押します。



3 ［△］［▽］キーを押して、「7. ショウエネモード」を表示させ、［OK］キーを押します。



4 ［△］［▽］キーを押して設定を変更する項目を表示させ、［OK］キーを押します。

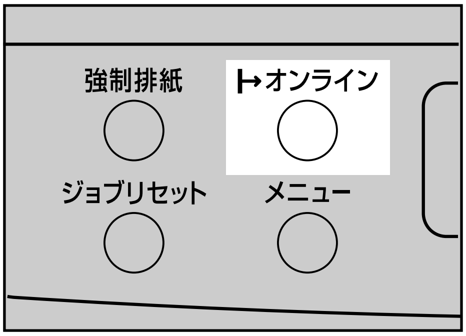


5 [△] [▽] キーを押して変更する設定値を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<イコウセッテイ>
*イコウスル
```

設定が確定し、省エネモードメニューに戻ります。

6 [オンライン] キーを押します。



AZH101S

通常の画面が表示されます。

システム設定（EM）メニュー

システム設定（EM）メニューでは、DOS で使用する上での基本的な動作に関わる設定を行うことができます。対象となるエミュレーションは、RPDL、R98、R16、R55、RP-GL/GL2、RTIFF です。通常は、工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定（EM）の内容は電源を切っても保存されます。

★ 重要

- エミュレーションが搭載されている場合に表示されます。

システム設定（EM）メニューの設定項目

♦ **白紙排紙（ハクシ ハイシ）**

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- する
  排紙します。
- スペース
  排紙コマンドの前にスペースコード（20H、A0H、8140H）があるときは排紙します。
- しない（工場出荷時の設定）
  排紙しません。

♦ **用紙なしエラー通知（ヨウシナシエラー）**

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。「印刷時」に設定すると用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。「常時」に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

- 印刷実行時（工場出荷時の設定）
  用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。
- 用紙なし時
  用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

♦ 自動排紙時間（ジドウハイシジカン）

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。たとえば、改ページコードがなくて［強制排紙］キーを押さないと印刷できないようなデータでも自動的に印刷させることができます。「なし」に設定するとデータは自動的には印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

・自動排紙しない（工場出荷時の設定）
・10 秒
・15 秒
・20 秒
・25 秒
・60 秒
・300 秒

♦ マクロキャッシュ（マクロキャッシュ）

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリの上限を設定します。

・マクロなし（工場出荷時の設定）
・マクロ 2.1MB
・マクロ 4.3MB
・マクロ 8.4MB

♦ 拡張リミットレス給紙（リミットレスキュウシ）

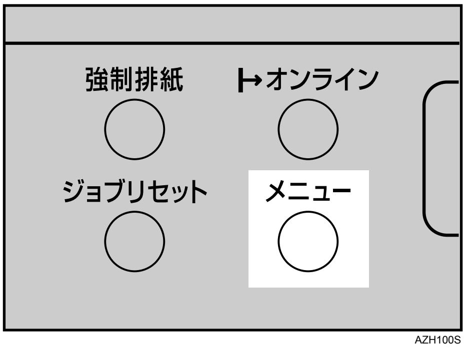
印刷中に用紙がなくなった場合に、同じサイズの用紙を他のトレイから給紙するかしないかを選択します。

・する
・しない（工場出荷時の設定）

システム設定（EM）メニューの設定を変更する

システム設定（EM）メニュー「白紙排紙」の変更方法を、例をあげて説明します。

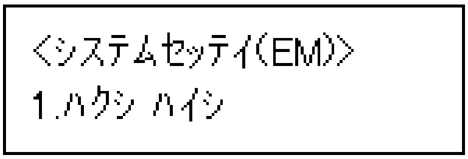
1 操作部の［メニュー］キーを押します。



2 ［△］［▽］キーを押して、「システムセッテイ（EM）」を表示させ、［OK］キーを押します。



3 ［△］［▽］キーを押して、「1. ハクシ ハイシ」を表示させ、［OK］キーを押します。



4 ［△］［▽］キーを押して、「スル」を表示させ、［OK］キーを押します。



設定が確定し、システム設定（EM）メニューに戻ります。

5 ［オンライン］キーを押します。

通常の画面が表示されます。

PS 設定メニュー

PS 設定メニューでは、PostScript 印刷を行うときの印刷条件を設定します。

重要

・オプションの PS3 カードが装着されているときに表示されます。

PS 設定メニューの設定項目

♦ 両面設定（リョウメンセッテイ）

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

- しない（工場出荷時の設定）
- 長辺
- 短辺

♦ 白紙排紙（ハクシ ハイシ）

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- する（工場出荷時の設定）
- しない

♦ データ形式（データケイシキ）

データ形式を設定します。

- バイナリーデータ
- TBCP（工場出荷時の設定）

♦ 解像度（カイゾウド）

解像度を設定します。

- 600dpi（工場出荷時の設定）
- 600×1200dpi

♦ RGB 補正（RGB ホセイ）

RGB 補正を設定します。

- しない
- 精密（ふつう）
- 精密（濃いめ）（工場出荷時の設定）

♦ カラープロファイル（カラープロファイル）

カラープロファイルを設定します。

- 自動（工場出荷時の設定）
- ビジネス
- ベタ
- フォト
- ユーザー設定

5

♦ **最大領域印刷（サイダイリョウイキ）**

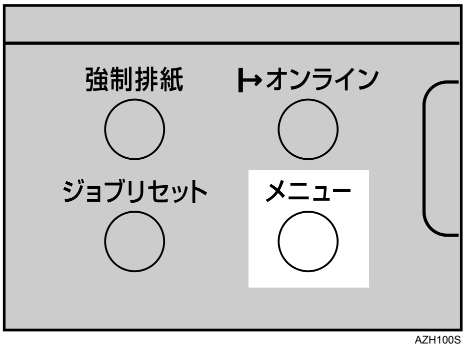
用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを選択します。

・最大で印刷する

・<u>通常で印刷する（工場出荷時の設定）</u>

PS 設定メニューの設定を変更する

1 操作部の［メニュー］キーを押します。



2 [▵] [▿] キーを押して、「PS セッテイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
 PSセッテイ
```

3 [▵] [▿] キーを押して、「3. データケイシキ」を表示させ、[OK] キーを押します。

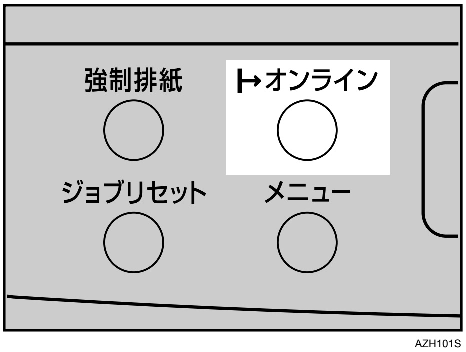
```
<PSセッテイ>
3.データケイシキ
```

4 [▵] [▿] キーを押して、「TBCP」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<データケイシキ>
*TBCP
```

設定が確定し、PS 設定メニューに戻ります。

5 ［オンライン］キーを押します。



通常画面に戻ります。

PDF 設定メニュー

PDF 設定メニューでは、PDF ダイレクトプリントを行うときの印刷条件を設定します。

重要

- オプションの PS3カードまたは PDFダイレクトプリントカードが装着されているときに表示されます。

PDF 設定メニューの設定項目

♦ パスワード変更（パスワードヘンコウ）

印刷する PDF ファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

♦ グループパスワード（グループパスワード）

Ridoc Desk Navigator で設定したグループパスワードを設定します。

♦ 両面設定（リョウメンセッテイ）

両面印刷をするかしないか、する場合はその方向を設定します。

- しない（工場出荷時の設定）
- 長辺
- 短辺

♦ 白紙排紙（ハクシ ハイシ）

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- する（工場出荷時の設定）
- しない

♦ 解像度（カイゾウド）

解像度を設定します。

- 600dpi（工場出荷時の設定）
- 600×1200dpi

♦ RGB 補正（RGB ホセイ）

RGB 補正を設定します。

- しない
- 精密（ふつう）
- 精密（濃いめ）（工場出荷時の設定）

♦ カラープロファイル（カラープロファイル）

カラープロファイルを設定します。

- 自動（工場出荷時の設定）
- ビジネス
- ベタ
- フォト
- ユーザー設定

♦ **最大領域印刷（サイダイリョウイキ）**

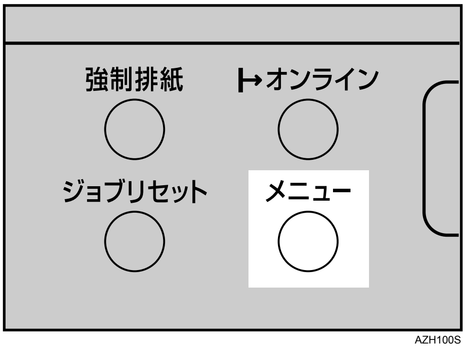
用紙サイズいっぱいに印刷するかしないかを選択します。

・最大で印刷する

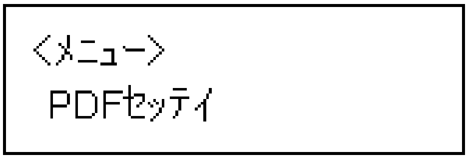
・通常で印刷する（工場出荷時の設定）

PDF 設定メニューの設定を変更する

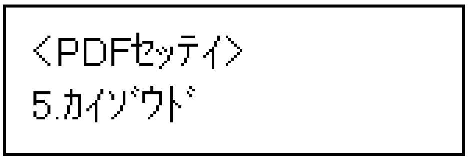
1 操作部の［メニュー］キーを押します。



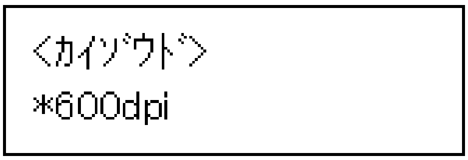
2 [△][▽]キーを押して、「PDF セッテイ」を表示させ、[OK]キーを押します。



3 [△][▽]キーを押して、「5. カイゾウド」を表示させ、[OK]キーを押します。

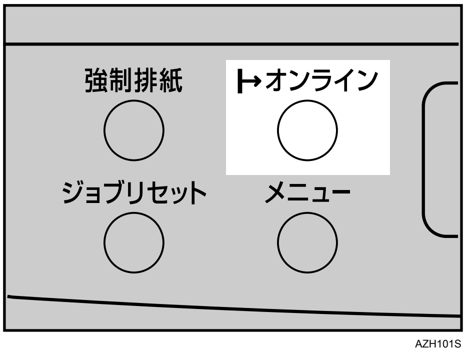


4 [△]［▽］キーを押して設定を変更し、[OK]キーを押します。



設定が確定し、PDF 設定メニューに戻ります。

5 ［オンライン］キーを押します。



通常画面に戻ります。

5

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

♦ 受信バッファ（ジュシンバッファ）

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

・128KB（工場出荷時の設定）
・256KB

♦ インターフェース切り替え時間（I/F キリカエジカン）

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効にしておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると1つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

・10 秒
・15 秒（工場出荷時の設定）
・20 秒
・25 秒
・60 秒

♦ ネットワーク設定（ネットワークセッテイ）

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するために設定をします。
インターフェース選択は、オプションの拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

- IPv4 設定
  - DHCP
    On
    Off（工場出荷時の設定）
  - IPv4 アドレス
    DHCP が「On」の場合はアドレスの表示のみ
    DHCP が「Off」の場合はアドレスの設定
  - サブネットマスク
    DHCP が「On」の場合はアドレスの表示のみ
    DHCP が「Off」の場合はアドレスの設定
  - ゲートウェイアドレス
    DHCP が「On」の場合はアドレスの表示のみ
    DHCP が「Off」の場合はアドレスの設定
- IPv6 設定
  - ステートレス機能
    有効（工場出荷時の設定）
    無効
- NW フレームタイプ
  - 自動選択（工場出荷時の設定）
  - Ethernet Ⅱ
  - Ethernet 802.2
  - Ethernet 802.3
  - Ethernet SNAP
- 有効プロトコル
  - IPv4
    有効（工場出荷時の設定）
    無効
  - IPv6
    有効
    無効（工場出荷時の設定）
  - Netware
    有効
    無効（工場出荷時の設定）
  - SMB
    有効（工場出荷時の設定）
    無効
  - AppleTalk
    有効（工場出荷時の設定）
    無効

- イーサネット速度
  イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を設定します。
  - 自動選択（工場出荷時の設定）
  - 10M 半二重
  - 10M 全二重
  - 100M 半二重
  - 100M 全二重
- インターフェース選択
  ネットワーク通信に使用するインターフェースを選択します。
  オプションの無線 LAN ボードが装着されているときに表示されます。
  - イーサネット（工場出荷時の設定）
  - IEEE 802.11b

参照

- 『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」

♦ パラレルインターフェース設定（パラレル I/F セッテイ）

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張 1284 ボード装着時に表示されます。

- パラレルタイミング
  パラレルインターフェースのタイミングを設定します。
  - ACK inside
  - ACK outside（工場出荷時の設定）
  - STB down
- パラレル通信速度
  パラレル通信で DMA 転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。
  - 高速（工場出荷時の設定）
  - 標準
- セレクト状態
  パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。
  - High（工場出荷時の設定）
  - Low
- インプットプライム
  インプットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。
  - 有効
  - 無効（工場出荷時の設定）
- 双方向通信
  パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、「OFF」に設定します。
  - する（工場出荷時の設定）
  - しない

◆ IEEE 802.11b 設定（IEEE 802.11b）
無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。オプションの無線 LAN ボードが装着されているときに表示されます。

◆ 通信モード（ツウシンモード）
無線 LAN の通信モードを設定します。
通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。
・802.11 アドホック（工場出荷時の設定）
・インフラストラクチャー
・アドホック

◆ チャンネル（チャンネル）
アドホックモード選択時に使用するチャンネルを 1〜11 の間で設定します。

◆ 通信速度（ツウシンソクド）
無線 LAN の通信速度を設定します。
・自動設定（工場出荷時の設定）
・11 Mbps 固定
・5.5 Mbps 固定
・2 Mbps 固定
・1 Mbps 固定

◆ SSID
SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。
SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号＜ ASCII 0x20〜0x7e ＞で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。
SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。
・表示
・入力

◆ セキュリティー方式（セキュリティー ホウシキ）
無線 LAN の暗号化するかしないか、する場合はその方式を選択し、WEP キーや PSK を設定します。
・選択しない（工場出荷時の設定）
・WEP
変更する（HEX）：WEP キーを 16 進数で入力します。64bit WEP を使用する場合は 10 桁、128bit WEP を使用する場合は 26 桁を入力します。
変更する（ASCII）：WEP キーを ASCII 文字列で入力します。64bit WEP を使用する場合は 5 桁、128bit WEP を使用する場合は 13 桁を入力します。
WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。
・WPA
暗号方式：TKIP/CCMP（AES）
認証方式：WPA-PSK（ASCII 文字列で 8〜63 桁の文字が使用できます。）/WPA（802.1X）（この方式を選択した場合は、別途 Web Image Monitor にて証明書を導入してください。）
PSK 入力：8〜63 桁の間で入力します。

補足

- Web Image Monitor からの設定方法について詳しくは「Web ブラウザを使う」、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

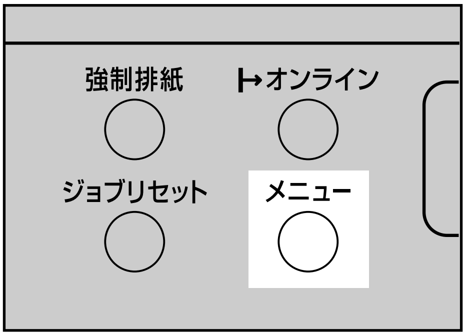
参照

- P.159 「Web ブラウザを使う」

インターフェース設定メニューの設定を変更する

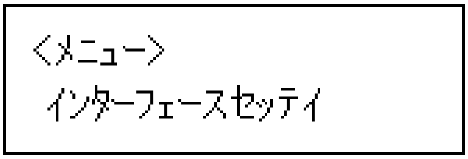
インターフェース設定メニュー「受信バッファ」の変更方法を例として説明します。

1 操作部の［メニュー］キーを押します。

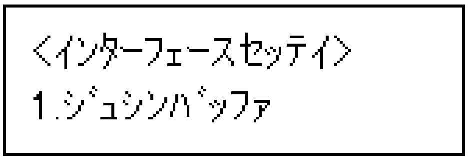


AZH100S

2 ［▵］［▿］キーを押して、「インターフェースセッテイ」を表示させ、［OK］キーを押します。



3 ［▵］［▿］キーを押して、「1. ジュシンバッファ」を表示させ、［OK］キーを押します。

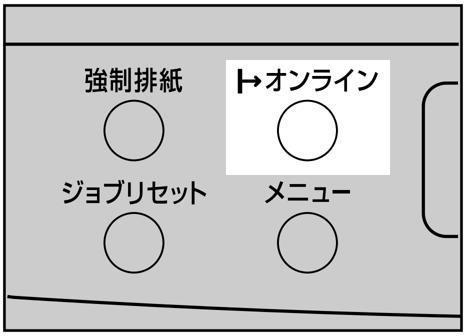


4 [△] [▽] キーを押して「256KB」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ｼﾞｭｼﾝﾊﾞｯﾌｧ>
*256 KB

設定が確定し、2 秒後にインターフェース設定メニューに戻ります。

5 [オンライン] キーを押します。



AZH101S

通常の画面が表示されます。

表示言語メニュー

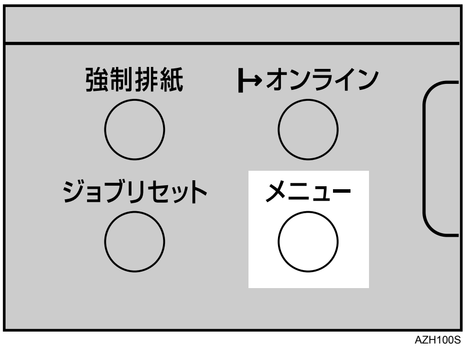
本機のパネル表示言語を選択します。

表示言語を変更する

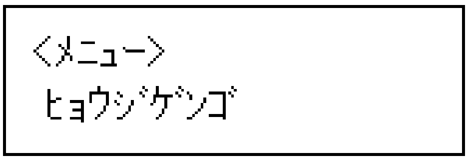
★重要

・オプションのエミュレーションでは、英語表示はできません。

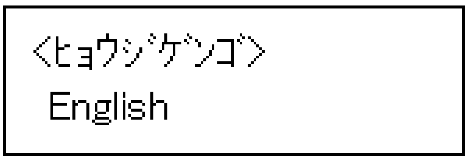
1 操作部の［メニュー］キーを押します。



2 ［△］［▽］キーを押して、「ヒョウジゲンゴ」を表示させ、［OK］キーを押します。

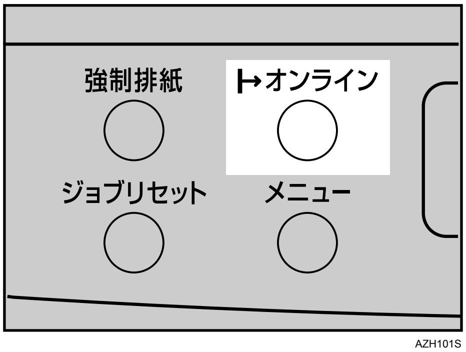


3 ［△］［▽］キーを押して、「English」を表示させ、［OK］キーを押します。



設定が確定し、2 秒後に表示言語メニューに戻ります。

4 ［オンライン］キーを押します。



通常の画面が表示されます。

5

6. 機器の監視

Web Image Monitor を使った設定について説明しています。

Web ブラウザを使う

Web ブラウザを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

★ 重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

♦ どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザ上からできる機能です。

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- 機器の状態／設定の表示
- ジョブの状態／履歴の確認
- 印刷中ジョブの中止
- 本機のリセット
- アドレス帳の管理
- 本機の各種設定
- メール通知機能の設定
- ネットワークプロトコルに関する設定
- セキュリティーの設定

♦ 本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

♦ 推奨ブラウザ

- Windows 環境：
  Internet Explorer 5.5 SP2 以降
  Firefox 1.0 以降
- Macintosh 環境：
  Firefox 1.0 以降
  Safari 1.0、1.2、2.0（412.2）以降

補足

- 使用するブラウザのバージョンが推奨ブラウザより低い場合や、使用するブラウザの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ブラウザの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Mac OS 10.4.1 上の Safari はご使用になれません。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。

トップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

1 **Web ブラウザを起動します。**

2 **Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

Web Image Monitor のトップページが表示されます。
DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。
サーバー証明書を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力します。
Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。



AZH185S

1 ヘッダーエリア
ヘルプ、RICOH Homepage へのリンクや、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2 メニューエリア
それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。
メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

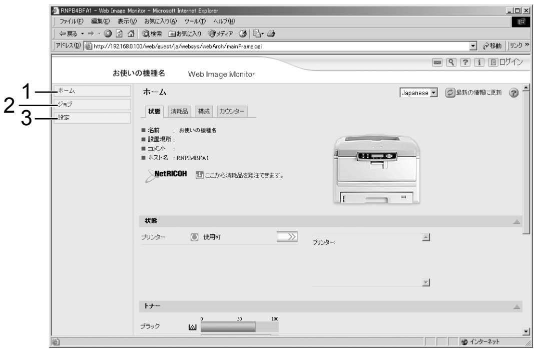
3 ワークエリア
トップページでは、現在の機器の状態を表示します。
また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。
ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Web ブラウザ画面全体を更新したい場合は、ブラウザの［更新］をクリックしてください。

4 ヘルプ
ヘルプファイルを閲覧したり、ダウンロードしたりすることができます。

メニュー構成とモード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

♦ ゲストモード
ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



AZH186S

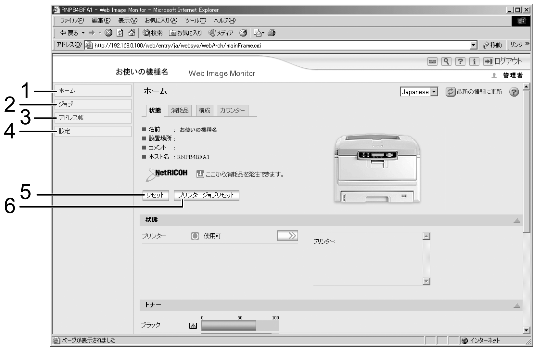
1 ホーム
給紙トレイ、排紙トレイとトナー残量の状態表示、本機の機能、システム情報とカウンターの表示、および搭載されているエミュレーションが表示されます。

2 ジョブ
実行中／待機中ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴の一覧表示一覧表示ができます。

3 設定
現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。
また、ヘルプファイルのダウンロードをすることができます。

♦ **管理者モード**

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



AZH187S

1 ホーム

［状態］タブ、［消耗品］タブ、［構成］タブ、［カウンター］タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2 ジョブ

各ジョブの一覧を表示することができます。

3 アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

4 設定

本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティの設定ができます。

5 リセット

トップページの［リセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

6 プリンタージョブリセット

トップページの［プリンタージョブリセット］ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

補足

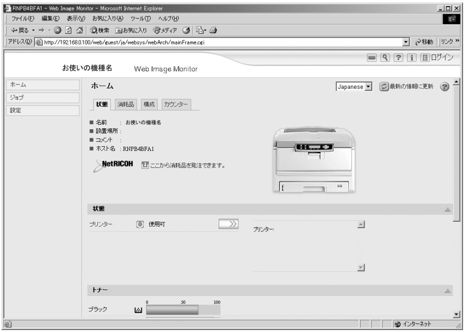
- 表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

6

管理者モードでアクセスする

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスする方法です。

1 Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

2 **ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

Web Image Monitor のヘルプをはじめてご使用になる場合、ヘッダーエリアに表示された［ヘルプ］、またはワークエリアに表示された？マークのアイコンをクリックすると設定画面が表示され、2 種類の方法で Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。



♦ **インターネットの Web Image Monitor のヘルプを見る**

最新の Web Image Monitor のヘルプを見ることができます。

♦ **Web Image Monitor のヘルプをダウンロードして見る**

Web Image Monitor のヘルプをお使いのパソコンのローカルディスクへダウンロードして見ることができます。ヘルプの URL にローカルディスクのパスを指定すると、インターネットへ接続せずにヘルプを見ることができます。

補足

- ヘッダーエリアに表示された［ヘルプ］をクリックすると、通常は Web Image Monitor のヘルプの目次を表示します。
- ワークエリアに表示された？マークのアイコンをクリックすると、通常はワークエリアに表示された内容についてのヘルプを表示します。

ヘルプのダウンロード

1 使用している OS をドロップダウンメニューから選択します。



2 使用している言語をドロップダウンメニューから選択します。

3 ［ダウンロード］をクリックします。

4 表示されるメッセージに従って、ヘルプファイルをダウンロードします。

5 ダウンロードした圧縮ファイルを任意の場所に保存し、解凍します。

ダウンロードした Web Image Monitor のヘルプを見る場合は、解凍した場所のパスを設定してください。

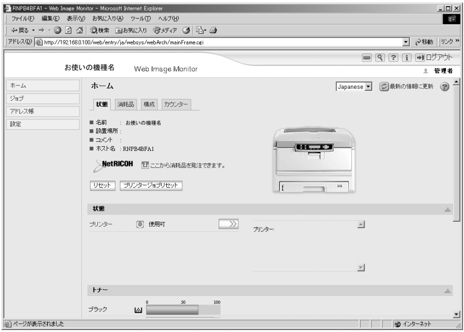
6

ヘルプへのアドレス (URL) リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された [ヘルプ] のアドレス (URL) を次の手順でリンクすることができます。

1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします。

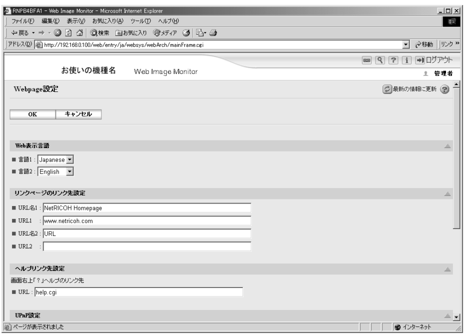
2 画面左のメニューから［設定］をクリックします。



3［Webpage］メニューの［Webpage 設定］をクリックします。



4「ヘルプリンク先設定」の［URL］にヘルプファイルへのパスを入力します。



例えば、C:¥HELP¥JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file://C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーしていて URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。

5［OK］をクリックします。

Ridoc IO Admin を使う

Ridoc IO Admin は TCP/IP プロトコル、IPX/SPX プロトコルを使ってネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。ネットワーク管理者の方がお使いになることをお勧めします。

重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

♦ Windows の対象 OS とプロトコルスタック

- Windows 95/98/Me 日本語版
  Windows 95/98/Me に同梱の TCP/IP プロトコル
  Windows 95/98/Me に同梱の IPX/SPX 互換プロトコル
  Windows 95/98/Me に同梱の NetWare ネットワーククライアント
  NetWare Client32 for Windows 95
  IntraNetWare Client for Windows 95
  Novell Client for Windows 95/98/Me
- Windows 2000 日本語版
  Windows 2000 に同梱の TCP/IP プロトコル
  Windows 2000 に同梱の IPX/SPX トランスポート
  Windows 2000 に同梱の NetWare 用クライアント
  Novell Client for Windows NT/2000/XP
- Windows XP 日本語版
  Windows XP に同梱の TCP/IP プロトコル
  Windows XP に同梱の IPX/SPX プロトコル
  Novell Client for Windows NT/2000/XP
- Windows Vista 日本語版
  Windows Vista に同梱の TCP/IP プロトコル
  Novell Client for Windows Vista
- Windows Server 2003/2003 R2 日本語版
  Windows Server 2003/2003 R2 に同梱の TCP/IP プロトコル
  Windows Server 2003/2003 R2 に同梱の IPX/SPX トランスポート
- Windows NT 4.0 日本語版
  Windows NT 4.0 に同梱の TCP/IP プロトコル
  Windows NT 4.0 に同梱の IPX/SPX 互換プロトコル
  Windows NT 4.0 に同梱の Client Service for NetWare
  NetWare Client32 for Windows NT
  IntraNetWare Client for Windows NT
  Novell Client for Windows NT/2000/XP

♦ **どんなことができるのか？**

Ridoc IO Admin では以下の操作ができます。

- 機器の操作部からの設定を制限し、一部の項目を変更できないようにします。
- 機器にセットされている用紙の種類を設定できます。
- 省エネモードへの切り替え、復帰などを設定できます。
- 印刷中、用紙切れなどの情報をパソコン上で確認できます。
- 同時に複数の機器を監視できます。機器の台数が多いときはグループを作り、管理しやすいように機器を分類できます。
- 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- 機器のネットワークに関する設定を変更できます。
- パソコンから行ったジョブの結果を確認できます。
- ユーザーコードごとのカウンター情報を確認できます。
- 登録されたユーザーコードごとに、印刷の利用可・不可を管理できます。
- 機器の状態変化をグループごとに設定し、通知することができます。
- メールの送信者名やフォルダの宛先を保護します。

Ridoc IO Admin のインストール

Ridoc IO Admin のインストールについての説明です。

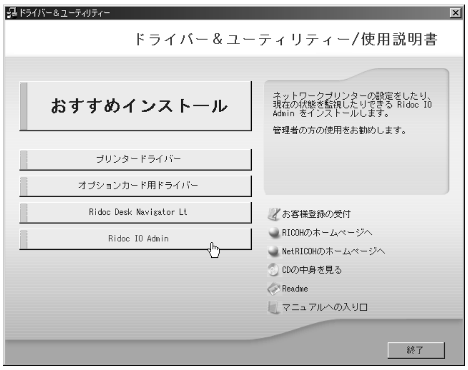
重要

- 起動しているすべてのアプリケーションを終了し、パソコンが印刷中でないか確認してください。

1 本機に同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

2 セットアップ画面が表示されたら、[Ridoc IO Admin] をクリックします。



Ridoc IO Admin のセットアップ画面が表示されます。

3 [次へ] をクリックします。

4 [使用許諾契約] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。

5 **表示されるメッセージに従って Ridoc IO Admin をインストールします。**

インストールが完了するとメッセージが表示されます。

6 **[OK]をクリックします。**

「Windowsの再起動」ダイアログが表示される場合は、Windowsを再起動してください。

補足

- システムの設定によってはインストーラーが自動的に起動しないことがあります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

機器の状態を表示する

機器の状態を表示する方法の説明です。

1 **Ridoc IO Admin を起動します。**

2 **[グループ]メニューをクリックします。**

3 **[機器検索]をポイントし、プロトコルを選びます。**

選択できるプロトコルは以下のとおりです。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

- IPv4
- IPX/SPX
- IPv4 SNMPv3

  IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。



一覧に機器の状態がアイコンで表示されます。

4 **より詳しい状態を知りたい場合は、一覧で状態を知りたい機器をクリックして反転表示させ、[機器]メニューの[開く]をクリックします。**

選択した機器の状態が、ダイアログに表示されます。

5 **Ridoc IO Admin を終了します。**

補足

- ダイアログの各項目の詳細については、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。

6

ユーザー情報を管理する

Ridoc IO Admin でユーザー情報を管理する方法の説明です。
ユーザー情報管理ツールを使用して、ユーザーコードごとの印刷枚数を管理したり、利用可能な機能を制限したりすることができます。

ユーザー情報管理ツールを起動する

ユーザー情報管理ツールを起動する方法の説明です。

1. Ridoc IO Admin を起動します。
2. ［グループ］メニューをクリックし、［機器検索］をポイントし、［IPv4］、［IPX/SPX］または［IPv4 SNMPv3］をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
   機器の一覧が表示されます。
   IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
3. 一覧からユーザー情報を管理する機器をクリックして反転表示させます。
4. ［ツール］メニューの［ユーザー情報管理ツール］を選択します。



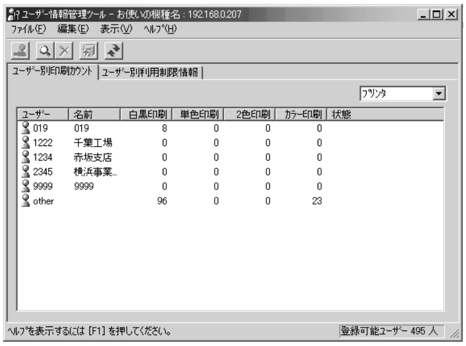
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

6

5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して［ログイン］をクリックします。

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー情報管理ツールが起動します。



補足

- ユーザー情報管理ツールについて詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。

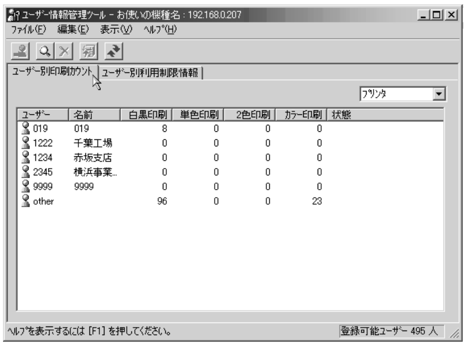
6

印刷枚数を表示する

ユーザー別の印刷枚数情報を表示する方法の説明です。

1 Ridoc IO Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

2 ［ユーザー別印刷カウント］タブをクリックします。



本機で印刷した枚数に関する情報が表示されます。

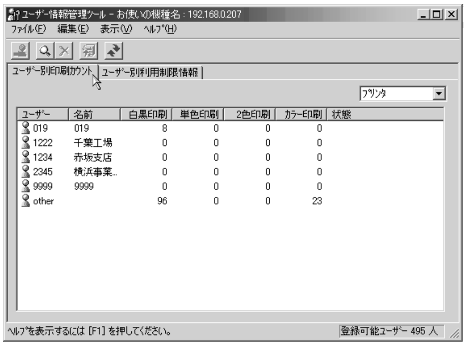
3 ［ファイル］メニューの［終了］をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

印刷枚数の情報を保存する

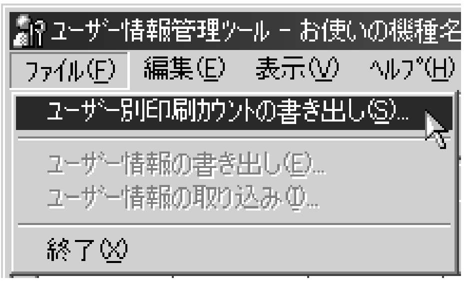
ユーザー別の印刷枚数情報を csv ファイルで保存する方法の説明です。

1 Ridoc IO Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

2 ユーザー情報管理ツールの［ユーザー別印刷カウント］タブをクリックします。



3 ［ファイル］メニューをクリックし、［ユーザー別印刷カウントの書き出し］をクリックします。



4 保存するフォルダとファイル名を指定し、［保存］をクリックします。

5 ［ファイル］メニューの［終了］をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

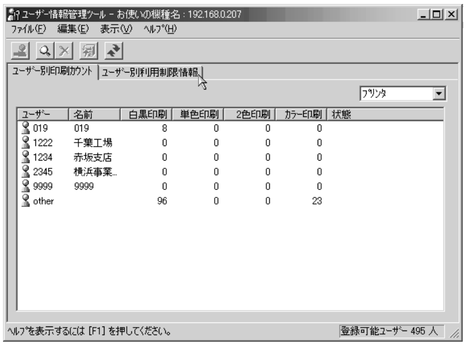
6

印刷枚数の情報をリセットする

ユーザーごとに、印刷枚数の情報をリセットし、表示を 0 に戻す方法の説明です。

1 Ridoc IO Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

2 ユーザー情報管理ツールの［ユーザー別印刷カウント］タブをクリックします。



3 リセットするユーザーをクリックします。



4 ［編集］メニューをクリックし、［ユーザー別印刷カウントのリセット］をクリックします。

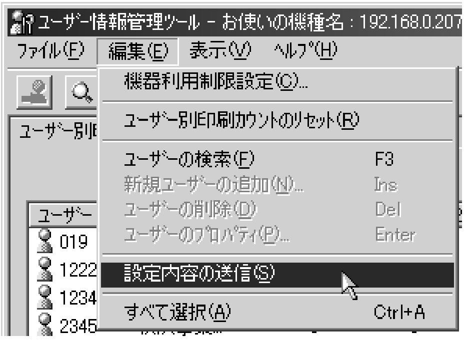


5 リセットする項目のチェックボックスにチェックを付け、[OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックします。

7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



変更した情報が本機に反映されます。

8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

利用制限を設定する

本機の機能について、機能ごとに利用制限を設定する方法の説明です。

1 Ridoc IO Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

2 ユーザー情報管理ツールの [編集] メニューをクリックし、[機器利用制限設定] をクリックします。



3 利用制限を設定する機能のチェックボックスにチェックを付けます。



4 ［OK］をクリックします。

設定内容が本機に反映されます。

5 ［ファイル］メニューの［終了］をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

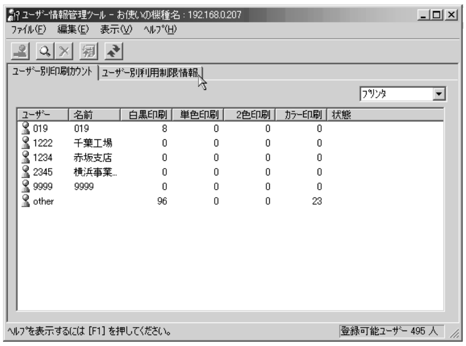
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する

ユーザーごとに利用可能な機能を設定する方法の説明です。

ここでは、ユーザーを追加して利用可能な機能を設定する方法を説明します。

1 Ridoc IO Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。

2 ユーザー情報管理ツールの［ユーザー別利用制限情報］タブをクリックします。

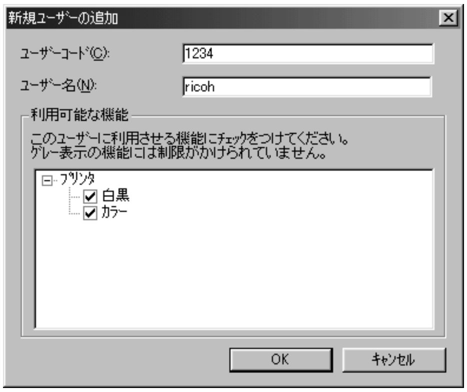


3 [編集]メニューをクリックし、[新規ユーザーの追加]をクリックします。



4 ユーザーコードと名前を入力します。

5 追加したユーザーに使用を許可する機能のチェックボックスにチェックを付けます。

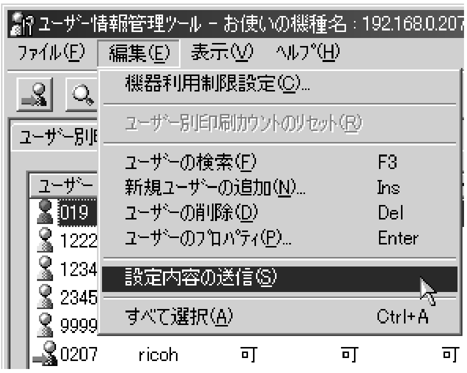


チェックボックスがグレーになっている機能は利用制限が設定されていません。

6 [OK]をクリックします。

ユーザーが追加されます。

7 [編集]メニューをクリックし、[設定内容の送信]をクリックします。



設定内容が本機に反映されます。

8 ［ファイル］メニューの［終了］をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

補足

・利用制限の設定方法について詳しくは、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。

機器の設定を変更する

Web Image Monitor を使って機器の設定を変更する方法の説明です。Ridoc IO Admin から Web Image Monitor を起動させて設定することもできます。
ここでは以下の設定変更の方法を説明します。
・機器側操作部のメニューをロックする設定
・用紙種類の設定
・管理者用パスワードの設定
・本体機器名とコメントの設定

■Web Image Monitor で設定画面を表示する

Web Image Monitor で、各項目の設定画面を表示させるまでの方法は共通となります。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。
DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。
サーバー証明書を発行し、SSL（暗号化通信）の設定をしている場合は、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力します。
Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。

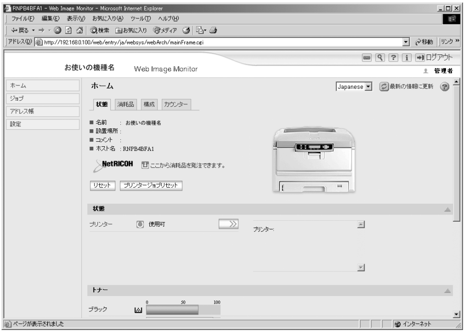
3 Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 画面左のメニューから［設定］をクリックします。



設定の画面が表示されますので、必要な項目をクリックします。

6 設定を変更し、［OK］をクリックします。

7 ［ログアウト］をクリックします。

8 Web ブラウザを閉じます。

補足

- それぞれの設定方法については、各項目をご覧下さい。

参照

- P.178 「機器側操作部のメニューをロックする」
- P.179 「用紙種類を設定する」
- P.180 「管理者用パスワードを設定する」
- P.180 「本体機器名とコメントを変更する」

■Ridoc IO Admin から Web Image Monitor を起動する方法

1 Ridoc IO Admin を起動します。

2 ［グループ］メニューをクリックし、［機器検索］をポイントし、［IPv4］、［IPX/SPX］または［IPv4 SNMPv3］をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。



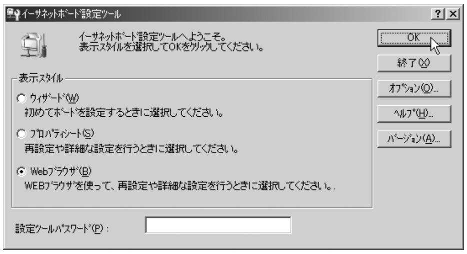
3 一覧から設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。

6

4 ［ツール］メニューの［イーサネットボード設定］を選択します。

イーサネットボード設定ツールが起動します。

5 表示スタイルの［Web ブラウザ］にチェックを入れ、［OK］をクリックします。



Web ブラウザが起動します。

6 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

7 「Web Image Monitor で設定画面を表示する」の手順５からと同様の手順で設定します。

6

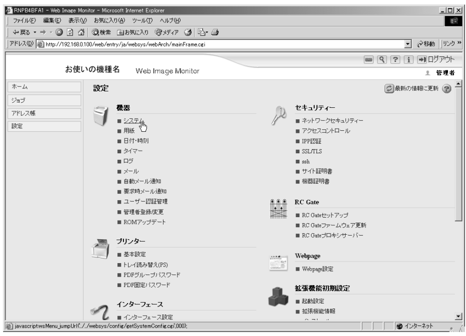
機器側操作部のメニューをロックする

機器側操作部のメニューをロックする方法の説明です。

1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスし、［設定］をクリックします。

手順の詳細については「Web Image Monitor で設定画面を表示する」を参照してください。

2 ［機器］の［システム］をクリックします。



Web Image Monitor にシステム設定画面が表示されます。

3 ［機器側プリンター操作部のメニュープロテクト］で［レベル１］、または［レベル２］を選びます。

4 ［OK］をクリックします。

5 Web Image Monitorを終了します。

補足

- 設定項目の詳細は、Web Image Monitorのヘルプを参照してください。
- Ridoc IO AdminからWeb Image Monitorの設定画面を表示する場合は、「Ridoc IO AdminからWeb Image Monitorを起動する方法」の手順4で、［イーサネットボード設定］ではなく、［機器側操作部のメニューロック］を選択します。

用紙種類を設定する

用紙種類を設定する方法の説明です。

1 管理者モードでWeb Image Monitorにアクセスし、［設定］をクリックします。

手順の詳細については「Web Image Monitorで設定画面を表示する」を参照してください。

2 ［機器］の［用紙］をクリックします。



Web Image Monitorに用紙設定画面が表示されるので、設定を変更し、［OK］をクリックします。

3 Web Image Monitorを終了します。

補足

- 設定項目の詳細は、Web Image Monitorのヘルプを参照してください。
- Ridoc IO AdminからWeb Image Monitorの設定画面を表示する場合は、「Ridoc IO AdminからWeb Image Monitorを起動する方法」の手順4で、［イーサネットボード設定］ではなく、［用紙種類設定］を選択します。

管理者用パスワードを設定する

管理者用パスワードを設定する方法の説明です。

1. 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスし、[設定] をクリックします。

   手順の詳細については「Web Image Monitor で設定画面を表示する」を参照してください。

2. [機器] の [管理者登録 / 変更] をクリックし、設定を変更します。

3. Web Image Monitor を終了します。

本体機器名とコメントを変更する

本体機器名とコメントを変更する方法の説明です。

1. 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスし、[設定] をクリックします。

   手順の詳細については「Web Image Monitor で設定画面を表示する」を参照してください。

2. [機器] の [システム] をクリックし、設定を変更します。

3. Web Image Monitor を終了します。

補足

- [名前] には、本体機器名を半角英数字 31 バイト以内で入力します。
- 工場出荷時にはRNPで始まる名前が設定されています。RNPで始まる名前は入力できません。
- [コメント] には、機器のコメントを半角英数字 31 バイト以内で入力します。

Ridoc IO Navi を使う

Ridoc IO Navi を使って機器を監視する方法の説明です。

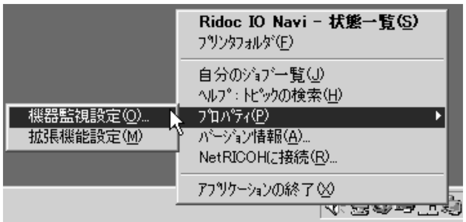
重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

監視する機器を設定する

Ridoc IO Navi で監視する機器を設定する方法の説明です。

1 タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューの［プロパティ］-［機器監視設定］をクリックします。



2 ［Ridoc IO Navi- 設定］ダイアログが表示されます。

3 監視するプリンターをクリックして反転表示させ、［設定］の［監視対象にする］にチェックを付けます。



［タスクバーメニューに表示する］にチェックを付けると、選択しているプリンターの状態がタスクバーメニューにアイコンで表示されるようになります。
［タスクバーアイコンに表示する］にチェックを付けると、タスクトレイの Ridoc IO Navi アイコンにプリンターの状態がアイコンで表示されるようになります。

6

4　［OK］をクリックします。

ダイアログが閉じ、設定したプリンターが監視の対象に含まれます。

補足

・状態アイコンの詳細についてはヘルプを参照してください。

機器の状態を表示する

Ridoc IO Navi で機器の状態を表示する方法の説明です。

1　タスクトレイの右端のRidoc IO Naviアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、状態を知りたい機器をクリックします。



機器の状態が、ダイアログに表示されます。



補足

・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi で IPP を使用する場合

Ridoc IO Navi で IPP を使用する際の注意事項です。

- 本機が受け付ける Ridoc IO Navi からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Ridoc IO Navi は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Ridoc IO Navi が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが一時停止されます。この場合、プリンターウィンドウで一時停止を解除する必要があります。このとき、本機に接続し直されます。印刷ジョブは、プリンターウィンドウで取り消すことができますが、本機が印刷を開始してから印刷ジョブを取り消すと、この次にプリンターに接続したユーザーの印刷ジョブが正しく印刷できなくなる場合があります。
- Ridoc IO Navi からの印刷ジョブが途切れて印刷できなくなって本機により印刷ジョブが取り消された場合は、印刷の操作をもう一度やり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Ridoc IO Navi を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Ridoc IO Navi がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスするとき、［セキュリティの警告］が表示された場合、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、［証明書のインポートウィザード］で証明書ストアの場所は、［証明書をすべて次のストアに配置する］を選択し、［信頼されたルート］の［ローカルコンピュータ］を選択します。

補足

- SSL（暗号化通信）について詳しくは、管理者にお問い合わせください。

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。
機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。
アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。
通知設定できるものは、以下の通りです。

- サービスコールが発生した場合
- トナーがなくなった場合
- トナーの残りがわずかになった場合
- 紙づまりがおきた場合
- ドアオープンが検知された場合
- 紙がなくなった場合
- 紙の残りがわずかになって場合
- 給紙トレイでエラーが発生した場合
- 排紙トレイが満杯になった場合
- ユニットの接続にエラーが発生した場合
- ログエラーになった場合

重要

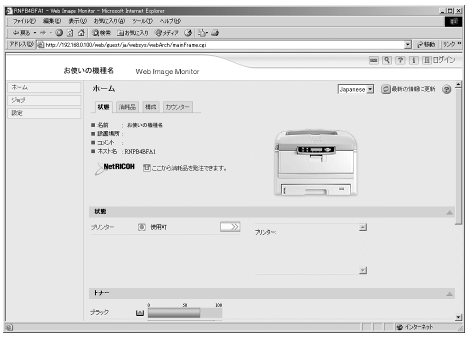
- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

1 **本機の操作部を使用して、［システムセッテイ］メニューの［ジドウメールツウチ］を［スル］に設定します（工場出荷時は［スル］に設定されています）。**

2 **Web ブラウザを起動し、アドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力します。
Web Image Monitor のトップページが表示されます。

3 **Web Image Monitor のトップページで、［ログイン］をクリックします。**

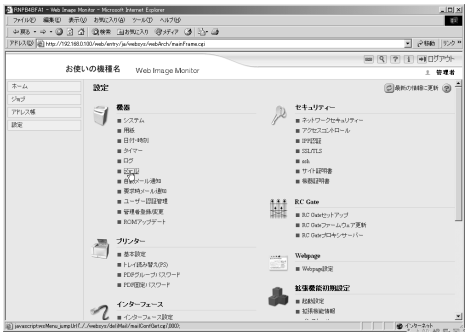


ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 **画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］エリアの［メール］をクリックします。**



6 **設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。**

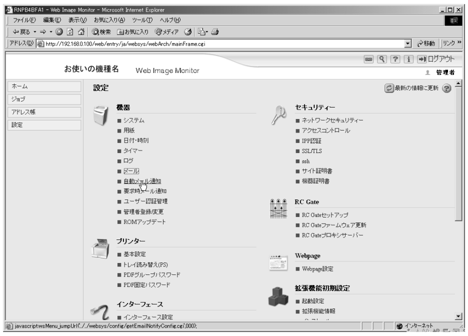
- 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「SMTP 認証の場合」を参照してください。
- POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
  POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「POP before SMTP 認証の場合」を参照してください。
- POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- メール通信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

7 **［OK］をクリックします。**

「自動メール通知」の設定

1 画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］エリアの［自動メール通知］をクリックします。

通知項目に関する設定画面が表示されます。



2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 通知先グループ欄の各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
- 項目ごとの通知先欄の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。
  項目の詳細を設定する場合は、［各項目の詳細設定：］の［編集］をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して［OK］をクリックします。

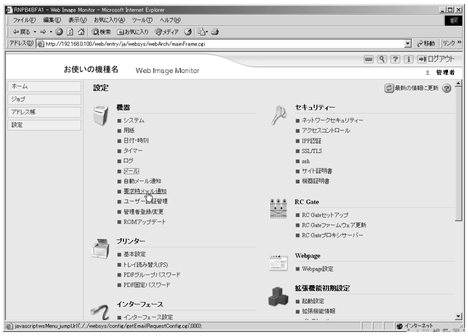
3 ［OK］をクリックします。

4 ［ログアウト］をクリックします。

5 Web ブラウザを閉じます。

「要求時メール通知」の設定

1 画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］エリアの［要求時メール通知］をクリックします。



2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
- 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
- 要求時メール通知のアクセス制限の各項目：機器の設定内容や状態など、分類された情報ごとに、アクセスを制限するかどうかを選択します。
- 受信可能メールアドレス／ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

3 ［OK］をクリックします。

4 ［ログアウト］をクリックします。

5 Web ブラウザを閉じます。

6

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

■SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

1 **画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］メニューの［メール］をクリックします。**

2 **設定画面に示された以下の項目を設定します。**

- SMTP サーバー名：SMTP サーバー名を半角の英数字で入力します。
- SMTP ポート番号：SMTP サーバーにメールを送信するときに使用するポートの番号を半角の数字で入力します。
- SMTP 認証：SMTP 認証の有効（する）／無効（しない）を指定します。
- SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に＠ realmID の形式で追加してください。
- SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
- SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。
  ［自動選択］：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
  ［有効］：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
  ［無効］：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。

3 **［OK］をクリックします。**

4 **［ログアウト］をクリックします。**

5 **Web ブラウザを閉じます。**

6

■POP before SMTP 認証の場合

メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

1 画面左のメニューから［設定］をクリックし、［機器］メニューの［メール］をクリックします。

2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- POP before SMTP：メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。
- POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
- POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
- POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。

3 ［OK］をクリックします。

4 ［ログアウト］をクリックします。

5 Web ブラウザを閉じます。

要求時メールの送信

要求時メール機能を使用するためには、Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1 ［機器］エリアの［メール］をクリックします。

2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- メール通知ユーザー名:メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

3 ［OK］をクリックします。

4 ［ログアウト］をクリックします。

5 Web ブラウザを閉じます。

♦ 要求時メールの形式

メール通知機能を使用するためには、設定した要求メールを本機に対して送信する必要があります。

お使いのメールソフトにて、以下の形式で記述してください。

項目	内容
Subject（メールソフトでは「件名」などと表示される部分）	機器に対する要求内容を記述します。詳細はSubject フィールドを参照してください。
From（メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分）	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

補足

- メールの大きさは最大 10KB です。

♦ Subject フィールド

書式：devicestatus?引数名＝パラメータ [&引数名＝パラメータ [&引数名＝パラメータ]]...

補足

- 英字の大文字と小文字は区別されません。
- 引数名の記述順序は任意です。

Subject フィールドの記述例

記述例	動作
devicestatus?request=sysconfig&format=text&lang=en	機器のシステムコンフィグレーション情報が、英語のテキストフォーマットで送信されてきます。
devicestatus?request=sysconfig	機器のシステムコンフィグレーション情報が、事前に設定されているメールフォーマットとメール言語で送信されてきます。

引数名一覧

引数名	意味	省略時の動作
request	取得したい情報	省略不可
format	メールフォーマット	メールアドレスごとに事前に、設定されているフォーマットでメールが送信されます。
lang	メール本文の言語	メールアドレスごとに事前に、設定されている言語でメールが送信されます。

取得情報指定時のパラメータ

取得情報	パラメータ
システム・コンフィグレーション情報	sysconfig
ネットワーク・コンフィグレーション情報	netconfig
プリンタ・コンフィグレーション情報	prtconfig
サプライ情報	supply
機器ステータス情報	status

メールフォーマット指定時のパラメータ

メールフォーマット	パラメータ
テキスト	text
HTML	html
XML	xml

Subject フィールドに HTML や XML なども記述できますが、出力方式はテキストのみとなります。

メール本文言語指定時のパラメータ

言語	パラメータ
日本語	ja
英語	en

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容の確認や、各種の設定を行うことができます。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- リモートメンテナンス（mshell）はネットワーク管理者だけが使用できるように、パスワードを設定して運用してください。
- パスワードは Web Image Monitor による設定で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順についての説明です。

重要

- リモートメンテナンスを同時に複数のユーザーが使用することはできません。

6

1 本機の IP アドレス（またはホスト名）を引数にして telnet を起動します。

`% telnet 本機のアドレス`

2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

3 コマンドを入力します。

4 telnet を終了します。

`msh> logout`

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、Enter キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、Enter キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、Enter キーを押します。

補足

- 「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- 変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェースボードがリセットされます。
- リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> access
```

♦ IPv4 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range 開始アドレス　終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

♦ IPv6 のアクセスレンジの設定

```
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス　終了アドレス
```

（例）アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

♦ IPv6 のアクセスマスクの設定

```
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32
```

♦ アクセスコントロールの初期化

```
msh> access flush
```

- アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

補足

- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1〜5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1〜128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> autonet
```

♦ AutoNet 機能の設定

```
msh> autonet {on|off}
```

・AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

♦ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> autonet priority
```

♦ インターフェースの優先設定

```
msh> autonet priority インターフェース
```

・AutoNetパラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
・優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

補足

・現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

参照

・P.315 「AutoNet 機能を使用する」

bmlinks

BMLinkS の表示や設定は、bmlinks コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> bmlinks
```

♦ BMLinkS の設定

```
msh> bmlinks パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
plainonly {on|off}	平文による通信のみを行います。 デフォルトでは「off」に設定されています。
paused {always|selectable|none}	機密印刷の動作方式を設定します。 デフォルトでは「selectable」に設定されています。 本機は機密印刷には対応していません。
timeout [30-65535]	印刷データの受信タイムアウト時間を設定します。 デフォルトでは 900 秒に設定されています。
devicename 文字列	BMLinkS プリンタサービス名を設定します。 デフォルトは、RNPxxxxxx です。これは、システム設定リストの「インターフェース情報」に記載されている「プリンタ名」です。
country 文字列	国名情報を設定します。 デフォルトは JP です。
organization 文字列	会社／組織名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
branch 文字列	支店名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
building 文字列	ビル名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
floor 文字列	階数情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。
block 文字列	ブロック名情報を設定します。 デフォルトでは何も設定されていません。

♦ 設定のリセット

```
msh> bmlinks clear パラメーター
```

bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> bonjour
```

♦ コンピューター名の設定

```
msh> bonjour cname 文字列
```

・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ 設置場所情報の設定

```
msh> bonjour location 文字列
```

・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

♦ プロトコルごとの優先順位の設定

```
msh> bonjour diprint {0-99}
msh> bonjour lpr {0-99}
msh> bonjour ipp {0-99}
```

・diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。

♦ IP TTL 値の設定

```
msh> bonjour ipttl {1-255}
```

・IP TTL 値（越えられるルータの数）を設定します。初期値は 255 です。

♦ コンピューター名と設置場所情報のリセット

```
msh> bonjour clear {cname | location}
```

・cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
・location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

♦ インターフェースの設定

```
msh> bonjour linklocal インターフェース名
```

・インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
・接続する PC の IP アドレスが、DHCP の Autonet に使用される linklocal アドレスになっており、本機に複数のインターフェースが装着されている場合に、インターフェースを指定することによって通信ができるようにます。
・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

♦ IPP のポート番号選択

```
msh> bonjour ippport [ipp | ssl]
```

- SSL が有効になっているときに表示されます。
- ipp を選ぶとポート番号は 631 に、ssl を選ぶとポート番号は 443 に設定されます。

devicename

本体機器名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

♦ 本体機器名の設定

```
msh> devicename name  文字列
```

- 本体機器名は 31 バイト以下で指定します。
- 1 台の機器に複数の本体機器名を設定することはできません。

♦ 本体機器名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

- 本体機器名を工場出荷時の設定に戻します。

dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

♦ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース {on|off}
```

- DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

♦ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

♦ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース
```

- DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

♦ **DNS サーバーアドレスの選択**

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

♦ **ドメイン名の選択**

```
msh> dhcp domainname {dhcp|static}
```

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

参照

- P.314 「DHCP を使用する」
- P.199 「dns」
- P.200 「domainname」

6

diprint

コンピュータから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> diprint
```

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
timeout = 300(sec)
bidirect on
con multi
apl async
```

- 「port」使用するポート番号が表示されます。
- 「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

♦ **タイムアウトの設定**

```
msh> diprint timeout [30〜65535]
```

- ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- 工場出荷時の設定値は 300（秒）です。

♦ **同時接続数の設定**

```
msh> diprint conn {multi|single}
```

- diprint の同時接続数を multi（複数）、または single（1）に設定します。

dns

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> dns
```

♦ IPv4 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server アドレス
```

- IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1〜3 までです。3 件まで登録できます。
- 「255.255.255.255」は設定できません。

♦ IPv6 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server6 アドレス
```

- IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- 対象 ID は 1〜3 までです。3 件まで登録できます。

♦ ダイナミック DNS 機能の設定

```
msh> dns インターフェー ス ddns {on|off}
```

- ダイナミック DNS 機能の有効／無効を指定します。
- ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

♦ レコード重複時の動作指定

```
msh> dns overlap {update|add}
```

- レコードが重複したときの動作を指定します。
- update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

♦ CNAME の登録

```
msh> dns cname {on|off}
```

- CNAME を登録するかどうかを指定します。
- CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- 登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

♦ A レコードの登録

```
msh> dns arecord {dhcp|own}
```

- dhcp は本機を代行して、DHCP サーバが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「DHCP」で指定した「DNS サーバアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

6

♦ **レコードの更新間隔の設定**

msh> dns interval 更新間隔時間

- ダイナミックDNS機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- 更新間隔を 1 時間単位で指定します。1〜255 の間で指定します。
- 初期値は「24」です。

domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

msh> domainname

♦ **現在の各インターフェースのドメイン名表示**

msh> domainname インターフェース

♦ **各インターフェースのドメイン名設定**

msh> domainname インターフェース name ドメイン名

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと無線LANインターフェースは同じドメイン名になります。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

♦ **各インターフェースのドメイン名削除**

msh> domainname インターフェース clear name

help

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

♦ **コマンド一覧の表示**

msh> help

♦ **コマンド使用方法の表示**

msh> help コマンド名

hostname

ホスト名を変更するには、hostname コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> hostname
```

♦ 現在の各インターフェースのホスト名表示

```
msh> hostname インターフェース
```

♦ 各インターフェースのホスト名の設定

```
msh> hostname インターフェース name ホスト名
```

- ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
- イーサネットインターフェースと無線LANインターフェースは同じホスト名になります。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

♦ 各インターフェースのホスト名の初期化

```
msh> hostname インターフェース clear name
```

ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレス、デフォルトゲートウェイアドレスの表示や設定は、ifconfig コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> ifconfig
```

♦ IPv4 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース アドレス
```

- この設定しない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

（例）イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

♦ IPv6 アドレスの設定

```
msh>ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長
```

(例) イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

```
msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64
```

♦ ネットマスクの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス
```

(例) イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

```
msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0
```

♦ ブロードキャストアドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース broadcast アドレス
```

♦ インターフェース切り替え

```
msh> ifconfig インターフェース名 up
```

（例）接続時にイーサネットを使用する

```
msh> ifconfig ether up
```

- 拡張無線 LAN ボード（オプション）接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

6

補足

- 設定するアドレスはネットワーク管理者に確認してください。
- IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスは、イーサネットインターフェース、無線 LAN インターフェース共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

info

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

♦ 機器情報の表示

```
msh> info
```

参照

- P.223 「ネットワーク経由で確認できる情報」

ipp

IPP の使用環境の設定は、IPP コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> ipp
```

♦ タイムアウトの設定

```
msh> ipp timeout {30 - 65535}
```

・印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30〜65535 秒です。

♦ IPP ユーザー認証方式の設定

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

・IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
・basic または digest で、認証を行います。
・ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

♦ IPP ユーザー名の登録

```
msh> ipp user
```

次のメッセージが表示されます。

```
msh> Input user number (1 to 10):
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
msh> IPP password:*******
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
User configuration changed
```

ipv6

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> ipv6
```

♦ ステートレスアドレスの有効／無効設定

```
msh> ipv6 stateless {on|off}
```

- 「on」に設定すると、本体の電源を ON にした時にルータに対してステートレスアドレス生成に必要な情報を要求します。また、その後もルータから送信させる定期的な情報を取得し、本体のステートレスアドレスの有効期間を更新します。

lpr

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> lpr
```

6

♦ ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効／無効設定

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

- 「on」に設定すると、ジョブを送信したホストの IP アドレスからのみジョブを削除することができます。無効の場合には、ジョブを送信したホストの IP ドレス以外からもジョブの削除が可能となります。

netware

プリントサーバ名、ファイルサーバ名などの Netware 関連の設定は、netware コマンドを使用します。

♦ Netware プリントサーバ名の設定

```
msh> netware pname 文字列
```

- Netware プリントサーバ名を 47 文字以下で指定します。

♦ Netware ファイルサーバ名の設定

```
msh> netware fname 文字列
```

- Netware ファイルサーバ名を 47 文字以下で指定します。

♦ encap タイプの設定

```
msh> netware encap {802.3|802.2|snap|ethernet2|auto}
```

♦ リモートプリンタ番号の設定

```
msh> netware rnum {0 - 254}
```

♦ タイムアウト値の設定

```
msh> netware timeout {3 - 255}
```

♦ プリントサーバーモードへの設定

```
msh> netware mode pserver
msh> netware mode ps
```

♦ リモートプリンタモードへの設定

```
msh> netware mode rprinter
msh> netware mode rp
```

♦ NDS コンテキスト名の設定

```
msh> netware context 文字列
```

♦ SAP インターバル値の設定

```
msh> netware sap_interval {0 - 3600}
```

♦ ログインモードをファイルサーバ指定に設定

```
msh> netware login server
```

♦ ログインモードを NDS ツリー指定に設定

```
msh> netware login tree
```

♦ ログインする NDS ツリー名の設定

```
msh> netware tree NDS ツリー名
```


passwd

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

♦ パスワードの変更

```
msh> passwd
```

- [Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

♦ スーパーバイザーによる管理者のパスワード変更

```
msh> passwd 管理者 ID
```

- 管理者のパスワードを削除、または新規設定することができます。
- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

補足

- パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- 入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 3~8 バイトの範囲です。大文字と小文字も区別されます。

prnlog

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

♦ プリントログ情報の表示

```
msh> prnlog
```

・これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog {ID 番号 }
```

・表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

参照

・P.223 「ネットワーク経由で確認できる情報」

route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示、設定は、route コマンドを使用します。

♦ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

・destination は IPv4 のアドレスを指定します。destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。
・destination を指定しない場合は、すべての route 情報を表示します。

♦ 指定された IPv4 の destination の有効／無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} {destination} {on|off}
```

・{host | net} 省略時は host 設定となります。

♦ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} {destination} {gateway}
```

・destination で表される host（または network）ルートおよび gateway で表されるゲートウェイアドレスをテーブルに追加します。
・destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
・{host | net} 省略時は host 設定となります。

♦ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default {gateway}
```

♦ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} {destination}
```

・{host | net} 省略時は host 設定となります。
・destination は IPv4 のアドレスを指定します。

♦ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default {gateway}
```

♦ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 {destination} prefixlen {gateway}
```

・destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ **指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定**

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

・destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ **IPv6 の該当 route 情報の表示**

```
msh> route get6 {destination}
```

・destination は IPv6 のアドレスを指定します。

♦ **指定された IPv6 の destination の有効／無効の切り替え設定**

```
msh> route active6 {destination} prefixlen {on|off}
```

♦ **全 route 情報の削除設定**

```
msh> route flush
```

補足

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1〜128 の 10 進数です。

set

プロトコルの情報の表示、有効／無効の設定は、set コマンドを使用します。

♦ プロトコルの情報（有効／無効）の表示

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set appletalk
msh> set netware
msh> set smb
msh> set protocol
```

・protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、netware、smb、pictbridge の情報を表示します。

```
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ssl6
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set bonjour
msh> set nbt
msh> set ssdp
msh> set bmlinks
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
```

♦ プロトコルの有効／無効の設定

・プロトコルを有効にするにはupを、無効にするにはdownを指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

・IPv4でのみ通信可能の状態でIPv4を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。

・IPv4を無効にすると、lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjourも使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

・IPv6でのみ通信可能の状態でIPv6を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。

・IPv6を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6も使用できなくなります。

```
msh> set appletalk {up|down}
msh> set netware {up|down}
msh> set smb {up|down}
msh> set lpr {up|down}
msh> set lpr6 {up|down}
msh> set ftp {up|down}
msh> set ftp6 {up|down}
msh> set rsh {up|down}
msh> set rsh6 {up|down}
msh> set diprint {up|down}
msh> set diprint6 {up|down}
msh> set web {up|down}
msh> set snmp {up|down}
msh> set ssl {up|down}
msh> set ssl6 {up|down}
msh> set nrs {up|down}
msh> set rfu {up|down}
msh> set rfu6 {up|down}
msh> set ipp {up|down}
msh> set ipp6 {up|down}
msh> set http {up|down}
msh> set http6 {up|down}
msh> set bonjour {up|down}
msh> set ssh {up|down}
msh> set ssdp {up|down}
msh> set bmlinks {up|down}
msh> set nbt {up|down}
msh> set sftp {up|down}
msh> set sftp6 {up|down}
```

show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

♦ 現在の設定値の表示

```
msh> show
```

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB プロトコルでコンピュータ名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

参照

・P.230 「ネットワークインターフェースボードの情報」

slp

SLP の設定を変更するには、slp コマンドを使用します。

```
msh> slp ttl ttl_val
```

- NetWare 5/5.1 の PureIP 環境でご使用の場合､SLP を用いて NetWare サーバを検索します。slp コマンドを使うと、SLP マルチキャストパケットが使用する TTL 値 (通過できるルーターの数+1) を指定できます。
- 工場出荷時の設定は 1 です。ローカルセグメント内のみで検索します。ただしこの TTL 値を増やした場合でもネットワーク環境で使用のルーター装置がマルチキャスト対応していなければ有効ではありません。
- 設定できる SLP パケットの TTL 値は 1〜255 です。

smb

コンピュータ名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

♦ コンピュータ名の設定

```
msh> smb comp コンピュータ名
```

- 「コンピュータ名」を英数半角 15 文字以下で設定します。RNP または rnp ではじまる名前は設定できません。

♦ ワークグループ名の設定

```
msh> smb group ワークグループ名
```

- 「ワークグループ名」を英数半角 15 文字以下で設定します。

♦ コメントの設定

```
msh> smb comment コメント
```

- 「コメント」を英数半角 31 文字以下で設定します。

♦ 印刷完了通知の設定

```
msh> smb notif {on | off}
```

- 印刷完了通知をする場合は「on」、通知をしない場合は「off」を指定します。

♦ コンピュータ名の削除

```
msh> smb clear comp
```

♦ グループ名の削除

```
msh> smb clear group
```

♦ コメントの削除

```
msh> smb clear comment
```

♦ プロトコルの表示

```
msh> smb protocol [netbeui {up | down} | tcpip {up | down}]
```

- NetBEUI、および TCP/IP プロトコルの有効／無効を指定します。有効にする場合は「up」、無効にする場合は「down」を指定します。

snmp

コミュニティ名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> snmp
```

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  コミュニティ名：public
  IPv4 アドレス：0.0.0.0
  IPv6 アドレス：::
  IPX アドレス：00000000:000000000000
  アクセスタイプ：read-only
  有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX
- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  コミュニティ名：ricoh
  IPv4 アドレス：0.0.0.0
  IPv6 アドレス：::
  IPX アドレス：00000000:000000000000
  アクセスタイプ：read-write
  有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX
- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティ設定内容を表示します。

♦ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

♦ コミュニティ名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティ名
```

- 設定できる登録番号は 1〜10 です。
- 登録番号の 1〜10 に public が存在しない場合、Ridoc IO Admin や Ridoc IO Navi から機器を参照することはできません。コミュニティ名を変更した場合、Ridoc IO Admin とともにインストールされる「SNMP コミュニティ名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティ名を変更してください。
- コミュニティ名は英数半角 15 文字以下で設定します。

♦ コミュニティ名の削除

```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

♦ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

アクセスタイプ	設定される内容
no	アクセスできません (not accessible)
read	情報の読み出しのみ可能 (read-only)
write	情報の読み出しと書き込みが可能 (read-write)
trap	エラー情報を通知 (trap)

♦ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

- 使用可能なプロトコルを選択します。
- プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- すべてのプロトコルを同時に off にすることはできません。

♦ 登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

- 登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

♦ アクセス設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6|ipx} アドレス
```

- 使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- 「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- 「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを、IPX/SPX を使用するときは IPX アドレスを入力します。
- IPXアドレスはホストが接続されているネットワークの番号とホストに取り付けられているネットワークインターフェースボードの MAC アドレス（物理アドレス）をコロン（:）で区切って入力します。

♦ sysLocation の設定

```
msh> snmp location 文字列
```

♦ sysLocation の削除

```
msh> snmp clear location
```

♦ sysContact の設定

```
msh> snmp contact 文字列
```

♦ sysContact の削除

```
msh> snmp clear contact
```

♦ SNMP V1V2 機能の設定

```
msh> snmp v1v2 {on | off}
```

・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ SNMP V3 機能の設定

```
msh> snmp v3 {on | off}
```

・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ SNMP TRAP の設定

```
msh> snmp trap {v1 | v2 | v3} {on | off}
```

・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ リモート設定許可の設定

```
msh> snmp remote {on | off}
```

・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

♦ SNMP V3 TRAP の設定値の表示

```
msh> snmp v3trap
msh> snmp v3trap {1- 5}
```

・1〜5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

♦ SNMP V3 TRAP 送信先アドレスの設定

```
msh> snmp v3trap {1-5} {ipv4|ipv6|ipx} アドレス
```


♦ SNMP V3 TRAP 送信プロトコルの設定

```
msh> snmp v3trap {1-5} active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

♦ SNMP V3 TRAP ユーザーアカウントの設定

```
msh> snmp v3trap {1- 5} account アカウント名
```

・アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

♦ SNMP V3 TRAP ユーザーアカウントの削除

```
msh> snmp v3trap {1- 5} clear account
```

♦ SNMP V3 暗号アルゴリズムの設定

```
msh> snmp v3auth {md5 | sha1}
```

♦ SNMP V3 暗号化の設定

```
msh> snmp v3priv {auto | on}
```

・auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
・on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

補足

・暗号化可能な場合とは、暗号パスワードが設定されていることです。

sntp

SNTP の設定は、sntp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> sntp
```

◆ NTP サーバーアドレスの設定

```
msh> sntp server アドレス
```

◆ インターバルの設定

```
msh> sntp interval インターバル値
```

- 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60（分）です。
- 設定できる値は 0、15～10080（分）です。
- 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。

◆ タイムゾーンの設定

```
msh> sntp timezone +/-時間
```

- NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は－12:00～＋13：00 です。

6

ssdp

SSDP 関連パラメータの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ssdp
```

◆ 有効時間の設定

```
msh> ssdp profile {1801-86400}
```

- 工場出荷時の設定値は 10800（秒）です。

◆ Advertise パケットの TTL の設定

```
msh> ssdp ttl {1-255}
```

- 工場出荷時の設定値は 4 です。

ssh

SSH および SFTP 関連パラメータの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の一覧表示

```
msh> ssh
```

◆ データ圧縮通信の設定

```
msh> ssh compression {on|off}
```

・工場出荷時の設定値は on です。

◆ ssh ／ sftp で通信するポートの設定

```
msh> ssh port {22, 1024-65535}
```

・工場出荷時の設定値は 22 です。

◆ ssh ／ sftp で通信する際のタイムアウト確認 (生存確認) の時間設定

```
msh> ssh timeout {0-65535}
```

・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh ／ sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

```
msh> ssh logintimeout {0-65535}
```

・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh ／ sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長（Keylength）の作成

```
msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列
```

・工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長（Keylength）が 1024、複雑化文字列（Salt）は NULL（無）です。

◆ ssh ／ sftp で通信する際の公開鍵の削除

```
msh> ssh delkey
```

補足

・設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。
・ssh 機能をご使用の場合は、128MB では動作しません。オプションの SDRAM が必要です。

status

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

◆ 表示

```
msh> status
```

参照

・P.223 「ネットワーク経由で確認できる情報」

6

syslog

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

♦ **メッセージの表示**

```
msh> syslog
```

参照

・P.237 「システムログ情報」

upnp

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

♦ **公開 URL の表示**

```
msh> upnp
```

♦ **公開 URL の設定**

```
msh> upnp url 文字列
```

・「文字列」には URL 文字列を入力します。

6

web

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

♦ **現在の設定の表示**

```
msh> web
```

♦ **リンク先として登録する URL の設定**

```
msh> web x url http:// リンク先の URL または IP アドレス /
```

・x は対象番号の 1〜2 を指定します。2 件まで登録できます。

♦ **リンク先として登録されている URL の削除**

```
msh> web x clear url
```

・x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

♦ **リンク先として登録する URL のリンク名の設定**

```
msh> web x name リンク名
```

・x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

♦ **リンク先として登録されている URL のリンク名の削除**

```
msh> web x clear name
```

・x は対象 ID の 1〜2 を指定します。

♦ **ヘルプの参照先 URL の設定**

```
msh> web help http:// ヘルプの URL または IP アドレス
```

♦ **ヘルプの参照先 URL の削除**

```
msh> web clear help
```

wiconfig

無線LANの設定は、wiconfigコマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> wiconfig
```

♦ 無線LANカードの情報の表示

```
msh> wiconfig cardinfo
```

- 無線LANインターフェースが有効になっていない場合、拡張無線LANカードの情報は表示できません。

♦ 設定

```
msh> wiconfig パラメーター
```

パラメーター	設定される項目
mode {ap|adhoc|802.11adhoc}	インフラストラクチャーモード（ap）、802.11アドホックモード（802.11 adhoc）またはアドホックモード（adhoc）の設定ができます。デフォルトは802.11アドホックモードです。
ssid 文字列	インフラストラクチャーモード時のSSIDを設定できます。SSIDで使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号(ASCII 0x20～0x7e)で32バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。802.11アドホックモード時には、インフラストラクチャーモード時と同じ値か、空白の場合「ASSID」という値が自動的に設定されます。デフォルトは空白です。
channel frequency チャンネル番号	チャンネルを設定できます。1-14の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは「11」です。
key 文字列 val {1|2|3|4}	WEPキーを16進数で入力する場合に指定します。64-bit WEPを使用する場合は、16進数10桁の文字列が使用できます。128-bit WEPを使用する場合には、16進数26桁の文字列が使用できます。WEPキーは4つまで登録できます。valで登録する番号を指定します。 keyでWEPキーを指定すると、keyphraseで指定したWEPキーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じkey番号とWEPキーを設定してください。なお、入力するWEPキーの先頭に0xをつけます。val以降の指定は省略可能です。省略した場合、key番号は1になります。デフォルトは空白です。

パラメーター	設定される項目
keyphrase 文字列 val {1|2|3|4}	WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、英数字 5 バイト、128-bit WEP を使用する場合には、英数字 13 バイトの文字列が使用できます。 WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。 keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。 val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key番号は1になります。デフォルトは空白です。
encval {1|2|3|4}	4つのWEPキーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。 番号を指定しない場合は「1」が設定されます。
wepauth {open|shared}	WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定値と認証モードは次のとおりです。 open：オープンシステム認証（デフォルト） shared：シェアードキー認証
rate {auto|11m|5.5m|2m|1m}	無線 LAN における通信速度を設定できます。 ここで設定する通信速度は送信時の速度ですので、受信時はすべての速度を受信できます。 設定値と通信速度は次のとおりです。 auto: 自動設定（デフォルト） 11m:11Mbps 固定 5.5m:5.5Mbps 固定 2m:2Mbps 固定 1m:1Mbps 固定
security {none|wep|wpa}	セキュリティー方式を設定できます。 設定値と認証方式は次のとおりです。 none: 暗号化なし（デフォルト） wep:WEP 暗号化方式 wpa:WPA 暗号化方式
wpaenc {tkip|ccmp}	WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。 設定値は次のとおりです。 tkip:TKIP ccmp:CCMP(AES)（デフォルト）
wpaauth {wpapsk|wpa}	WPA 使用時の認証モードを設定できます。 設定値は次のとおりです。 wpapsk：WPA-PSK 認証（デフォルト） wpa：WPA（802.1X）認証

パラメーター	設定される項目
psk 文字列	Pre-Shared key を設定できます。 Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 8 バイトから 63 バイトまでです。デフォルトは空白です。
eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}	EAP 認証タイプを設定できます。 tls :EAP-TLS (デフォルト) ttls：EAP-TTLS leap：LEAP peap：PEAP chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択する時に同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。
username 文字列	Radius サーバへのログインユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 31 バイトまでです。デフォルトは空白となります。
username2 文字列	EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザ名を設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 31 バイトまでです。デフォルトは空白です。
domain 文字列	Radius サーバへのログインドメインを設定できます。 使用できる文字は半角英数字と "@" 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 31 バイトまでです。デフォルトは空白です。
password 文字列	Radius サーバへのログインパスワードを設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20～0x7e) で 128 バイトまでです。デフォルトは空白です。
srvcert {on|off}	サーバ証明書の認証を設定します。 デフォルトは「off」です。

パラメーター	設定される項目
wiconfig imca {on|off}	サーバ認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。 デフォルトは「off」です。
srvid 文字列	認証サーバをサーバID及びサブドメインで設定できます。 文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20〜0x7e) で 128 バイトまでです。デフォルトは空白です。
subdomain {on|off}	ドメイン名で認証サーバ ID を指定できます。 デフォルトは「off」です。

wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

♦ 現在の設定の表示

```
msh> wins
```

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。
- DHCP から取得した IP アドレスと WINS の IP アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IP アドレスが有効です。

♦ WINS 機能の設定

```
msh> wins インターフェース {on|off}
```

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

♦ WINS サーバーのアドレス設定

```
msh> wins インターフェース {primary|secondary} IP アドレス
```

- primary でプライマリ WINS サーバのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリ WINS サーバのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

♦ NBT（NetBIOS over TCP/IP）スコープ ID の設定

```
msh> wins インターフェース scope スコープ ID
```

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

インターフェース	設定されるインターフェース
ether	イーサネットインターフェース
wlan	無線 LAN インターフェース

SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。
本機内蔵のイーサネットインターフェース、およびオプションの無線 LAN インターフェースでは UDP と IPX 上で動作する SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントが組み込まれています。
また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティ面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。
SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、暗号パスワードが設定されていることが必要です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- 本機のコミュニティ名を工場出荷時から変更した場合、Ridoc IO Admin に同梱されている SNMP コミュニティ名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは SNMP コミュニティ名設定ツールのヘルプを参照してください。

工場出荷時のコミュニティ名には「public」と「ricoh」が設定されています。このコミュニティ名で MIB 情報を取得することができます。

6

♦ SNMP コミュニティ名設定ツールの起動

- Windows 95/98/Me, Windows 2000, Windows NT 4.0 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし［プログラム］から［Ridoc IO Admin］をポイントして［SNMP コミュニティ名設定ツール］を起動します。
- Windows XP/Vista, Windows Server 2000 の場合は、［スタート］ボタンをクリックし［すべてのプログラム］から［Ridoc IO Admin］をポイントして［SNMP コミュニティ名設定ツール］を起動します。

ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
  lpq コマンド、rsh、rcp、ftp の stat パラメータを使います。
- mshell の場合
  status コマンドを使います。

ステータス	意味
Adjusting...	初期剤設定、カラー調整中または自動メンテナンス中です。
Call Service Center	エンジン部、またはコントローラー部に異常が発生しました。
Canceling Job...	ジョブリセット中です。
Configuring...	設定変更中です。
Cover Open: Duplex Unit	両面ユニットのカバーが開いています。
Cover Open: Front	本体前カバーが開いています。
Cover Open: Top	本体上カバーが開いています。
Empty: Black Toner	ブラックトナーがなくなりました。
Empty: Yellow Toner	イエロートナーがなくなりました。
Empty: Magenta Toner	マゼンタトナーがなくなりました。
Empty: Cyan Toner	シアントナーがなくなりました。
Energy Saver Mode	省エネモード状態です。
Error: Ethernet Board	イーサーネットボードに異常が発生しました。
Error: Optional Font	プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。
Error: Optional RAM	オプションの SDRAM モジュールにエラーが発生しました。
Error: Parallel I/F Board	パラレルインターフェースにエラーが発生しました。
Error: PDL	ページ記述言語にエラーが発生しました。
Error: Rem. Certificate Renewal	証明書の自動更新中にエラーが発生しました。
Error: USB Board	オプションの USB ホストボードにエラーが発生しました。

ステータス	意味
Error: USB Interface	USBインターフェースにエラーが発生しました。
Error: Wireless Card	起動時に拡張無線LANカードまたはワイヤレスインターフェースカードがありませんでした。 拡張無線LANカードまたはワイヤレスインターフェースカードが起動後に抜かれました。
Error: Wireless Board	拡張無線LANボードまたはワイヤレスインターフェースボードにエラーが発生しました。
Full: Standard Tray	本体排紙トレイが満杯です。
Hex Dump Mode	ヘキサダンプモード中です。
Independent-supplier Toner	純正でないトナーがセットされています。
In Use: Input Tray	給紙トレイが使用中です。
Job Suspended	一時停止中です。
Low: Black Toner	黒トナーが残り少なくなりました。
Low: Yellow Toner	イエロートナーが残り少なくなりました。
Low: Magenta Toner	マゼンタトナーが残り少なくなりました。
Low: Cyan Toner	シアントナーが残り少なくなりました。
Mismatch: Paper Size	選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。
Mismatch: Paper Size and Type	選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。 または、自動トレイ選択を指定しているとき、指定の用紙種類とサイズがありません。
Mismatch: Paper Type	選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。
No Paper: Selected Tray	指定されたトレイに用紙がありません。
No Paper: Tray 1	トレイ 1 に用紙がありません。
No Paper: Tray 2	トレイ 2 に用紙がありません。
Not Detected: Fusing Unit	定着ユニットが正しくセットされていません。
Not Detected: Input Tray	給紙トレイが正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (Y)	ドラムユニット（イエロー）が正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (M)	ドラムユニット（マゼンタ）が正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (C)	ドラムユニット（シアン）が正しくセットされていません。
Not Detected: PCU (K)	ドラムユニット（ブラック）が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 1	トレイ 1 が正しくセットされていません。
Not Detected: Tray 2	トレイ 2 が正しくセットされていません。

ステータス	意味
Offline	プリンターがオフライン状態です。
Paper Misfeed: Duplex Unit	両面ユニットで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Input Tray	給紙トレイで紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Internal/Output	本体内部で紙づまりが発生しました。
Paper Misfeed: Output Tray	本体排紙部で紙づまりが発生しました。
Printing	印刷中またはデータ受信中です。
Processing	データ処理中です。
Proxcy User/Password Incorrect	プロキシユーザー名またはパスワードが不正です。
Proxcy Address/Port Incorrect	プロキシアドレス、またはポート番号が不正です。
RC Gate Connection Error	RC Gate との接続に失敗しました。
Ready	使用可能です。
Renewing Remote Certificate	リモートビス証明書を更新中です。
SD Card Authentication failed	SD カードからの認証に失敗しました。
SD Card not inserted	SD カードがセットされていません。
Supplies Order Call failed	消耗品発注コールに失敗しました。
Warming Up...	準備中です。

補足

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

参照

- P.299 「本機の状態表示」
- P.215 「status」
- P.124 「テスト印刷メニュー」

機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と、項目の説明です。

- UNIX の場合
  rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメータを使います。
- mshell の場合
  info コマンドを使います。

Input Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。
PageSize	ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。
Status	給紙トレイの状態が表示されます。 ・Normal：正常 ・NoInputTray：トレイなし ・PaperEnd：用紙なし

Output Tray

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。
Status	排紙トレイの状態が表示されます。 ・Normal：正常 ・PaperExist：用紙あり ・OverFlow：用紙が満杯 ・Error：その他エラー

Emulation

項目名	内容
No.	ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。
Name	ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。
Version	ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのヴァージョンが表示されます。

参照

- P.202 「info」
- P.299 「本機の状態表示」

取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得するできる情報の詳細です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
  lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合
  status コマンドを使います。

項目名	意味
Rank	印刷ジョブの状態が表示されます。 ・Active 印刷中、または印刷処理待ち状態 ・1st、2nd、3rd、4th... プリンターへのファイル転送待ち状態
Owner	印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。
Job	印刷要求番号が表示されます。
Files	ファイル名が表示されます。
Total Size	印刷ジョブのデータサイズが表示されます。*1

*1 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

参照

- P.215 「status」
- P.299 「本機の状態表示」

プリントログ情報

これまでに印刷した過去20件分のジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合
  rsh、rcp、ftp、sftp の prnlog パラメーターを使います。
- mshell の場合
  prnlog コマンドを使います。

項目名	意味
ID	印刷要求番号が表示されます。
User	印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。
Page	印刷したページ数が表示されます。
Result	通信結果が表示されます。 ・Finished 通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。 ・Failed 印刷が正常に終了しませんでした。 ・Canceled rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、sftp、rprinter では発生しません。
Time	印刷要求受け付け時間が表示されます。

参照

- P.206 「prnlog」
- P.299 「本機の状態表示」

ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。

・mshell の場合
show コマンドを使います。

項目名	意味
Common Mode Protocol Up/Down AppleTalk IPv4 IPv6 NetWare SMB PictBridge Device Up/Down Parallel USB Ethernet interface Syslog priority NVRAM version Device name Comment Location Contact Soft switch	 プロトコル利用設定 デバイス利用設定
AppleTalk Mode Net Object Type Zone	AppleTalk 関連設定
TCP/IP Mode(IPv4) Mode(IPv6) ftp	TCP/IP のポートアドレスなどの設定

項目名	意味
lpr	
rsh	
telnet	
diprint	
web	
http	
ftpc	
snmp	
ipp	
autonet	
bonjour	
ssl	
nrs	
rfu	
nbt	
ssdp	
bmlinks	
ssh	
sftp	
IPv4	
DHCP	
Address	
Netmask	
Broadcast	
Gateway	
IPv6	
Stateless	
Manual	
Gateway	
EncapType	
Host name	
DNS Domain	
Access Control	アクセス制限設定
IPv4	

6

項目名	意味
AccessEntry [X]	X は 1～5 まで設定できます。
IPv6	
AccessEntry [X]	X は 1～5 まで設定できます。
Time server	時刻関連設定
Time Zone	
Time server polling time	
SYSLOG server	
Home page URL1	WebSys 関連の設定
Home page link name1	
Home page URL2	
Home page link name2	
Help page URL	
NetWare	Netware 設定
EncapType	
RPRINTER number	
Print server name	
File server name	
Context name	
Switch	
Mode	
NDS/Bindery	
Packet negotiation	
Login Mode	
Print job timeout	
Protocol	
SAP interval time	
NDS Tree Name	
Transfer Protocol	
SMB	SMB 動作／設定
Switch	
Mode	
Direct print	
Notification	
Workgroup name	

項目名	意味
Computer name Comment Share name[1] Protocol	
SCSI print Bidi	
IEEE 802.11b	IEEE 802.11b インターフェース動作／設定
Host Name Communication Mode SSID Channel range Channel Tx Rate Security WEP Authentication WEP Encryption key number WEP encryption	
WEP Encryption keys [X]	X は 1〜5 まで設定できます。
WPA Encryption WPA Authentication Pre-Shared Key User name Domain name EAP Type Password Phase 2 user name Phase 2 Method TTLS Phase 2 Method PEAP Server cert. Intermediate CA Server ID	
DNS	DNS 動作／設定
IPv4	
Server[X]	X は 1〜3 まで設定できます。

項目名	意味
Selected IPv4 DNS Server IPv6 Server[X]	 X は 1～3 まで設定できます。
Domain Name ether wlan	
DDNS ether wlan	
WINS ether Primary WINS Secondary WINS wlan Primary WINS Secondary WINS	WINS 動作／設定
SSDP UUID Profile TTL	SSDP 動作／設定
BMLinkS Plain Only Paused Print Timeout Device Name Country Organization Branch Building Floor Block	BMLinkS 動作／設定
UPnP URL	UPnP 動作／設定
Bonjour	Bonjour（Rendezvous）動作／設定

項目名	意味
Computer Name(cname) Local Hostname (ether) Local Hostname (wlan) Location Priority (diprint) Priority (lpr) Priority (ipp) IP TTL LinkLocal Route for Multi I/F IPP Port	
SNMP	SNMP 動作／設定
SNMPv1v2 SNMPv3 protocol v1Trap v2Trap v3Trap SNMPv1v2 Remote Setting SNMPv3 Privacy	
ssh	ssh 動作／設定
Compression Port TimeOut LoginTimeOut	
AuthFree	認証除外動作／設定
IPv4	
AuthFreeEntry[X]	X は 1〜5 まで設定できます。
IPv6	
AuthFreeEntry[X]	X は 1〜5 まで設定できます。
Parallel USB	
LPR	
lprm check host lpr prnerrchk	
Certificate	

6

項目名	意味
Verification	
Shell mode	リモートメンテナンスツールのモード

メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

・UNIX の場合
rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。

・mshell の場合
syslog コマンドを使います。

Access to NetWare server < **ファイルサーバ名** > denied. Either there is no account for this print server on the NetWare server on the password was incorrect.

（プリントサーバ動作時）ファイルサーバにログインできません。ファイルサーバ上にプリントサーバが登録されているか確認してください。プリントサーバにパスワードを設定している場合はパスワードを削除してください。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

add_sess_IPv4:bad trap addr:<IPv4 **アドレス** >, community:< **コミュニティ名** >

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv6:bad trap addr:<IPv6 **アドレス** >, community:< **コミュニティ名** >

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [: :] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPv4: community < **コミュニティ名** > already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

add_sess_IPv6: community < **コミュニティ名** > already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

6

add_sess_IPX: bad trap addr: <IPX **アドレス** >, community:< **コミュニティ名** >
コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPX アドレス 00:00:00:00:00:00 は無効です。Trap 送信先ホストの IPX アドレスを指定して下さい。

add_sess_IPX: community < **コミュニティ名** > already defined.
コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しないコミュニティ名を設定して下さい。

Attach FileServer=< **ファイルサーバ名** >
ニアレストサーバとしてファイルサーバに接続しました。

Attach to print queue < **プリントキュー名** >
プリントサーバ動作時にプリントキューに接続しました。

authenticated
認証に成功しました。

authenticating
アクセスポイントとの認証処理 (EAP もしくは WPA) を行っているところです。

Authentication mode mismatch
アクセスポイントの認証モードが、利用したいものと違います。設定を確認してください。

btd is disabled.
セキュリティモード設定で btd が無効です。セキュリティモード設定の btd を使用可にしてください。

centrod is disabled.
セキュリティモード設定で centrod（パラレル）が無効です。セキュリティモード設定の centrod（パラレル）を使用可にしてください。

client EAP method rejected
RADIUS サーバが、本機によって選択された EAP メソッドを拒絶しました。

Client password rejected
パスワードが拒否されました。パスワードを確認してください。

Client TLS certificate rejected
TLS において、証明書が拒否されました。証明書を確認してください。

Cannot create service connection
（リモートプリンタ起動時）ファイルサーバとコネクションを確立できません。ファイルサーバのユーザ制限を越えている場合があります。

Cannot find rprinter（< **プリントサーバ名** >/< **プリンタ番号** >）
（リモートプリンタ起動時）プリントサーバ上にプリンタ番号のプリンターがありません。プリントサーバに登録されているプリンターのプリンタ番号を確認してください。

Change IP adress from DHCP Server.
DHCP サーバからの IPv4 アドレスのリース更新時に、本機が使用していた IPv4 アドレスが変更されました。DHCPCD を終了します。毎回同じ IPv4 アドレスが割り当てられるように、DHCP サーバを設定してください。

child process exec error! （プロセス名）

ネットワーク関連の起動に失敗しました。電源再投入しても回復しない場合は、サービス実施店に連絡してください。

Connected DHCP Server（<DHCP サーバアドレス >）.

DHCP サーバからの IPv4 アドレス取得に成功しました。

connecting

アクセスポイントとの無線接続をしようとしているところです。

Could not attach to FileServer < エラー番号 >

（リモートプリンタ起動時）ファイルサーバに接続できません。
ファイルサーバの設定を確認してください。

Could not attach to PServer < プリントサーバ名 >

（リモートプリンタ起動時）プリントサーバに接続できません。
プリントサーバの設定を確認してください。

Current Interface Speed : < EhternetI/F 速度 >

現在の Ethernet I/F の速度です。（10Mbps、100Mbps、または 1Gbps）

Current IP address <IP アドレス >.

現在の IPv4 アドレスです。

Current IPX address <IPX アドレス >

現在の IPX アドレスです。

DHCP lease time expired.

DHCP リース切れになりました。DHCP Discover を再び行います。
なお、使用していた IPv4 アドレスが使用できなくなります。

DHCP server not found.

DHCP サーバが見つかりませんでした。ネットワーク上に DHCP サーバが起動していることを確認してください。

dhcpcd start.

dhcpcd（DHCP クライアントサーバ）を起動しました。

disconnected

接続されていない状態です。

dpsd is disabled.

セキュリティモード設定で PictBridge が無効です。PictBridge は使用できません。
セキュリティモード設定の PictBridge を使用可にしてください。

Duplicate IP=< IP アドレス >（from < MAC アドレス >）.

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。IPv6 では、重複した Mac アドレスは表示されません。

Established SPX Connection with PServer, （RPSocket=< ソケット番号 >, connID=< コネクション ID>）

（リモートプリンタ起動時）プリントサーバと接続しました。

exiting

lpd のサービスを終了しています。

Exit pserver

（プリントサーバ動作時）必要な設定がされていないため、プリントサーバを終了しました。

Frametype=< **フレームタイプ名** >

NetWare で使用するフレームタイプ名を設定しました。

httpd start.

httpd が起動しました。

IEEE 802.11b card removed

無線カードが取り除かれました。

IEEE 802.11b interface down

IEEE 802.11b のインターフェースが無効です。

IEEE 802.11b interface up

IEEE 802.11b のインターフェースが有効になっているか、アクセスポイントに接続されたところです。

IEEE 802.11b < **通信モード** > mode

IEEE 802.11b の通信モードを表示します。

inetd start.

inetd を開始します。

Interface(**インターフェース名**)：Duplicate IP Address(< IP **アドレス** >).

本体に指定された IP アドレス（IPv4、または IPv6 アドレス）が重複して使用されています。IP アドレスはそれぞれ固有のものでなければなりません。表示された IP アドレスの機器をチェックしてください。

< Interface > started with IP: < IP **アドレス** >

インターフェースに IP アドレス（IPv4 アドレス、または IPv6 アドレス）が設定されて、動作を開始しました。

< Interface >: Subnet overlap.

< Interface > に設定しようとした IPv4 アドレスと Netmask から導かれる Subnet 範囲が、ほかのインターフェースの Subnet 範囲と重なっています。各インターフェースの Subnet 範囲が重ならないように設定してください。

IPP cancel-job: permission denied.

ジョブのキャンセル時にユーザ名による認証に失敗しました。

IPP job canceled. jobid=%d.

エラーあるいはユーザ要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

LEAP challenge to access point failed

アクセスポイントへの LEAP 方式を使った認証に失敗しました。

LeaseTime=< **リース時間** >(sec), RenewTime=< **更新間隔** >(sec).

DHCP サーバから取得した IPv4 アドレスのリース時間は < リース時間 > 秒、更新時間は < 更新間隔 > 秒で表示されます。

Login to fileserver < **ファイルサーバ名** >（< IPX|IPv4|IPv6>,< NDS|BINDERY>）

(プリントサーバ動作時）ファイルサーバに NDS または BINDERY モードでログインしました。使用しているトランスポートプロトコルも表示されます。

Memory allocate error.

メモリ取得に失敗しました。ケーブルの抜き差しを行ってください。

MIC failure TKIP counter measures started

TKIP を用いているサプリカントが、60 秒以内に 2 箇所のデータ改ざんを見つけ、その対策を開始しました。

MIC failure TKIP counter measures stopped

TKIP を用いているサプリカントが、データ改ざんが見つかり対策を開始して 60 秒経ち、その対策を止めました。

Name registration success. WINS Server = < **WINSサーバアドレス** > NetBIOS Name = < NetBIOS **名** >

WINS サーバアドレスへの NetBIOS 名の登録が成功しました。

Name registration success in Broadcast name= < NetBIOS **名** >

ブロードキャストによる NetBIOS 名の登録が成功しました。

Name registration failed. name= < NetBIOS **名** >

NetBIOS 名の登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

nbtd start.

nbtd(NetBIOS over TCP/IP Daemon) を起動しました。

no RADIUS/authentication server

利用可能な RADIUS サーバがないというメッセージを受信しました。

no smart card detected on device

PEAP/GTC が選択されましたが、GTC（Generic Token Card）認証の間、スマートカードが見つかりませんでした。

nprinter start. (NetWare)

（リモートプリンタ動作時）NetWare サービスをリモートプリンタモードで起動しました。

nwstart start. (NetWare)

NetWare プロトコルスタック設定サーバが起動しました。

Open log file < **ファイル名** >

（プリントサーバ動作時）監視ログファイルを開きました。

phy release file open failed.

ネットワークボードに異常が発生している可能性があります。

Print queue < **プリントキュー名** > cannot be serviced by printer 0, < **プリントサーバ名** >

（プリントサーバ動作時）プリントキューを確認できません。プリントキューのボリュームが設定したファイルサーバ上に存在するか確認してください。

Print server < **プリントサーバ名** > has no printer

（プリントサーバ動作時）プリントサーバにプリンタが割り当てられていません。NetWare アドミニストレータで割り当て後、プリンタを再起動してください。

6

print sessions full

印刷要求が最大セッション数に達しています。しばらくしてから再接続してください。

Printer < **プリンタ名** > has no queue

（プリントサーバ動作時）プリンタにプリントキューが割り当てられていません。NetWare アドミニストレータで割り当て後、プリンターを再起動してください。

pserver start. (NetWare)

（プリントサーバ動作時）NetWare サービスをプリントサーバモードで起動しました。

Required file server（< **ファイルサーバ名** >）not found

設定されたファイルサーバが見つかりませんでした。

restarted.

lpd のサービスを開始しました。

sap enable, saptype=< SAP **タイプ** >, sapname=<SAP **名** >

SAP 機能が起動しました。SAP（SAP タイプ、SAP 名）パケットを発行し、NetWare サーバ上の SAP テーブルにサービスの存在を登録します。

server certificate invalid

サーバ証明書が無効であることを検知しました。

server identity invalid

サーバ ID が無効です。サーバ認証設定を確認してください。

server not trusted

RADIUS サーバーは信用できないので、接続しませんでした。

session_IPv4 < **コミュニティ名** > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session_IPv6 < **コミュニティ名** > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session_IPX < **コミュニティ名** > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

Set context to <NDS **コンテキスト名** >

NDS コンテキストを設定しました。

smbd start. (NetBIOS)

smbd(Sever Message Block Daemon) が起動しました。

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバに指定した SMTP サーバの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IP アドレスを確認してください。またはSMTPサーバのIPアドレスを確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバ名を確認してください。またはネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: refused connect by smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバ名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: no smtp server. connection close.

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバ名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバの SMTP ポート番号を確認してください。

SMTPC: failed to connect smtp server.

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバーからの応答を取得できない、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバの IP アドレス、SMTP サーバ名と SMTP ポート番号、SMTP サーバの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

SMTPC: username or password wasn't correct. **[応答コード] (インフォメーション)**

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

Snmp over IPv4 is ready.

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPv6 is ready.

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

Snmp over IPX is ready.

IPX 上での SNMP 通信が可能です。

trap account is unavailable.

Trap 送信先アカウント名が、機器が管理するアカウント名とは別のものが指定されているため、そのアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先アカウント名を機器が管理するアカウント名に変更してください。

snmpd start.

Snmpd を開始しました(電源 ON / OFF のみ表示します)。

started.

ダイレクトプリントサービスを開始しました。

started.

BMLinkS が起動しました。

Started.

Bonjour(Rendezvous)機能が起動しました。

stopped

無線 LAN が起動できません。

success but invalid key

EAP が成功したというメッセージを受け取ったが、EAPOL キーが無効です。

success key received

EAP-Success キーを受け取りました。

terminate.

BMLinkS が無効のため終了しました。

Terminated.

Bonjour（Rendezvous）機能が終了しました。

The print server received error < エラー番号 > during attempt to log in to the network. Access to the network was denied. Verify that the print server name and password are correct.

（プリントサーバ動作時）ファイルサーバへのログインに失敗しました。プリントサーバが登録されていないか、パスワードが与えられています。プリントサーバをパスワードなしで登録してください。

too many pictures.

1 回の印刷で指定する画像が多すぎるため、正常に印刷できませんでした。指定画像数を減らして印刷してください。

unauthenticated

本機がアクセスポイントから拒絶されたか、認証されていません。

usbd is disabled

セキュリティモードの設定で usbd が使用不可です。セキュリティモード設定の usbd を使用可にしてください。

waiting for keys

セッションキーを待っています。

WINS name registration: No response to server(WINS サーバアドレス)

登録処理に対する応答がサーバからありません。WINS サーバアドレスを確認してください。または、WINS サーバが正常に作動しているか確認してください。

WINS wrong scopeID=< スコープ ID>

不正なスコープ ID が使用されています。正常なスコープ ID を設定して下さい。

WPA supplicant started

WPA で接続したところです。

WPA supplicant unbound

WPA で接続しようとしましたが、アクセスポイントには接続していません。

参照

• P.299 「本機の状態表示」

7. プリントサーバーの準備

ネットワークプリンターの設定についての説明です。

Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。
クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Ridoc IO Navi 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。

★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- ［プリンタ］フォルダでプリンタープロパティを変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 ［プリンタ］ウィンドウを開きます。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、［プリンタと FAX］ウィンドウを開きます。
Windows Vista の場合は、［ハードウェアとサウンド］から［プリンタ］ウィンドウを開きます。

2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、［ファイル］メニューの［プロパティ］をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

3 ［共有］タブをクリックし、［共有する］にチェックを付けます。

4 プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、［追加ドライバ］をクリックします。

プリンタードライバーをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバーをインストールした場合、この操作は必要ありません。

5 ［OK］をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

Ridoc IO Navi 経由で印刷通知をする

Ridoc IO Navi の印刷通知機能を設定する方法の説明です。

プリントサーバーの設定をする

重要

- プリントサーバーの設定を変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows NT 4.0 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 タスクバーの［スタート］ボタンから、［プログラム］-［RICOH Ridoc Desk Navigator］-［Ridoc IO Navi］の順にポイントして、［プリントサーバー設定］をクリックします。

プリントサーバー設定ダイアログが表示されます。

2 「クライアントに印刷通知をする」をチェックして、［OK］をクリックします。

プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して［OK］をクリックします。

［キャンセル］をクリックすると、処理を中断します。

3 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。［OK］をクリックします。

これでプリントサーバーの設定は終了です。各クライアントで、印刷通知の設定が必要です。

補足

- 印刷中のジョブはスプーラー時停止後に最初から再印刷されます。
- 拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。

7

クライアントの設定をする

1. タスクトレイの［スタート］ボタンから、［プログラム］-［RICOH Ridoc Desk Navigator］-［Ridoc IO Navi］の順にポイントして、［拡張機能設定］をクリックします。

   拡張機能設定ダイアログが表示されます。

2. 「拡張機能を使用する」にチェックを付けます。

3. 「印刷通知」の「プリントサーバーを利用する場合に通知します。」にチェックを付けます。

4. ［OK］をクリックします。

   印刷通知設定ダイアログが閉じます。

補足

・プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。

NetWare を使用する

NetWare でネットワークプリンターを使用する場合の設定のしかたを説明します。NetWare では本機を「プリントサーバ」または「リモートプリンタ」として接続することができます。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- IPv6 環境ではご使用になれません。

♦ セットアップの流れ

- プリントサーバとして使用するとき
  1. Ridoc IO Admin のインストール
  2. ネットワークインターフェースボードの設定
  3. 電源を入れ直す
- リモートプリンタとして使用するとき
  1. Ridoc IO Admin のインストール
  2. ネットワークインターフェースボードの設定
  3. NetWare の設定
  4. プリントサーバの起動

♦ Ridoc IO Admin について

本機を NetWare 環境で使用するには、Ridoc IO Admin を使用して NetWare のプリント環境を設定します。

♦ Ridoc IO Admin に表示されるプリンターについて

Ridoc IO Admin には、ネットワークに接続されているプリンターの一覧が表示されます。表示されるプリンター名から目的のプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。

補足

- 次の環境で Ridoc IO Admin を使用してプリント環境を設定するときは、Novell から提供されている NetWare クライアントがインストールされている必要があります。
  - Windows 95/98/Me で、NDS モードのとき
  - Windows 2000、Windows XP、Windows NT 4.0 で NDS モードまたはバインダリモードのとき

参照

- P.167 「Ridoc IO Admin のインストール」

プリントサーバを使用する（NetWare 3.xJ）

NetWare 3.xJを使用し、プリントサーバーとして接続するための設定方法の説明です。

1 **Web Image Monitorを起動します。**

2 **［ログイン］をクリックします。**

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3 **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 **画面左のメニューから［設定］をクリックし、［ネットワーク］エリアの［NetWare］をクリックします。**

設定項目は以下の通りです。

- プリントサーバー名：NetWareのプリントサーバー名を入力します。インターフェースボードをプリントサーバーとして動作させる場合は、ファイルサーバー上で動作していないプリントサーバーの名前を入力します。入力範囲は1〜47文字です。
- ログオンモード：NetWareログオン時に、ファイルサーバーを指定するか、NDSツリーを指定するかを選択します。
- ファイルサーバー名：ファイルサーバー名を入力すると、入力したファイルサーバーだけを検索します。必ず入力してください。入力範囲は47文字以内です。
- NDSツリー：NDSモードで使用する場合に、ログオンするNSDツリー名を半角英数字で入力します。入力範囲は32文字以内です。
- NDSコンテキスト名：NDSモードで使用する場合に、プリントサーバーのコンテキストを入力します。入力範囲は127文字以内です。
- 動作モード：インターフェースボードをプリントサーバーとして使用するか、リモートプリンターとして使用するかを選択します。
- リモートプリンター番号：リモートプリンターとして動作する場合に有効となります。プリントサーバー上に作成するプリンターの番号と同じ番号を半角で入力します。入力範囲は0〜254です。
- ジョブタイムアウト：NetWareのリモートプリンターとして動作している場合、プリンターは印刷ジョブの終了を判定することができないため、最後に印刷データを受け取ってから一定時間が経過したとき（印刷データを一定時間受信しなかったとき）に印刷処理を終了します。ここには、その一定時間（3-255秒）を半角で入力します。初期値は「15秒」に設定されています。
- フレームタイプ：使用するフレームタイプをドロップダウンメニューから選択します。
- プリントサーバープロトコル：NetWare で使用するプロトコルをドロップダウンメニューから選択します。

7

5 設定を確認し、[OK]をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 [ログアウト]をクリックします。

補足

- 本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。
  F:> USERLIST
- 正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバ名が表示されます。
- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の[ネットワーク]ダイアログで変更します。

プリントサーバを使用する(NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J)

NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J を使用し、プリントサーバーとして接続するための設定方法の説明です。

重要

- NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J でプリントサーバとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- NetWare 5/5.1J、NetWare 6/6.5J をお使いの場合は、本機をプリントサーバとしてお使いください。

1 Web Image Monitor を起動する。

2 [ログイン]をクリックします。

[ログインユーザー名]と[ログインパスワード]の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 画面左のメニューから[設定]をクリックし、[ネットワーク]エリアの[NetWare]をクリックします。

設定項目については「プリントサーバを使用する(Netware 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[OK]をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 本機が設定どおり動作しているか確認するにはコマンドプロンプトで次のように入力します。
  `F:> NLIST USER /A/B`
- 正しく動作していると、接続しているユーザー名としてプリントサーバ名が表示されます。
- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。

参照

- P.249 「プリントサーバを使用する（NetWare 3.xJ）」
- P.251 「プリントサーバを使用する（NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境）」
- P.254 「プリントサーバを使用する（NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境）」

プリントサーバを使用する（NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境）

NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境で、プリントサーバーとして接続する設定方法の説明です。

重要

- NetWare 5/5.1J のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバ上にプリントキューを作成する必要があります。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンタとして使用できません。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で TCP/IP プロトコルが使用できるように設定してください。

■NetWare アドミニストレータでの設定

1 Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。

2 プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。

3 ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリントキュー］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

4 ［プリントキュー名］ボックスにプリントキューの名前を入力します。

5 ［プリントキューボリューム］ボックスのブラウザボタンをクリックします。

6 ［使用可能なオブジェクト］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

7 設定内容を確認し、［作成］をクリックします。

8 プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。

9 ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリンタ（非 NDPS）］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

10 ［プリンタ名］ボックスにプリンターの名前を入力します。

11 ［作成後に詳細を設定］をクリックしてチェックを付け、［作成］をクリックします。

12 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［割り当て］をクリックし、［割り当て］グループの［追加］をクリックします。

13 ［オブジェクト］ボックスで、あらかじめ作成したキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

14 ［環境設定］をクリックし、［プリンタタイプ］ボックスのドロップダウンメニューから［パラレル］を選び、［通信］をクリックします。

15 ［接続タイプ］グループの［手動ロード（プリンターからリモート）］をクリックし、［OK］をクリックします。

16 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

17 プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。

18 ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリントサーバ（非 NDPS）］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

19 ［プリントサーバ名］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

Ridoc IO Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。

20 ［作成後に詳細を設定］をクリックしてチェックを付け、［作成］をクリックします。

21 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［割り当て］をクリックし、［割り当て］グループの［追加］をクリックします。

22 ［オブジェクト］ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

23 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

24 NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

♦ **停止する**

```
CAREE: unload pserver
```

♦ **起動する**

```
CAREE: load pserver
```

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプはWindowsの［ネットワーク］ダイアログで変更します。

■Web Image Monitorでの設定

1 Web Image Monitorを起動する。

2 ［ログイン］をクリックします。

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 画面左のメニューから［設定］をクリックし、［ネットワーク］エリアの［NetWare］をクリックします。

設定項目については「プリントサーバを使用する（Netware 3.xJ）」を参照してください。

5 設定を確認し、［OK］をクリックします。

これで設定は終了です。再びWeb Image Monitorを立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 ［ログアウト］をクリックします。

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。

参照

- P.249 「プリントサーバを使用する（NetWare 3.xJ）」

プリントサーバを使用する（NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境）

NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境で、プリントサーバーとして接続する設定方法の説明です。

重要

- NetWare 6/6.5J のピュア IP 環境でキューベースのプリントサーバを作成する場合、NetWare アドミニストレータを使用してファイルサーバ上にプリントキューを作成する必要があります。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、リモートプリンタとして使用できません。
- ピュア IP 環境でお使いの場合は、本機で TCP/IP プロトコルが使用できるように設定してください。

■NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。
3. ［Class of new object］ボックスの［Print Queue］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
4. ［Print Queue name］ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. ［Print Queue Volume］ボックスのブラウザボタンをクリックします。
6. ［Available objects］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。
7. 設定内容を確認し、［Create］をクリックします。
8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。

9 ［Class of new object］ボックスの［Printer (Non NDPS)］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

10 ［Printer name］ボックスにプリンターの名前を入力します。

11 ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。

12 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Print queues］グループの［Add...］をクリックします。

13 ［Available objects］ボックスで、あらかじめ作成したキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

14 ［Configuration］をクリックし、［Printer type］ボックスのドロップダウンメニューから［Parallel］を選び、［Communication］をクリックします。

15 ［Connection type］グループの［Manual load］をクリックし、［OK］をクリックします。

16 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

17 プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。

18 ［Class of new object］ボックスの［Print Server］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

19 ［Print Server name］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

Ridoc IO Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。

20 ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。

21 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Printers］グループの［Add...］をクリックします。

22 ［Available objects］ボックスで、あらかじめ作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

23 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

24 **NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。**

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

♦ **停止する**

```
CAREE: unload pserver
```

♦ **起動する**

```
CAREE: load pserver
```

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプはWindowsの［ネットワーク］ダイアログで変更します。

■Web Image Monitorでの設定

1 **Web Image Monitorを起動します。**

2 **［ログイン］をクリックします。**

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3 **ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。**

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 **画面左のメニューから［設定］をクリックし、［ネットワーク］エリアの［NetWare］をクリックします。**

設定項目については「プリントサーバを使用する（Netware 3.xJ）」を参照してください。

5 **設定を確認し、［OK］をクリックします。**

これで設定は終了です。再びWeb Image Monitorを立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

6 **［ログアウト］をクリックします。**

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプはWindowsの［ネットワーク］ダイアログで変更します。

参照

- P.249 「プリントサーバを使用する（NetWare 3.xJ）」

7

リモートプリンタとして使用する（NetWare 3.xJ）

NetWare 3.xJで、リモートプリンタとして接続するための設定方法の説明です。

■PCONSOLEでの設定

1. コマンドプロンプトで「PCONSOLE」と入力します。
   F:> PCONSOLE
2. プリントキューを作成します。
   既存のプリントキューを使う場合は、プリンターを作成する手順に進んでください。
3. ［利用可能な項目］メニューから［プリントキュー情報］を選択します。
4. ［Insert］キーを押し、プリントキュー名を入力します。
5. ［Esc］キーを押します。
   ［利用可能な項目］メニューに戻ります。
6. プリンターを作成します。［利用可能な項目］メニューから［プリントサーバ情報］を選択します。
7. 新しいプリントサーバーを作成する場合は、［Insert］キーを押し、プリントサーバー名を入力します。
   既存のプリントサーバーを使う場合は、［プリントサーバ］一覧から使用するプリントサーバーを選択します。
   前の手順で設定したRidoc IO Adminのプリントサーバー名と一致させてください。
8. ［プリントサーバ情報］メニューから［プリントサーバ構成］を選択します。
9. ［プリントサーバ構成メニュー］から［プリンタの構成］を選択します。
10. 「インストールされていません」と表示されているプリンターを選択します。
    前の手順で設定したRidoc IO Adminのリモートプリンター番号と一致させてください。
11. プリンターの名前を変更する場合は、新しい名前を入力します。
    名前は選択したプリンターの番号に応じて「プリンタ×」と付けられています。
12. タイプとして［リモートパラレル，LPT1］を選択します。
    IRQ、バッファサイズ、開始用紙、キューサービスモードは自動的に設定されます。
13. ［Esc］キーを押し、確認画面で［Yes］を選択します。
14. ［Esc］キーを押します。
    ［プリントサーバ構成メニュー］に戻ります。

15 **作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［プリントサーバ構成メニュー］から［プリンタでサービスされているキュー］を選択します。**

16 **前の手順で作成したプリンターを選択します。**

17 **［Insert］キーを押し、プリンターに割り当てるキューを選択します。**

複数のキューを選択することもできます。

18 **画面表示に従って、その他の項目を入力します。**

入力後、プリンターにキューが割り当てられたことを確認してください。

19 **「終了しますか？」と表示されるまで［Esc］キーを押し、［Yes］を選択します。**

PCONSOLE が終了します。

20 **NetWare サーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。**

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

- **停止する**

```
CAREE: unload pserver
```

- **起動する**

```
CAREE: load pserver プリントサーバー名
```

プリンターが設定どおり動作していると、「プリントジョブ待機中」と表示されます。

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPX プロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプは Windows の［ネットワーク］ダイアログで変更します。

■Web Image Monitorでの設定

1 Web Image Monitorを起動します。

2 [ログイン] をクリックします。

[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 画面左のメニューから [設定] をクリックし、[ネットワーク] エリアの [NetWare] をクリックします。

設定項目については「プリントサーバを使用する (NetWare 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[適用] をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

参照

・P.249 「プリントサーバを使用する (NetWare 3.xJ)」

リモートプリンタとして使用する (NetWare 4.xJ、5/5.1J)

7

NetWare 4.xJ、5/5.1J で、リモートプリンタとして接続するための設定方法の説明です。

重要

- NetWare 4.xJ、NetWare 5/5.1J でリモートプリンターとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- ピュア IP 環境の場合、リモートプリンターとして使用できません。

■NetWareアドミニストレータでの設定

1 Windows上でNetWareアドミニストレータを起動します。

2 プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[オブジェクト] メニューの [作成] をクリックします。

3 [オブジェクトクラス] ボックスの [プリントキュー] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。

4 [プリントキュー名] ボックスにプリントキューの名前を入力します。

5 [プリントキューボリューム] ボックスのブラウザボタンをクリックします。

6 ［オブジェクト］ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

7 設定内容を確認し、［作成］をクリックします。

8 プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。

9 ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリンタ］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

10 ［プリンタ名］ボックスにプリンターの名前を入力します。

11 ［作成後に詳細を設定］をクリックしてチェックを付け、［作成］をクリックします。

12 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。［割り当て］をクリックし、［割り当て］グループの［追加］をクリックします。

13 ［オブジェクト］ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

14 ［環境設定］をクリックし、［プリンタタイプ］ボックスのドロップダウンメニューから［パラレル］を選び、［通信］をクリックします。

15 ［接続タイプ］グループの［手動ロード］をクリックし、［OK］をクリックし、設定内容を確認して［OK］をクリックします。

16 プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［オブジェクト］メニューの［作成］をクリックします。

17 ［オブジェクトクラス］ボックスの［プリントサーバ］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

18 ［プリントサーバ名］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

Ridoc IO Admin で設定したプリントサーバー名と一致させてください。

19 ［作成後に詳細を設定］をクリックしてチェックを付け、［作成］をクリックします。

20 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［割り当て］をクリックし、［割り当て］グループの［追加］をクリックします。

21 ［オブジェクト］ボックスで手順 8 - 11 で作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

22 ［プリンタ］グループで、あらかじめ前の手順で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、［プリンタ番号］をクリックします。

23 プリンター番号を入力し、[OK]をクリックし、設定内容を確認して[OK]をクリックします。

Ridoc IO Adminで設定したリモートプリンター番号と一致させてください。

24 NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

♦ **停止する**

```
CAREE: unload pserver
```

♦ **起動する**

```
CAREE: load pserver
```

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプはWindowsの[ネットワーク]ダイアログで変更します。

■Web Image Monitorでの設定

1 Web Image Monitorを起動します。

2 [ログイン]をクリックします。

[ログインユーザー名]と[ログインパスワード]の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 画面左のメニューから[設定]をクリックし、[ネットワーク]エリアの[NetWare]をクリックします。

設定項目については「プリントサーバを使用する(NetWare 3.xJ)」を参照してください。

5 設定を確認し、[適用]をクリックします。

これで設定は終了です。再びWeb Image Monitorを立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

参照

- P.249 「プリントサーバを使用する(NetWare 3.xJ)」

リモートプリンタとして使用する（NetWare 6/6.5J）

NetWare 6/6.5J で、リモートプリンタとして接続するための設定方法の説明です。

重要

- NetWare 6/6.5J においてリモートプリンタとして使用する場合は、NDS モードで使用してください。
- ピュア IP 環境の場合、リモートプリンタとして使用できません。

■NetWare アドミニストレータでの設定

1. Windows 上で NetWare アドミニストレータを起動します。
2. プリントキューを作成します。印刷オブジェクトを作成する部門オブジェクトまたは組織オブジェクトをディレクトリーツリーから選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
3. [Class of new object] ボックスの [Print Queue] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
4. [Print Queue name] ボックスにプリントキューの名前を入力します。
5. [Print Queue Volume] ボックスのブラウザボタンをクリックします。
6. [Available objects] ボックスでプリントキューを作成するボリュームをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
7. 設定内容を確認し、[Create] をクリックします。
8. プリンターを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、[Object] メニューの [Create...] をクリックします。
9. [Class of new object] ボックスの [Printer] をクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。
10. [Printer name] ボックスにプリンターの名前を入力します。
11. [Define additional properties] をクリックしてチェックを付け、[Create] をクリックします。
12. 作成したプリンターにプリントキューを割り当てます。[Assignments] をクリックし、[Print queues] グループの [Add...] をクリックします。
13. [Available objects] ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したキューをクリックして反転表示させ、[OK] をクリックします。

14 ［Configuration］をクリックし、［Printer type］ボックスのドロップダウンメニューから［Parallel］を選び、［Communication］をクリックします。

15 ［Connection type］グループの［Manual load］をクリックし、［OK］をクリックし、設定内容を確認して［OK］をクリックします。

16 プリントサーバーを作成します。部門または組織オブジェクトを選び、［Object］メニューの［Create...］をクリックします。

17 ［Class of new object］ボックスの［Print Server］をクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

18 ［Print Server name］ボックスにプリントサーバーの名前を入力します。

Ridoc IO Adminで設定したプリントサーバー名と一致させてください。

19 ［Define additional properties］をクリックしてチェックを付け、［Create］をクリックします。

20 作成したプリントサーバーにプリンターを割り当てます。［Assignments］をクリックし、［Printers］グループの［Add...］をクリックします。

21 ［Available objects］ボックスで、あらかじめ前の手順で作成したプリンターをクリックして反転表示させ、［OK］をクリックします。

22 ［Printers］グループで手順 **21** で割り当てたプリンターをクリックして反転表示させ、［Printer Number...］をクリックします。

23 プリンター番号を入力し、［OK］をクリックし、設定内容を確認して［OK］をクリックします。

Ridoc IO Adminで設定したリモートプリンター番号と一致させてください。

24 NetWareサーバーのコンソールから次のように入力してプリントサーバーを起動します。

すでに起動しているときは、いったん停止させてから起動します。

◆ 停止する

```
CAREE: unload pserver
```

◆ 起動する

```
CAREE: load pserver
```

補足

- 表示されるプリンター名から設定するプリンターがわからないときは、本機から「システム設定リスト」を印刷し、そのプリンター名と比較して目的のプリンターを探してください。
- プリンターが表示されないときは、IPX/SPXプロトコルのフレームタイプの設定をパソコンと本機で一致させてください。パソコンのフレームタイプはWindowsの［ネットワーク］ダイアログで変更します。

■Web Image Monitor での設定

1 Web Image Monitor を起動します。

2 ［ログイン］をクリックします。

［ログインユーザー名］と［ログインパスワード］の入力画面が表示されます。

3 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお尋ねください。

4 画面左のメニューの［設定］から［ネットワーク］、［NetWare］をクリックします。

設定項目については「プリントサーバを使用する（NetWare 3.xJ」）を参照してください。

5 設定を確認し、［適用］をクリックします。

これで設定は終了です。再び Web Image Monitor を立ち上げる場合は、数分をおいてから行ってください。

参照

• P.249 「プリントサーバを使用する（NetWare 3.xJ）」

8. Windowsの補足情報

コマンドの使用についての説明です。

Windowsからのファイル直接印刷

Windowsでコマンドを使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、たとえばPostScript 3用のポストスクリプトファイルなどです。
- 搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

♦ Windows 95/98/Me

ftpを使って印刷できます。

♦ Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows NT 4.0

lpr、rcp、ftpを使って印刷できます。

補足

- sftpコマンドをご使用の場合は、クライアントソフトが必要です。クライアントソフトは、ssh ver2に準拠したものをご使用ください。

セットアップ

Windowsからファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1 本機の操作部でTCP/IPプロトコルを有効にし、IPアドレスなどTCP/IPに関するネットワーク環境を設定します。

本機のTCP/IPプロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

2 WindowsにTCP/IPプロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。

ネットワークに関する設定内容はネットワーク管理者の方に確認してください。

3 Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2でlprを使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX用印刷サービス」を組み込みます。Windows NT 4.0の場合は「Microsoft TCP/IP印刷」を組み込みます。

補足

- DHCPを使用して本機のIPアドレスを設定するときは、「DHCPを使用する」を参照してください。
- 本機の指定にホスト名を使用するときは、「IPアドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

参照

- P.314 「DHCPを使用する」
- P.267 「IPアドレスの代わりにホスト名を使用する」

8

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバ上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

参照

・P.125 「システム設定リストを印刷する」

その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

■Windows 95/98/Me の場合

1. ¥WINDOWS¥HOSTS.SAM を同じディレクトリにコピーし､名前を HOSTS（拡張子を付けません）にします。
2. 作成した ¥WINDOWS¥HOSTS ファイルをメモ帳などで開きます。
3. hosts ファイルに IP アドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

   ```
   192.168.15.16   host   # NP
   ```

   192.168.15.16 は IPv4 アドレス、host はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。
4. ファイルを上書き保存します。

■Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows NT 4.0の場合

1 メモ帳などでhostsファイルを開きます。

hostsファイルは以下の場所にあります。

Windows 2000、Windows NT 4.0の場合

```
¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS
```

Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2の場合

```
¥WINNDOWS¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS
```

¥WINNTはWindows 2000、Windows NT 4.0のインストール先のディレクトリです。
¥WINDOWSはWindows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2のインストール先のディレクトリです。

2 hostsファイルにIPv4とIPv6のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4の場合

```
192.168.15.16  host  # NP
```

192.168.15.16はIPv4アドレス、hostはプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1行で入力します。

IPv6の場合

```
2001:DB::100  host  #  NP
```

2001:DB::100はIPv6アドレス、hostはプリンターのホスト名、#から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1行で入力します。

3 ファイルを上書き保存します。

8

補足

- IPv6環境下のWindows Server 2003/2003 R2でホスト名をご使用の場合は、外部のDNSサーバでホスト名の解決を行ってください。hostsファイルはご使用になれません。
- IPv6対応のOSは、Windows XP SP2、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2です。

印刷方法

lpr、rcp、ftp を使った印刷方法の説明です。
コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

♦ Windows 95/98 の場合：
［スタート］-［プログラム］-［MS-DOS プロンプト］

♦ Windows Me の場合：
［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［MS-DOS プロンプト］

♦ Windows 2000 の場合：
［スタート］-［プログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

♦ Windows XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 の場合：
［スタート］-［すべてのプログラム］-［アクセサリ］-［コマンドプロンプト］

♦ Windows NT 4.0 の場合：
［スタート］-［プログラム］-［コマンドプロンプト］

補足

- 印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
  - lpr：10
  - rcp：5
  - ftp：3
- ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- コマンドの中で指定する「オプション」はプリンター固有のオプションで、内容は UNIX から印刷する場合と同様です。
- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

参照

- P.285 「セットアップ（UNIX）」

lpr

♦ IPアドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -Sプリンターのアドレス ［-Pオプション］［-ol］ ¥パス名¥ファイル名

♦ IPアドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -Sプリンターのホスト名 ［-Pオプション］［-ol］ ¥パス名¥ファイル名

バイナリーファイルを印刷する場合は -ol（小文字のOと、小文字のL）オプションを付けてください。

ホスト名がhostのプリンターに、C:¥PRINTディレクトリにある、名前がfile1のPostScriptファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> lpr -Shost -Pfiletype=RPS -ol C:¥PRINT¥file1
```

rcp

あらかじめhostsファイルにプリンターのホスト名を登録しておきます。

c:> rcp ［-b］ ¥パス名¥ファイル名 ［¥パス名¥ファイル名...］ プリンターのホスト名：［オプション］

・ファイル名には「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。

・バイナリーファイルを印刷する場合は -bオプションを付けてください。

ホスト名がhostのプリンターに、C:¥PRINTディレクトリにある、名前がfile1とfile2のPostScriptファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

```
c:> rcp -b C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2 host:filetype=RPS
```

補足

・hostsファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、「IPアドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

8

参照

・P.267 「IPアドレスの代わりにホスト名を使用する」

ftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

♦ 印刷するファイルが 1 つの場合

```
ftp> put ¥パス名¥ファイル名 [オプション]
```

♦ 印刷するファイルが複数の場合

```
ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 [¥パス名¥ファイル名 ...]
```

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。

1 本機の IP アドレス（または hosts ファイルに設定したプリンターのホスト名）を引数にして ftp コマンドを起動します。

```
% ftp 本機のアドレス
```

2 ユーザー名とパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。

```
User:
Password:
```

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

3 バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

4 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
ftp> mput  C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2
```

5 ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- mput コマンドではオプションを指定できません。
- pwd コマンドではオプションを指定できません。
- mput コマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前のファイルを RPDL で印刷する例
  ```
  ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=R00
  ```
- C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 と file2 という名前のファイルを印刷する例
  ```
  ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2
  ```

9. Mac OS で使う

Mac OS で使う場合の設定方法です。

Mac OS でのセットアップ

Mac OS で使う場合のセットアップの流れを説明します。

重要

・オプションの PS3 カードが装着されている必要があります。

♦ セットアップの流れ

1) Macintosh 側を EtherTalk に切り替えます。
2) 本機の環境設定をします。
3) プリンター名の変更をします。
4) ゾーンの変更をします。

補足

・対象となる Mac OS のバージョンは 8.6 以上、Mac OS X のバージョンは v10.1 以上です。

EtherTalk への切り替え

Mac OS の EtherTalk 環境でネットワークプリンターを使用する場合の設定方法の説明です。

補足

- EtherTalk に必要なソフトウェアのインストールについては、Mac OS のマニュアルを参照してください。

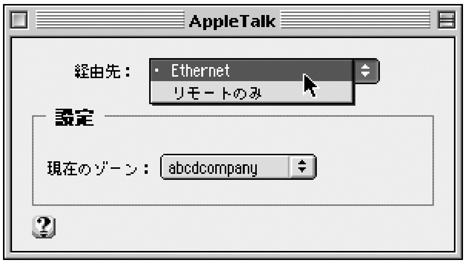
Mac OS

Mac OS の場合の、EtherTalk への変更方法の説明です。

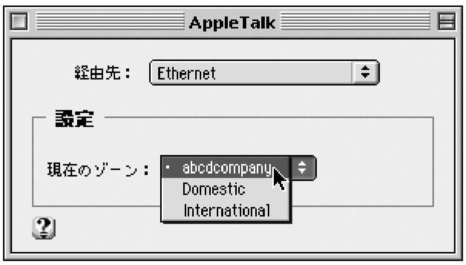
1. ［コントロールパネル］を開き、［AppleTalk］アイコンをダブルクリックします。



2. ［経由先］ポップアップメニューから「Ethernet」を選択します。



3. ゾーンを変更するときは、［現在のゾーン］ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。



4. ［AppleTalk］コントロールパネルを閉じます。

5. Mac OS を再起動します。

補足

- Mac OS の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。ここでは Mac OS 9.2 を例に説明しています。その他のバージョンをお使いの場合は、本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

Mac OS X

Mac OS X の場合の、EtherTalk への変更方法の説明です。

重要

- 一般ユーザーの場合、ゾーンの変更にはユーザ名とパスワードが必要です。管理者にお問い合わせください。

1 ［System Preference］または［システム環境設定］を開き、［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。



2 ［AppleTalk］タブをクリックします。

3 「AppleTalk 使用」をチェックします。

4 ゾーンを変更する場合には、［AppleTalk ゾーン :］ポップアップメニューから使用するゾーンの名前を選択します。

5 設定が完了したら、［今すぐ適用］をクリックしてください。



補足

- Mac OS X の操作方法は使用している OS のバージョンによって多少異なります。本書の説明内容を参考に、それぞれのマニュアルを参照して設定してください。

9

本機の設定

プリンター側で AppleTalk プロトコルを有効にします（工場出荷時は有効です）。

プリンター名の変更

プリンター名の変更方法についての説明です。

同じネットワーク上に同機種のプリンターを複数台接続するときは、必ずプリンター名を変更してください。同じプリンター名があると、接続された順番に Mac OS により［セレクタ］上で PRINTER0、PRINTER1 のようにプリンター名の後に「0」「1」などの番号がついて表示されます。そのため、プリンター名は接続時の状況に応じて、さまざまに変化します。Mac OS の EtherTalk 環境でプリンター名を変更するには、PostScript 3 を含んだオプションの拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

補足

- エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

ゾーンの変更

ゾーンの変更方法についての説明です。

ネットワーク上にゾーンを設定している場合は、必要に応じてプリンターが所属するゾーンを変更します。

ゾーンを変更するには、PostScript 3 を含んだオプションの拡張エミュレーションに付属の「PS3 設定ユーティリティー」を使用します。

補足

・エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

9

USB インターフェースを使う

本機を USB 接続で使用する場合の設定方法の説明です。

重要

- Mac OS から印刷するには PostScript 3 を含むオプションの拡張エミュレーションが本機に増設されている必要があります。

Mac OS

Mac OS で、USB インターフェースを使用する場合の設定方法の説明です。

1. ハードディスク内の［AdobePS Components］フォルダを開きます。
2. ［デスクトップ・プリンタ Utility］をダブルクリックします。
3. ［プリンタ：］ポップアップメニューから［AdobePS］を選択し、［デスクトップに作成 ...］から［プリンタ（USB）］を選択して、［OK］をクリックします。
4. ［PostScriptTM プリンタ記述（PPD)］ファイルの［変更］をクリックします。



5. 接続したプリンターのPPD ファイルを選択し､[選択]をクリックします。

9

6 ［USB プリンタの選択：］で、［変更］をクリックします。



7 ［USB プリンタの選択：］で、接続したプリンターを選択し、［OK］をクリックします。

8 ［作成］をクリックします。



メッセージが表示されます。

9 ［保存する］をクリックします。

10 保存先と名称を指定し、［保存］をクリックします。

デスクトップにプリンターアイコンが表示されます。

11 ［デスクトップ・プリンタ Utility］を終了します。

補足

- Mac OS では本体標準の USB ポートのみ対応しています。
- Macintosh と USB 接続で印刷する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。

9

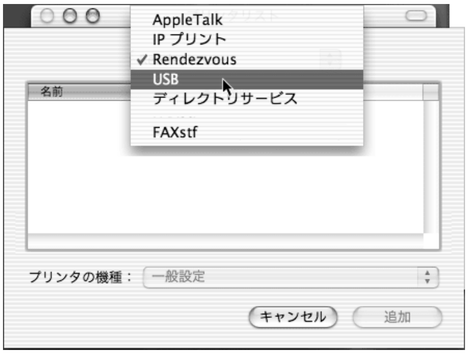
Mac OS X

Mac OS X で、USB インターフェースを使用する場合の設定方法の説明です。

1 ［プリンタ設定ユーティリティ］を起動します。

2 ［追加］をクリックします。

3 ポップアップメニューから［USB］を選択します。



接続しているプリンターが表示されます。

4 プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。

機種名の一覧が表示されます。

5 機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。

6 ［プリンタリスト］を閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。

Rendezvous を使う

Mac OS X 10.2.3 〜 Mac OS X 10.3.x では、Rendezvous を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

1 **プリンタ設定ユーティリティを起動します。**

2 **［追加］をクリックします。**

3 **ポップアップメニューから［Rendezvous］を選択します。**



接続しているプリンターが表示されます。

4 **プリンターを選択し、［プリンタの機種］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。**

機種名の一覧が表示されます。

5 **機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。**

6 **プリンタリストを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。**

補足

- Macintosh と Rendezvous で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。
- Rendezvous 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

Bonjour を使う

Mac OS X 10.4 以降では、Bonjour を使って本機に印刷できます。イーサネット接続、および無線 LAN で接続できます。

1 **プリンタ設定ユーティリティを起動します。**

2 **［追加］をクリックします。**



プリンタブラウザが起動し、接続しているプリンタが表示されます。

3 **プリンターを選択し、［使用するドライバ：］ポップアップメニューから［RICOH］を選択します。**

機種名の一覧が表示されます。

4 **機種名の一覧から接続しているプリンターの機種名を選択し、［追加］をクリックします。**

5 **プリンタブラウザを閉じ、プリンタ設定ユーティリティを終了します。**

補足

- Macintosh と Bonjour で接続する場合、エミュレーションが自動では切り替わりません。本機の操作部から、「エミュレーション検知」を「する」に設定するか、エミュレーションを「PS3」に切り替えてから印刷を行ってください。
- Bonjour 上で IP アドレスの設定は必要ありません。

9

10. UNIX で使う

UNIX の使用についての説明です。

セットアップ（UNIX）

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、設定方法の説明です。

★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

本機は LPD プロトコルをサポートしており、RFC1179 に準拠した LPD 搭載のホストから使用することができます。

設定方法は各 OS に搭載された LPD システムによって異なっています。

代表的な UNIX-OS 上で LPD 印刷環境の構築するためのシェルスクリプトを、リコーのホームページ（http://www.ricoh.co.jp/）からダウンロードすることができます。適用 OS をホームページ上でご確認のうえ、ダウンロードしてください。また、インストールシェルの使用方法等に関しては、ホームページにて提供している説明資料を参照してください。

LPD の設定方法

BSD ベースのリモートプリンタの設定方法、および Solaris2.x におけるネットワークプリンタの設定方法を説明します。

BSD ベースの LPD システム

システム上でスーパーユーザ (root 権限）または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

★重要

- 適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている。
- 本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている。
- 本機の設定における TCP/IP プロトコルおよび LPD プロトコルがともに有効になっている。

◆ /etc/printcapへのエントリ追加

lprコマンドを使ってLPD印刷ができるように、/etc/printcapを修正します。
ここでは、プリンタ名、ホスト名、論理プリンタ名が以下のように設定されているものとします。
プリンタ名：printer
ホスト名：hostname
論理プリンタ名：filetype=RPS

- エントリ追加例
  printer｜Network Printer:¥
  :lp=:¥
  :rm=hostname:¥
  :rp=filetype=RPS:¥
  :sd=/usr/spool/lpd/printer:¥
  :lf=/var/log/lpd-errs:¥
  :mx#0:

補足

- 「printer｜Network Printer:¥」のフィールドは、プリンタの識別名（プリンタ名）となります。lprコマンドから指定するプリンタ名は、ここで指定する識別名となります。
- 「printer｜Network Printer:¥」のフィールドでは、「｜」を使っていくつものプリンタ識別名を記載することが可能です。
- :lp=:¥以降のフィールドは、プリンタ属性に関する記載となります。ケーパビリティの名称で表されます。
  - lp
    本機を接続する際のデバイス名となります。本機をネットワークプリンタとして使用する場合には、通常このフィールドには何も指定しません。（なお、プリンタをワークステーション上に直接接続する際には、デバイスファイル名を記載します。）
  - rm
    本機のホスト名を指定します。必要に応じて/etc/hostsファイルにホスト名を事前に記載する必要があります。
  - rp
    論理プリンタ名を指定します。本機では、印刷時のオプション指定文字列を指定します。特に必要がなければ、lp（デフォルト）を指定します。
  - sd
    印刷を行う際に一時的に使用するスプールディレクトリのパス名を指定します。スプールディレクトリはネットワークプリンタごとに必要になり、/etc/printcapに記載するエントリ毎に作成しなければなりません。
  - lf
    ログを格納するファイルのフルパス名を指定します。
  - mx
    スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを指定します。通常、何も指定しないか適当な値を設定します。0を指定すると無制限、指定しないと1024Kバイトとなります。

10

♦ スプールディレクトリの作成

ターミナル上でスプールディレクトリを作成します。root 権限が必要です。

（例）

```
# mkdir/user/spool/lpd
# cd/user/spool/lpd
# mkdir printer
# chown daemon printer
# chgrp daemon printer
# chmod 770 printer
```

LPD システムを再起動します（LPD システムの再起動方法については、OS ごとに方法が異なります。詳細は OS に添付のドキュメントをご確認ください）。

（例）

```
# lpc restart printer
```

♦ 印刷動作の確認

ここまでに作成したプリンターが正しく動作するかを確認します。

User: lpr-P プリンター名 ファイル名 [ファイル名 ...]

（例）

```
% lpr-P printer file1
```

補足

- プリンタ名には、/etc/printcap にエントリを追加した際のプリンタ名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。

Solaris の LP システム

システム上でスーパーユーザ（root 権限）または、それに準ずるシステム管理者権限が必要です。

重要

- 適用する OS 上で LPD 印刷をサポートしている
- 本機に IPv4 アドレスが設定されており、ネットワーク上で有効なことが確認できている
- 本機の設定における TCP/IP プロトコル及び LPD プロトコルがともに有効になっている

♦ プリンタの作成

Solaris では、ネットワークプリンタとリモートプリンタの２種類のプリンタを作成することができます。

ここでは、プリンタ名、ホスト名、論理プリンタ名が以下のように設定されているものとします。

プリンタ名：printer

ホスト名：hostname

論理プリンタ名：filetype_RPS

- リモートプリンタの作成方法

  # /usr/sbin/lpadmin -p printer -s hostname!lp -T dumb -I any （非 PS プリンタ設定）

  または

  # /usr/sbin/lpadmin -p printer -s hostname!filetype_RPS -T PS -I postscript （PS プリンタ設定）

- ネットワークプリンタの作成方法

  # lpadmin -p printer -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=hostname:lp -v /dev/null -T unknown -I any (非 PS プリンタ)

  または

  # lpadmin -p printer -m netstandard -o protocol=bsd -o dest=hostname:filetype_RPS -v /dev/null -T PS -I postscript (PS プリンタ)

補足

- 詳細は、Solaris に付属のドキュメントを参照して確認して下さい。

♦ プリンタの有効化

作成したプリンタを有効化し、プリンタが動作できる状態にします。リモートプリンタ、ネットワークプリンタのどちらの場合も、作成したあとは有効化してください。

accept printer

distination printer "printer" now accepting requests

enable printer

printer "printer" now enabled

♦ 印刷動作の確認

作成されたプリンタが正しく動作しているか、コマンドを入力して確認します。
Usage : lpr -d プリンタ名 ファイル名 [ファイル名 ...]
% lp -d printer file1

補足

- プリンタ名には、/etc/printers.conf にエントリを追加した際のプリンタ名を指定します。
- ファイル名には、「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- 「print requests full」のメッセージが表示された場合は、印刷要求がフルで受け付けることが出来ない状態です。最大 10 セッションです。
- Postscript プリンタを作成した場合には、ファイル名で指定されるファイルは PostScript データでなければ、正しく出力されない場合があります。
- バナーページが出力される場合がありますので、不要な場合には、コマンドラインで「-o nobanner」指定により付加せずに出力できます。「% lp -d printer -o nobanner file1」とコマンドを入力してください。

オプション指定（UNIX）

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

♦ Solaris 2.6 以上でオプションを指定する場合

- Solaris 2.6 以上で複数のオプションを指定するときは、セミコロン（；）で区切ります。また、オプションにイコール (=) やカンマ (,) を含めることはできません。filetype をオプションに指定するときは、イコールの代わりにアンダーライン (_) を使ってください。filetype_RPS 省略形は fil_RPS のように入力してください。
- Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、各コマンドで指定できるオプション数が異なります。
  - rsh/rcp 1
  - lpr/ftp 文字列制限の範囲内で複数指定可能

♦ オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

♦ オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ (,) で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール (=) を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ (,) を追加します。

エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。

♦ filetype（または fil）＝エミュレーションの指定値（またはプログラム登録番号の指定値）

- エミュレーション：指定値
  RPCS：RCS
  RPDL：R00
  R98：R98
  R16：R16
  R55：R55
  RP-GL/2：RGL
  PostScript3：RPS
  RTIFF：RTF
  PDF：PDF
  BMLinkS：BMLINKS
- プログラム登録番号：指定値
  プログラム 1：P01
  プログラム 2：P02
  プログラム 3：P03
  プログラム 4：P04
  プログラム 5：P05
  プログラム 6：P06
  プログラム 7：P07
  プログラム 8：P08
  プログラム 9：P09
  プログラム 10：P10
  プログラム 11：P11
  プログラム 12：P12
  プログラム 13：P13
  プログラム 14：P14
  プログラム 15：P15
  プログラム 16：P16

♦ PostScript 3 で印刷場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）

- <rsh> % rsh hostname print filetype=RPS < file1
- <rcp> % rcp file1 hostname:filetype=RPS
- <ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

♦ **ftp の cd コマンドの利用**

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

```
ftp> cd オプション
```

補足

- 搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。
- 現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。

```
ftp> pwd
```

漢字フィルター

漢字フィルターを使用すると、作成したテキストファイルと同じ漢字コードで印刷できます。

重要

- エミュレーションが RPDL のときに有効です。漢字フィルターを指定するときはエミュレーションとして RPDL（filetype=R00）を指定します。

♦ **filter（または flt）＝漢字コード指定値**

- 漢字コード：指定値（省略値）
  EUC：EUC(E)
  JIS：JIS(J)
  シフト JIS：SJIS(S)

♦ **EUC漢字コードのテキストファイルを印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名 file1）**

<rsh> % rsh hostname print filetype=R00,filter=EUC < file1

<rcp> % rcp file1hostname:filetype=R00,filter=EUC

<ftp> ftp> put file1 filetype=R00,filter=EUC

給紙トレイ

給紙トレイを指定します。

重要

- エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- 増設していないトレイを指定しても無効です。

♦ RPDL

- tray= 給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）
  給紙トレイ 1：1
  給紙トレイ 2：2
  手差しトレイ：T
- 給紙トレイの指定値は機器情報で得られる給紙トレイ番号に対応しています。
- 給紙トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print tray=2 < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:tray=2
  <ftp> ftp> put file1 tray=2

♦ PostScript 3

- tray= 給紙トレイの指定値（給紙トレイ：指定値）
  給紙トレイ 1：tray1
  給紙トレイ 2：tray2
  手差しトレイ：bypass
  自動トレイ選択：all
- トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例（プリンターのホスト名 hostname ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print tray=tray2 < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:tray=tray2
  <ftp> ftp> put file1 tray=tray2

用紙サイズ

用紙サイズを指定します。

重要

・エミュレーションが RPDL または PostScript 3 のときだけ有効です。
・存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

♦ PostScript 3

・paper= 用紙サイズの指定値
指定値：a3（A3）, a4（A4）, a5（A5）, a6（A6）, jisb4（B4）, jisb5（B5）, jisb6（B6）, letter（$8^1/_2$×11）, legal（$8^1/_2$×14）, jpost（はがき）, jpostd（往復はがき）, custom（不定形サイズ）
・A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）
<rsh> % rsh hostname print paper=a4 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=a4
<ftp> ftp> put file1 paper=a4

♦ RPDL

・paper= 用紙サイズの指定値（指定値：用紙サイズ）
A3R：A3（ヨコ）
B4R：B4（ヨコ）
A4X：A4（タテ / ヨコ）
B5X：B5（タテ / ヨコ）
A5R：A5（ヨコ）
B6R：B6（ヨコ）
A6R：A6（ヨコ）
PCR：ハガキ（ヨコ）
LGR：$8^1/_2$×14（ヨコ）
LTR：$8^1/_2$×11（ヨコ）
HLR：$5^1/_2$×$8^1/_2$（ヨコ）
WPCR：往復ハガキ（ヨコ）

補足

・用紙サイズ（ヨコ）の指定値は、機器の給紙方向に対して用紙の短辺から給紙するときに指定します。
・用紙サイズ（タテ）の指定値は、機器の給紙方向に対して用紙の長辺から給紙するときに指定します。

・A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）
<rsh> % rsh hostname print paper=A4R < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=A4R
<ftp> ftp> put file1 paper=A4R

用紙種類

用紙の種類を指定します。

重要

- エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- 存在しない用紙種類は指定しても無効です。

♦ mediatype= 用紙種類の指定値

- 指定値：plain（普通紙）、letterhead（レターヘッド付き用紙）、recycled（再生紙）、color（色紙）、special、special2、special3（特殊紙 1、特殊紙 2、特殊紙 3）、thick、thick2、thick3（厚紙 1、厚紙 2、厚紙 3）、labels（ラベル紙）、Envelope（封筒）、coated（コート紙）、glossy（光沢紙）、custom1（カスタム 1）

♦ 再生紙の用紙に印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）

<rsh> % rsh hostname print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:mediatype=recycled
<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled

排紙トレイ

排紙トレイを指定します。

重要

- エミュレーションが RPDL または PostScript 3 のときだけ有効です。
- 存在しないトレイを指定しても無効です。

♦ RPDL

- bin= 排紙トレイの指定値
  排紙トレイの指定値は機器情報で得られる排紙トレイ番号に対応しています。
  本体排紙トレイ：ST
- 排紙トレイ番号 2 のトレイに排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print bin=2 < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:bin=2
  <ftp> ftp> put file1 bin=2

♦ PostScript 3

- outbin= 排紙トレイの指定値（排紙トレイ：指定値）
  本体排紙トレイ：upper

印刷部数

印刷部数を指定します。

重要

- エミュレーションがRPDL、PostScript 3、またはPDFのときに有効です。
- 漢字フィルターを指定すると、印刷部数の指定は無効になります。
- PostScript 3の場合、「qty」と同時に指定しないでください。

♦ **copies= 印刷部数（1〜999）**

10部印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名hostnameファイル名file1）

<rsh> % rsh hostname print copies=10 < file1

<rcp> % rcp file1 hostname:copies=10

<ftp> ftp> put file1 copies=10

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

重要

- エミュレーションがPostScript 3またはPDFのときに有効です。
- 「copies」と同時に指定しないでください。

♦ **qty= ソート部数（1〜999）**

10部ソートして印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名file1）

<rsh> % rsh hostname print qty=10 < file1

<rcp> % rcp file1 hostname:qty=10

<ftp> ftp> put file1 qty=10

両面印刷

用紙の両面に印刷できます。

重要

- エミュレーションが RPDL、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- プリンター側に両面印刷ユニットが必要です。

♦ RPDL

- bothside または bothleft（左とじ）
  bothright（右とじ）
  flip（上とじ）
  singleside（両面印刷の解除：片面印刷）
- 左とじで両面印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print bothside < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:bothside
  <ftp> ftp> put file1 bothside

♦ PostScript 3

duplex=on（両面印刷する）
duplex=off（両面印刷しない）

- 両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）
  <rsh> % rsh hostname print duplex on < file1
  <rcp> % rcp file1 hostname:duplex on
  <ftp> ftp> put file1 duplex on

補足

- RPDL で印刷オプションに漢字フィルターを指定している場合、両面印刷されないことがあります。このようなときは、漢字フィルターの指定をしないでください。
- 印刷データによって印刷したあと両面印刷が解除されないことがあります。次の印刷時にも両面印刷されるときは singleside を指定してください。

解像度

印刷する解像度を指定します。

重要

- エミュレーションがPostScript 3またはPDFのときに有効です。

♦ resolution= 解像度（600）

600dpiで印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名hostname、ファイル名file1）

<rsh> % rsh hostname print resolution=600 < file1

<rcp> % rcp file1 hostname:resolution=600

<ftp> ftp> put file1 resolution=600

オプション指定の変更方法

lprで印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

♦ BSD系UNIXワークステーション

/etc/printcapから変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。または、/etc/printcapから変更するプリンターのエントリーを探し、そのrpケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

♦ Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。(例　プリンタ名：printer)

1) スケジューラを停止します。

```
# /usr/sbin/lpshut
```

2) プリンターを削除します。

```
# /usr/sbin/lpadmin -x printer
```

3) スケジューラを再起動します。

```
# /usr/lib/lp/lpsched
```

参照

- P.286「/etc/printcapへのエントリ追加」
- P.288「SolarisのLPシステム」

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。
（例　プリンタ名：printer、ホスト名：hostname）

- lpq コマンドを使って本機の状態（ステータス）と印刷ジョブ情報を表示できます。
  % lpq -P printer
- rsh、ftpまたはsftpコマンドを使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。
  % rsh hostname パラメーター
  % ftp hostname
  User: ユーザー名
  password: パスワード
  ftp> get パラメーター
- rsh、rcp、ftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。
  stat：機器の状態（ステータス）
  stat：印刷ジョブの情報（印刷ジョブ情報）
  info：給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション（機器情報）
  prnlog：これまでに印刷した記録（プリントログ情報）
  syslog：ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録（システムログ情報）

ファイルにコピーする場合

rcp、ftp コマンドまたは sftp を使って、指定したパラメータに応じた内容をファイルにコピーできます。
（例　ホスト名：hostname、ファイル名：file1）

```
% rcp hostname:パラメータ file1
% ftp hostname
User: ユーザー名
password:
ftp> get パラメータ file1
```

補足

- パラメータの種類は、表示する場合と同じです。

10

11. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等についての説明です。

CD-ROM 収録ソフトウェア

ここでは、本機に同梱されている CD-ROM「ドライバー＆ユーティリティー / 使用説明書」について説明しています。

ファイル一覧

CD-ROM「ドライバー＆ユーティリティー / 使用説明書」に入っているファイルの一覧です。

ファイル名	参照
SETUP.EXE	P.13 「おすすめインストール」
Windows 95/98/Me 用 RPCS プリンタードライバー	P.302 「RPCS プリンタードライバー」
Windows NT 4.0 用 RPCS プリンタードライバー	P.302 「RPCS プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003 用 RPCS プリンタードライバー	P.302 「RPCS プリンタードライバー」
Windows 95/98/Me 用 RPDL プリンタードライバー	P.303 「RPDL プリンタードライバー」
Windows NT 4.0 用 RPDL プリンタードライバー	P.303 「RPDL プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用 RPDL プリンタードライバー	P.303 「RPDL プリンタードライバー」
Windows 95/98/Me 用 RP-GL/2 プリンタードライバー	P.304 「RPGL/2 プリンタードライバー」
Windows NT 4.0 用 RP-GL/2 プリンタードライバー	P.304 「RPGL/2 プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用 RP-GL/2 プリンタードライバー	P.304 「RPGL/2 プリンタードライバー」
Windows 95/98/Me 用 PS3 プリンタードライバー	P.305 「PS3 プリンタードライバー」
Windows NT 4.0 用 PS3 プリンタードライバー	P.305 「PS3 プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用 PS3 プリンタードライバー	P.305 「PS3 プリンタードライバー」

ファイル名	参照
Ridoc IO Admin	P.305 「Ridoc IO Admin」
Ridoc Desk Navigator Lt	P.306 「Ridoc Desk Navigator Lt」
True Type World Windows 版	P.308 「TrueTypeWorld」
各種マニュアル（HTML ファイル）	P.312 「各種マニュアル（HTML ファイル）」

ドライバー（RPCS）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RPCS が入っています。

RPCS プリンタードライバー

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 95/98/Me 用プリンタードライバー
  DRIVERS¥RPCS¥WIN9X_ME
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用プリンタードライバー
  DRIVERS¥RPCS¥WIN2K_XP
- Windows NT 4.0 用プリンタードライバー
  DRIVERS¥RPCS¥NT4

♦ プリンタードライバーの動作環境

- パソコン
  対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ
  - Windows NT 4.0 で使用する場合、RISC ベースのプロセッサ（MIPS R シリーズ、Alpha AXP、Power PC）環境では動作しません。
- 対象 OS
  Windows 95/98/Me 日本語版
  Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 日本語版
  Windows NT 4.0 日本語版
- ディスプレイ解像度
  SVGA 800 × 600 ドット以上

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

参照

- P.13 「おすすめインストール」

ドライバー（RPDL）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RPDL が入っています。

重要

- RPDL ドライバーを使用して印刷するには、オプションのマルチエミュレーションカードが装着されている必要があります。

RPDL プリンタードライバー

RPDL プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 95/98/Me 用プリンタードライバー
  `DRIVERS¥RPDL¥WIN9X_ME`
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用プリンタードライバー
  `DRIVERS¥RPDL¥WIN2K_XP`
- Windows NT 4.0 用プリンタードライバー
  `DRIVERS¥RPDL¥NT4`

♦ プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『RPDL』使用説明書を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー（RP-GL/2）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。RP-GL/2 が入っています。

重要

- RP-GL/2ドライバーを使用して印刷するには、オプションのマルチエミュレーションカードが装着されている必要があります。

RP-GL/2 プリンタードライバー

RP-GL/2 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 95/98/Me 用プリンタードライバー
  `DRIVERS¥RPGL2¥WIN9X_ME`
- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用プリンタードライバー
  `DRIVERS¥RPGL2¥WIN2K_XP`
- Windows NT 4.0 用プリンタードライバー
  `DRIVERS¥RPGL2¥NT4`

♦ プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『RP-GL/2』使用説明書を参照してください。

補足

- 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー（PS3）

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。PS3 が入っています。

重要

・PS3 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PS3 カードが装着されている必要があります。

PS3 プリンタードライバー

PS3 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

・Windows 95/98/Me 用プリンタードライバー
DRIVERS¥PS¥WIN9X_ME

・Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2 用プリンタードライバー
DRIVERS¥PS¥WIN2K_XP

・Windows NT 4.0 用プリンタードライバー
DRIVERS¥PS¥NT4

♦ プリンタードライバーの動作環境

動作環境についての詳細は、『PostScript 3』使用説明書を参照してください。

Ridoc IO Admin

Ridoc IO Admin の機能とファイル格納場所の説明です。
Ridoc IO Admin は TCP/IP プロトコル、IPX/SPX プロトコルを使ってネットワーク上のプリンターを監視するソフトウェアです。IP アドレスを持つ複数のネットワークプリンターの管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。
NETWORK\RIDOCIO\ADMIN

参照

・P.166 「Ridoc IO Admin を使う」

11

Ridoc Desk Navigator Lt

Ridoc Desk Navigator Lt は、アプリケーションソフトで作成したファイルや既存のイメージファイルなど、多様なデータを 1 つの文書として管理・印刷することができます。
Ridoc Desk Navigator Lt のインストールと同時に Job Binder 機能もインストールされます。Job Binder 機能では、複数のアプリケーションで作成したファイルや Ridoc Desk Navigator Lt 文書を、Ridoc Desk Navigator Lt の JobBinder フォルダに保存しておき、1 つの文書として印刷したり、プレビュー機能で仕上がり状態を確認しながら保存した印刷データを後でステープル、両面などの指示をかけて印刷することができます。また、印刷する順番を後で変更することもできます。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

`UTILITY\RIDOCDSK`

♦ Ridoc Desk Navigator Lt の動作環境

- パソコン
  対象 OS が問題なく動作する PC/AT 互換機
- 対象 OS
  Microsoft Windows 98 SE 日本語版
  Windows Me 日本語版
  Windows 2000 Professional 日本語版（Service Pack 1 以上）
  Windows 2000 Server 日本語版（Service Pack 1 以上）
  Windows 2000 AdvancedServer 日本語版
  Windows XP Home Edition 日本語版
  Windows XP Professional 日本語版
  Windows Vista 日本語版
  Windows Server 2003/2003 R2 日本語版
- ディスプレイ解像度
  SVGA　800×600 ドット以上

補足

- NEC PC-9800 シリーズ、PC-9821 シリーズ、PC98-NX シリーズでは動作しません。
- Ridoc Desk 2000 Lt の使い方については、ヘルプを参照してください。

Ridoc IO Navi

Ridoc IO Navi は以下のような機能を備えたソフトウェアです。Ridoc Desk Navigator Lt をインストールする際に、同時にインストールされます。

- Windows 95/98/Me/2000/XP/Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows NT 4.0 から TCP/IPプロトコル、IPPを使用して、Peer-to-Peerネットワークで印刷する機能を提供します。
- TCP/IP プロトコル、IPX/SPX プロトコルを使用してネットワークにある機器の状態を常に監視できる機能を提供します。

♦ どんなことができるのか？

Ridoc IO Navi では以下の操作ができます。

- Peer-to-Peer プリント機能
  - プリントサーバが無くても、直接ネットワークプリンターに印刷できます。
  - 指定したプリンターにジョブがたまっていたり、エラーが発生して印刷できないとき、代わりのプリンターに印刷できます（代行印刷）。
  - 複数部数の印刷を複数のプリンターに割り振って印刷できます（並行印刷）。
  - 並行 / 代行印刷に指定するプリンターをあらかじめグループ登録できます。
- プリンター本体のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- 印刷データを転送中または印刷中に指定したプリンターにエラーが発生した場合、エラーメッセージを通知させることができます。
- 機器監視機能
  - 印刷中、用紙切れなど機器の情報をパソコン上で確認できます。
  - 複数台の機器を使い分けているときは、それらを同時に監視できます。
  - 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
  - ユーザー ID を使ったジョブの履歴を確認できます。
- 印刷が完了したときに、［印刷通知］ウィンドウを表示して、印刷の完了を通知することができます。また代行印刷したときだけ表示させるなど、印刷条件により通知するかどうかを設定することができます。
- 自分が印刷した文書の履歴、印刷中のジョブ状態を一覧で確認できます。
- 印刷ページを、「プレビュー表示」と「ページ一覧表示」の 2 種類の方法で表示することができます。

補足

- 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（例えばオプションの給紙テーブルなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。
- 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターに同じサイズの用紙をセットしてください。特定の給紙トレイを指定して印刷するときは、同じトレイに同じサイズの用紙をセットしてください。
- 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターの機種や装備が違う場合、印刷結果が同じにならないことがあります。
- 試し印刷や機密印刷をする場合、代行印刷 / 並行印刷はできません。
- Ridoc IO Navi の使いかたについては、同梱のマニュアルとヘルプを参照してください。

11

TrueTypeWorld

TrueTypeWorld のファイル格納場所と書体見本についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

`FONTS¥WIN95NT`

♦ 書体見本

以下の TrueType フォント 20 書体が収録されています。

羽衣L

愛の広がる美しいフォント

羽衣E

愛の広がる美しいフォント

高橋隷書体

愛の広がる美しいフォント

江戸文字勘亭流

愛の広がる美しいフォント

行刻

愛の広がる美しいフォント

半古印体

愛の広がる美しいフォント

行書体

愛の広がる美しいフォント

祥南行書体

愛の広がる美しいフォント

正楷書体

愛の広がる美しいフォント

創英角ポップ体

愛の広がる美しいフォント

創英丸ポップ体

愛の広がる美しいフォント

白洲ペン楷書体

愛の広がる美しいフォント

白洲行草書体

愛の広がる美しいフォント

白洲太楷書体

愛の広がる美しいフォント

平成角ゴシック体™ W3

愛の広がる美しいフォント

平成角ゴシック体™ W9

愛の広がる美しいフォント

平成丸ゴシック体™ W4

愛の広がる美しいフォント

平成丸ゴシック体™ W8

愛の広がる美しいフォント

平成明朝体™ W3

愛の広がる美しいフォント

平成明朝体™ W9

愛の広がる美しいフォント

各書体のフォント名、字母メーカーは以下のとおりです。

フォント名	書体名	字母メーカー名
HG～(注)	羽衣 L	株式会社大谷デザイン研究所
HG～(注)	羽衣 E	株式会社大谷デザイン研究所
HG～(注)	高橋隷書体	株式会社ブリッジ
HG～&HGP～& HGS～	江戸文字勘亭流	株式会社晃文堂
HG～&HGP～& HGS～	行刻	株式会社シイアンドジィ
HG～&HGP～& HGS～	半古印体	株式会社シイアンドジィ
HG～&HGP～& HGS～	行書体	株式会社リコー
HG～&HGP～& HGS～	祥南行書体	有澤祥南
HG～&HGP～& HGS～	正楷書体	日本活字工業株式会社
HG～&HGP～& HGS～	創英角ポップ体	株式会社創英企画
HG～&HGP～& HGS～	創英丸ポップ体	株式会社創英企画
HG～&HGP～& HGS～	白洲ペン楷書体	日本書技研究所
HG～&HGP～& HGS～	白洲行草書体	日本書技研究所
HG～&HGP～& HGS～	白洲太楷書体	日本書技研究所
HG～&HGP～& HGS～	平成角ゴシック体™ W3	(財) 日本規格協会
HG～&HGP～& HGS～	平成角ゴシック体™ W9	(財) 日本規格協会
HG～&HGP～& HGS～	平成丸ゴシック体™ W4	(財) 日本規格協会
HG～&HGP～& HGS～	平成丸ゴシック体™ W8	(財) 日本規格協会
HG～&HGP～& HGS～	平成明朝体 W3	(財) 日本規格協会
HG～&HGP～& HGS～	平成明朝体 W9	(財) 日本規格協会

※フォント名の『～』の個所には書体名が入ります。『HG～』のみの場合は和文プロポーショナルに対応していません。

(注) Windows3.1 のフォーマットで収録しています。

基本仕様

True Type World の基本仕様に関する説明です。

♦ 文字について

7,602 文字（MS 標準キャラクタセットに準拠、JIS 漢字第一水準、第二水準を含む）
フォーマット /Windows 95 日本語版準拠の TrueType Collection 形式（拡張子 : ttc）

補足

- Windows 95 以降で和文プロポーショナルフォントを使用できるようになります。
- フォントファイルに組み込まれたフォント情報によって書体表示名が異なります。

「HGP～」	半角文字・非漢字についてプロポーショナルピッチの情報を格納
「HGS～」	半角文字についてプロポーショナルピッチの情報を格納
「HG～」	固定ピッチ情報のみ格納

- 和文プロポーショナル機能を使用するには、TrueType Collection に対応しているアプリケーションが必要です。
- 平成書体は、（財）日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。他のフォントと同様、フォントとして無断複製することは禁止されています。

♦ 対象 OS

TrueType フォントの対象 OS は、下記の通りです。

- Microsoft Windows 95/98/Me 日本語版
- Microsoft Windows NT 4.0 日本語版
- Microsoft Windows 2000/XP 日本語版
- Microsoft Windows Vista 日本語版
- Microsoft Windows Server 2003/2003 R2 日本語版

Windows へのインストール

True Type World の Windows へのインストール方法の説明です。
ここでは、操作例として Windows 95/98/Me へのインストール方法を説明しています。

重要

- ご使用の際には、同梱されている CD 内の Font ディレクトリにある Readme の使用許諾を参照してください。
- すでに Windows 3.1 版の TrueTypeWorld がインストールされているパソコンには、同梱の CD-ROM 内の TrueTypeWorld をインストールしないでください。
- インストールされているフォント数が多いとシステムが不安定になる恐れがあります。
- リモートドライブ（ネットワーク上のドライブ）にインストールしないでください。アプリケーションからフォントを選択するときに他のフォントが見えなくなるなどの障害が発生する恐れがあります。

1. **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］をポイントし、［コントロールパネル］をクリックします。**
2. **［コントロールパネル］の［フォント］をダブルクリックします。**
3. **［ファイル］メニューの［新しいフォントのインストール］をクリックします。**
4. **CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。**
5. **［ドライブ］ボックスのドロップダウンメニューから CD-ROM ドライブを選択します。**
6. **［フォルダ］ボックスで、［fonts］から［win95nt］の順にフォルダを開きます。**
7. **［フォントの一覧］ボックスにフォント名が表示されるので、インストールするフォントをクリックして反転表示させます。**
8. **［[FONTS] フォルダにフォントをコピーする］にチェックが付いていることを確認し、［OK］をクリックします。**

   これでインストールは終了です。

補足

- Windows をインストールしたハードディスクに、1 書体当たり約 2～7MB（書体によって異なります）の空き容量が必要です。
- インストール後、フォント名は 3 つの書体名「HG～」、「HGP～」、「HGS～」で表示されます。たとえば「行書体」の場合、［コントロールパネル］の［フォント］フォルダの中では、フォント名が「HG 行書体＆ HGP 行書体＆ HGS 行書体」と表示されます。
- その他の OS へのインストール方法については、OS に同梱の説明書を参照してください。

各種マニュアル（HTML ファイル）

各種マニュアル（HTML ファイル）のファイル格納場所についての説明です。

♦ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

MANUAL

ネットワークで運用する場合の注意事項

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

リコー製のネットワークユーティリティには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。
リモート側のネットワーク上に NetWare のファイルサーバーが存在している場合、プリンターから送出されるパケットにより ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。これは NetWare の仕様によるものなので、この問題を回避するには次に示すネットワーク管理上での対応が必要です。ネットワーク管理上対応できない場合は、プリンターの設定で対応してください。

ネットワーク管理上の対応方法

ISDN ルータでプリンターのパケットをフィルタリングし、プリンターのパケットが ISDN 回線に流れないように設定してください。
フィルタリングするプリンターの MAC アドレス（物理アドレス）は、プリンターから印刷するシステム設定リストの「イーサネットアドレス」に記載されています。
ルータの設定を変更できない場合は、次に示すプリンターの設定による方法で対応してください。

■プリンターの設定による対応方法（NetWare を使用する場合）

1 本書のセットアップ方法に従い、必ずファイルサーバーを指定します。

Ridoc IO Admin では、イーサネットボード設定ツールのプロパティシートを開き、[NetWare]タブの[ファイルサーバ名]ボックスにファイルサーバー名を入力します。

2 NetWare の使用環境に合わせてフレームタイプを固定します。

補足

- 使用するフレームタイプを選択する方法について詳しくは、本機に同梱の使用説明書を参照してください。

参照

- P.125 「システム設定リストを印刷する」

■プリンターの設定による対応方法（NetWareを使用しない場合）

1 イーサネットボードは印刷していない間もネットワーク上にパケットを発行します。プロトコルの選択でNetWareを無効にします。

プロトコルを無効にする方法については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。

DHCPを使用する

本機をDHCP環境で使用することができます。WINSサーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名をWINSサーバーに登録することができます。

- 動作対象のDHCPサーバーは、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows 2000 Server、Windows NT 4.0 Server、NetWare、およびUNIXに標準添付されているDHCPサーバーです。
- 本機がDHCPから取得したIPアドレスは、システム設定リストで確認できます。
- WINSサーバーを使用する場合は、「WINSサーバーを使用する場合」を参照してWINSサーバーを設定してください。
- WINSサーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINSサーバーを使用しない場合は、毎回同じIPアドレスが割り当てられるように、本機に割り当てるIPアドレスをDHCPサーバーで予約してください。
- 複数のDHCPサーバーが存在する場合は、すべてのDHCPサーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答したDHCPサーバーからの情報で動作します。
- ネットワークにISDN回線を接続している環境でDHCPリレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびにISDN回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

参照

- P.125 「システム設定リストを印刷する」
- P.315 「WINSサーバーを使用する場合」

11

AutoNet 機能を使用する

DHCPサーバーからIPv4アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に169.254.xxx.xxxではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。

補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。ただし、Mac OS X 10.2.3 以降が稼働している Macintosh とは通信できます。

参照

- P.125 「システム設定リストを印刷する」
- P.194 「autonet」

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS（Windows Internet Name Sarvice）サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Ridoc IO Navi のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。

サポートする WINS サーバーは、Windows NT 4.0 Server Service Pack 4 以降または Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。

登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザを使用する方法

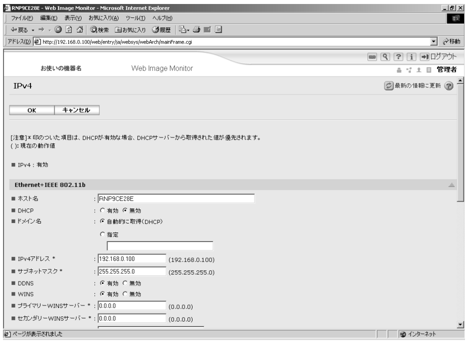
1. **Web ブラウザを起動します。**
2. **Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**
   Web Image Monitor のトップページが表示されます。
3. **［ログイン］をクリックします。**
   ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。

5 メニューエリアの［設定］をクリックし、［ネットワーク］エリアの［IPv4］をクリックします。

6 ［Ethernet+IEEE802.11b］欄の［WINS］が「有効」になっていることを確認し、［プライマリ WINS サーバー］と［セカンダリ WINS サーバー］にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。



7 ［OK］をクリックします。

8 Web ブラウザを終了します。

telnet を使用する方法

参照

・P.192 「telnet を使う」

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバが管理しているレコード（A レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。
ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。
本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバの設定が次のどちらかになっている必要があります。

・セキュリティ設定がされていない
・セキュリティ設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

♦ 静的 IP 設定の場合

IP アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。
また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

・イーサネット、IEEE802.11b の場合
RNPPRNXX（PRNXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

♦ DHCP 設定の場合

DHCP サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

・本機が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する際、DHCP サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
・本機が DHCP サーバーから IP アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCP サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

・イーサネット、IEEE802.11b の場合
RNPPRNXX（PRNXX は MAC アドレスの下位３バイトの 16 進数）

補足

・メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)) はサポートしていません。

動作対象の DNS サーバー

♦ 静的 IP 設定の場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

♦ DHCP 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

♦ DHCP 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DNS サーバー

♦ IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCP サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCP サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server（Service Pack 3 以降）に標準添付の Microsoft DHCP サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DHCP サーバー

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

参照

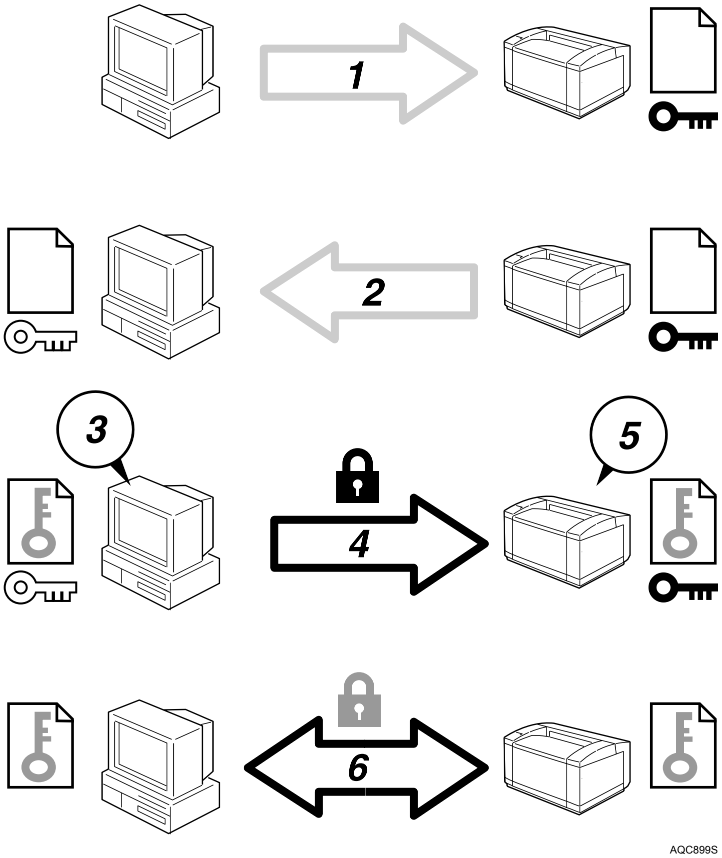
- P.199 「dns」

SSL（暗号化通信）の設定

通信経路の保護と暗号化通信ができるように、サーバー証明書を作成、導入します。
サーバー証明書は、機器自身で作成、導入する自己証明書と、任意の認証局に証明書を申請し機器に導入する 2 つの運用形態があります。

重要

- この機能はネットワークを接続をしているときに使用できます。
- オプションの保存用カードが必要です。



1) ユーザーのパソコンから本機へアクセスするとき、SSL のサーバー証明書と公開鍵を要求します。
2) 本機からユーザーのパソコンへサーバー証明書と公開鍵が送られます。
3) PC で共通鍵を生成し、公開鍵を使用して暗号化します。
4) 暗号化された共通鍵が本機に送られます。
5) 本機で秘密鍵を使用し、暗号化された共通鍵が復号化されます。
6) 共通鍵を使用してデータを暗号化し、相手側で復号する安全な通信を実現します。

♦ **設定の流れ（自己証明書）**

1) サーバー証明書の作成と導入
Web Image Monitor を使用してサーバー証明書を作成、導入します。
2) SSL を有効にする
Web Image Monitor を使用し、［SSL/TLS］の設定を有効にします。

♦ **設定の流れ（認証局証明書）**

1) サーバー証明書の要請
Web Image Monitor を使用し、サーバー証明書を要請します。
証明書の作成後の申請や内容は認証局によって異なるため、認証局の要求する申請方法にしたがって手続きします。
2) サーバー証明書の導入
Web Image Monitor を使用し、サーバー証明書を導入します。
3) SSL を有効にする
Web Image Monitor を使用し、［SSL/TLS］の設定を有効にします。

補足

- SSL が有効になっているかを確認するには、Web ブラウザのアドレスバーに「https://（本機のアドレスまたはホスト名）」と入力し本機へのアクセスを行ってください。「ページを表示できません」と表示された場合は、SSL の設定が無効となっているもしくは証明書が未導入ですので、設定の内容を確認してください。

サーバー証明書の作成と導入（自己証明書）

Web Image Monitor を使用し、サーバー証明書を作成、導入します。
サーバー証明書に、自己証明書を利用する場合の説明です。

1 **Web ブラウザを起動します。**

2 **Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

3 **Web Image Monitor の管理者モードにログインします。**
ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問合せください。

4 **［設定］をクリックします。**

5 **「セキュリティー」の［機器証明書］をクリックします。**
［機器証明書］エリアが表示されます。

6 **［作成］をクリックします。**

7 **必要な設定項目を入力します。**
表示項目や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

8 **［OK］をクリックします。**
設定が書き換えられます。

9 ［OK］をクリックします。

10 内容を確認して［はい］をクリックします。

「証明書状態」に「導入済」が表示され、本機にサーバー証明書が導入されます。

11 管理者モードからログアウトします。

12 Web Image Monitor を終了します。

補足

- オプションの保存用カードが装着されていないと、証明書の作成は行えません。その場合は「予期しないエラーが発生しました」とエラーメッセージが表示されます。

サーバー証明書の作成（認証局証明書）

ネットワーク管理者が Web Image Monitor を使用し、サーバー証明書を作成します。
サーバー証明書に、認証局証明書を利用する場合の説明です。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

3 Web Image Monitor の管理者モードにログインします。

ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問合せください。

4 ［設定］をクリックします。

5 「セキュリティー」の［機器証明書］をクリックします。

「機器証明書」エリアが表示されます。

6 ［要求］をクリックします。

7 必要な設定項目を入力します。

表示項目や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

8 ［OK］をクリックします。

「機器証明書」エリアの「証明書状態」に「要求中」が表示されます。

9 管理者モードからログアウトします。

10 証明書を認証局に申請します。

申請方法は認証局によって異なります。申請先の認証局に確認してください。
また、申請に必要な情報は、Web Image Monitor の詳細アイコンをクリックして表示される「証明書詳細」の内容を利用してください。

11 Web Image Monitor を終了します。

補足

- 二つの証明書の申請を同時に行うと証明書の発行先が表示されない場合があります。導入する際に証明書の目的と導入順についてご確認ください。
- Web Image Monitorを使用してサーバー証明書を作成することができますが、申請の提出ができるものではありません。
- サーバー証明書の要求を取りやめる場合は、[取りやめ要求]をクリックします。
- オプションの保存用カードが装着されていないと、証明書の作成は行えません。その場合は「予期しないエラーが発生しました」とエラーメッセージが表示されます。

サーバー証明書の導入（認証局証明書）

ネットワーク管理者がWeb Image Monitorを使用し、サーバー証明書を導入します。
サーバー証明書に、認証局証明書を利用する場合の説明です。認証局から送られてきたサーバー証明書の内容を導入します。

1. **Webブラウザを起動します。**
2. **Webブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**
3. **Web Image Monitorの管理者モードにログインします。**
   ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問合せください。
4. **[設定]をクリックします。**
5. **「セキュリティー」の[機器証明書]をクリックします**
   「機器証明書」エリアが表示されます。
6. **[導入]をクリックします。**
7. **サーバー証明書の内容を入力します。**
   「証明書要求」の入力ボックスに認証局から送られてきたサーバー証明書の内容を入力します。
   表示項目や設定項目の詳細は、Web Image Monitorのヘルプを参照してください。
8. **[OK]をクリックします。**
   「証明書状態」に「導入済み」が表示され、本機にサーバー証明書が導入されます。
9. **管理者モードからログアウトします。**
10. **Web Image Monitorを終了します。**

SSL を有効にする

本機にサーバー証明書を導入後、SSL の設定を有効にします。
この設定は、サーバー証明書が自己証明書を利用する場合、または認証局証明書を利用する場合のどちらにも共通の方法です。Web Image Monitor で設定します。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

3 Web Image Monitor の管理者モードにログインします。
ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問合せください。

4 ［設定］をクリックします。

5 「セキュリティー」の［SSL/TLS］をクリックします。
「SSL/TLS」エリアが表示されます。

6 「SSL/TLS」の［有効］をクリックします。

7 「SSL/TLS 通信許可設定」から暗号化通信モードを選択します。

8 ［OK］をクリックします。
SSL の設定が有効になります。

9 ［OK］をクリックします。

10 管理者モードからログアウトします。

11 Web Image Monitor を終了します。

補足

- 「SSL/TLS 通信許可設定」を「暗号化のみ」に設定した場合、本機にアクセスするときは、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力します。

SSL（暗号化通信）のユーザーの設定

本機にサーバー証明書を導入し、SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、ユーザーのパソコンに証明書をインストールする必要があります。
Web Image Monitor や IPP で本機にアクセスするとき、セキュリティに関する警告ダイアログが表示された場合、［証明書のインポートウィザード］を起動し、証明書をインストールしてください。

1 セキュリティに関するダイアログが表示された場合、［証明書の表示］をクリックします。

証明書が表示されます。
証明書の内容を確認し、証明書の有効期限が切れているなどの問題が発生した場合は、管理者にご相談ください。

2 「全般」タブから［証明書のインストール］をクリックします。

「証明書のインポートウィザード」が表示されます。

3 「証明書のインポートウィザード」にしたがって、証明書をインストールします。

補足

- 「証明書のインポートウィザード」の操作については、Web Image Monitor、または Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。
- 本機に導入しているサーバー証明書が認証局証明書の場合は、認証局に証明書ストアの場所を確認してください。
- IPP で本機にアクセスするときの証明書ストアの場所は、Ridoc IO Navi のヘルプを参照してください。

SSL/TLS 通信許可設定

SSL/TLS の暗号化通信モードを設定し、セキュリティの強度を変更することができます。

♦ 暗号化通信モードについて

暗号化通信モードによって暗号化通信を設定することができます。

暗号文のみ	暗号化通信のみを許可します。 暗号化できない場合は、通信できません。
暗号文優先	暗号化できる場合は、暗号化通信します。 暗号化できない場合は、平文で通信します。
暗号文 / 平文	暗号化、または平文の指定された方法で通信します。

暗号化通信モードの設定

サーバー証明書を導入後、SSL/TLS の暗号化通信モードを設定します。
この設定により、セキュリティの強度を変更することができます。
Web Image Monitor から設定します。

1 **Web ブラウザを起動します。**

2 **Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。**

3 **Web Image Monitor の管理者モードにログインします。**

ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問合せください。

4 **［設定］をクリックします。**

5 **「セキュリティー」の［SSL/TLS］をクリックします。**

6 **「SSL/TLS 通信許可設定」のドロップダウンメニューから暗号化通信モードを選択し、［OK］をクリックします。**

暗号化通信モードは、［暗号文のみ］、［暗号文優先］、［暗号文 / 平文］のいずれかを選択します。

7 **管理者モードからログアウトします。**

8 **Web Image Monitor を終了します。**

補足

- Web Image Monitor からも SSL/TLS 通信モードを設定することができます。Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

SNMPv3 暗号化通信の設定

Ridoc IO Admin などを使用し、各種の設定を行うときの通信データを暗号化通信することができます。
この設定により、通信データの改ざんを防止することができます。
Web Image Monitor から設定します。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

3 Web Image Monitor の管理者モードにログインします。

ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問合せください。

4 ［設定］をクリックします。

5 「ネットワーク」の［SNMPv3］をクリックします。

6 「SNMPv3 設定」の「SNMPv3 通信許可設定」から「暗号化のみ」を選択し、［OK］をクリックします。

7 管理者モードからログアウトします。

8 Web Image Monitor を終了します。

補足

- Ridoc IO Admin を使用し、各種の設定を行うときの通信データを暗号化するためには、本機の［SNMPv3 通信許可設定］の設定以外にネットワーク管理者の［暗号パスワード］の設定と Ridoc IO Admin の［SNMPv3 認証情報の入力］の［暗号鍵］の設定が必要です。
- Ridoc IO Admin の「暗号鍵」の設定は、Ridoc IO Admin のヘルプを参照してください。

11

Windows ターミナルサービス /MetaFrame を使用する場合

Windows ターミナルサービス /MetaFrame を使用する方法の説明です。

重要

・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

動作環境

使用可能な OS と MetaFrame との組み合わせは次のとおりです。

♦ Windows NT Server 4.0 Terminal Server Edition

・MetaFrame 1.8 (SP3/FR1+SP3/SP4/FR1+SP4)
・MetaFrame XP (SP1/FR1)

♦ Windows 2000 Server

・MetaFrame 1.8 (SP3/FR1+SP3/SP4/FR1+SP4)
・MetaFrame XP (SP1/SP2/FR1/FR1+SP2/FR2/SP3/FR1+SP2/FR2+SP3/FR3)
・MetaFrame Presentation Server 3.0

♦ Windows Server 2003/2003 R2

・MetaFrame XP（FR3）
・MetaFrame Presentation Server 3.0

制限

動作が制限される環境についての説明です。

♦「Windows ターミナルサービス」動作時

Windows NT Server 4.0 Terminal Server EditionまたはWindows 2000 Serverファミリでターミナルサービスを実行している環境で Ridoc IO Navi をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、次の２通りの方法があります。

1) ［コントロールパネル］の［アプリケーションの追加と削除］を使用して Ridoc IO Navi をインストールします。
2) MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
CHANGE USER /INSTALL
```

インストールモードを終了するには、MS-DOS コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
CHANGE USER /EXECUTE
```

補足

・詳しくは Windows のヘルプを参照してください。

11

♦ **印刷時**

サイズの大きな画像や、フォントが大量に含まれたデータを印刷すると、画像や文字抜けが発生する場合があります。事前検証のうえ、運用してください。

♦ **「クライアントプリンタの自動作成機能」使用時**

「クライアントプリンタの自動作成機能」とは、MetaFrame サーバーにログオンする時に、クライアント側で使用しているローカルプリンタの情報を基にして、MetaFrame サーバー側にて、そのクライアント専用の論理プリンタが自動的に作成される機能です。事前検証のうえ、運用してください。

- 大容量の画像データを印刷したり、ISDN などの電話回線を利用した WAN 環境でお使いになる場合、事前検証のうえ、運用してください。
- MetaFrame XP 1.0 以降をご使用の場合は、「Citrix 管理コンソール」より、「クライアントプリンターで使用可能な帯域幅」をお使いの環境に合わせて設定して、使用してください。
- サーバー側で印刷エラーが発生し、印刷ジョブや「クライアントプリンタの自動作成機能」で作成されたプリンターが削除されない場合、次の対処方法を行ってください。
    - MetaFrame 1.8 SP3/FR1+SP3/SP4、MetaFrame XP1.0 SP1/SP2/SP3/FR1
      レジストリにて「完了していない印刷ジョブを削除する」設定を実施します（詳細については MetaFrame の Readme を参照してください）。
    - MetaFrame XP1.0 FR2/FR3
    - MetaFrame Presentation Server 3.0
      Citrix 管理コンソールの「プリンタの管理」のプロパティにて「ログオフ時に保留中の印刷ジョブを削除する」設定を実施します。

♦ **「プリンタードライバーの複製機能」使用時**

事前検証のうえ、運用してください。

正しく複製がされない場合は、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして、運用してください。

♦ **RPDL ドライバーを使用される場合**

ユニバーサルプリンタードライバー利用時（MetaFrame XP 1.0 FR1、FR2）、クライアント側のドライバーが RPDL ドライバー（RPDL ミニドライバー含む）の場合、用紙サイズいっぱいに描画されたデータが、一部切れて印刷されてしまう場合があります。この場合は、印刷領域を「拡張」もしくは「最大」に設定して、ご使用ください。

補足

- 制限事項の詳細については、リコーホームページ (http://www.ricoh.co.jp/) を参照してください。

拡張無線 LAN ボード（オプション）を取り付けているとき

拡張無線 LAN インターフェースを使ってネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

♦ ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- 本機とアクセスポイントを近づける。
- アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

補足

- アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat（Ver 1.95.2）について

本製品に搭載しているコントローラー等のソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat Ver 1.95.2（以下 expat1.95.2）を下記の条件のもとで使用しています。

- expat1.95.2 を含むソフトウェアに関するサポートと保証等は株式会社リコーが行うものであり、expat1.95.2 の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

補足

- expat1.95.2 に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。
  http://expat.sourceforge.net/

NetBSD について

1.Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product:

This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at http://www.netbsd.org/.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2.Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed by Manuel Bouyer.
This product includes software developed by Charles Hannum.
This product includes software developed by Charles M. Hannum.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.
This product includes software developed by TooLs GmbH.
This product includes software developed by Terrence R. Lambert.
This product includes software developed by Adam Glass and Charles Hannum.
This product includes software developed by Theo de Raadt.
This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
This product includes software developed by Christos Zoulas.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Paul Kranenburg.
This product includes software developed by Adam Glass.
This product includes software developed by Jonathan Stone.
This product includes software developed by Jonathan Stone for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.
This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden
This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.
The software was developed by the University of California, Berkeley.
This product includes software developed by Chris Provenzano, the University of California, Berkeley, and contributors.

Netatalk (NetBSD 1.5.3 kernel)/NetaTalk 1.4b2+asan2.1.3 (pap/atp) について

JPEG LIBRARY

・The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

samba(Ver 2.2.2-ja-1.1) について

本製品に搭載している SMB 送信機能では samba ver 2.2.2-ja-1.1（以下 samba 2.2.2-ja-1.1）を使用しています。

本製品に搭載している SMB 送信機能に関するソースコードは次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。
http://support-download.com/services/scbs

FreeBSD 4.6.2 について

Sablotron

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, “Sablotron 0.82”), with modifications made by the product manufacturer.
The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, “MPL 1.1”), and the application software of this product constitutes the “Larger Work” as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: http://supportdownload. com/services/device/sablot/notice082.html

e) The source code of the Sablotron software is available at: http://www.gingerall.com

f) MPL 1.1 is available at: http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html

RSA BSAFE®

- This product includes RSA BSAFE® cryptographic or security protocol software from RSA Security Inc.
- RSA is a registered trademark and BSAFE is a registered trademark of RSA Security Inc.in the United States and/or other countries.
-

Open SSL

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh®cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e this code cannot simply be copied and put under another distribution licence ［including the GNU Public Licence.］

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.
1)
Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

［Tatu continues］
However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated

- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "http://www.cs.hut.fi/crypto".
The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY
BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)
The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh -source code
Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.

All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.
Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>
<http://www.core-sdi.com>

3)
One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.
Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)
Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl
Theo de Raadt
Niels Provos
Dug Song
Kevin Steves
Daniel Kouril

Wesley Griffin
Per Allansson
Jason Downs
Solar Designer
Todd C. Miller
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)
Portable OpenSSH contains the following additional licenses:
c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller
Theo de Raadt
Damien Miller
Eric P. Allman
The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

商標

- Adobe、Acrobat、PageMaker、PostScript、Adobe Type Manager は、AdobeSystems Incorporated（アドビシステムズ社）の各国での登録商標または商標です。
- Apple、AppleTalk、EtherTalk、Macintosh、Mac OS、TrueType、および Bonjour は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- BMLinkS は、社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会の登録商標です。
- Citrix、MetaFrame は、Citrix Systems, Inc. の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、WindowsNT®、MS-DOS®、Windows Server®、Windows Vista®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- NEC、PC-98NX シリーズ、PC-9800 シリーズ、PC-9821 シリーズは、日本電気株式会社の登録商標です。
- NetWare、IPX/SPX は米国 Novell, Inc. の登録商標です。
- PictBridge は商標です。
- UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドがライセンスしている米国ならびに他の国々における登録商標です。
- UPnP™ is a trademark of the UPnP™ Implementers Corporation.
- その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* Windows 95 の製品名は Microsoft® Windows® 95 です。
* Windows 98 の製品名は Microsoft® Windows® 98 です。
* Windows Me の製品名は Microsoft® Windows® Millennium Edition(Windows Me) です。
* Windows 2000 の製品名は以下のとおりです。
　Microsoft® Windows® 2000 Professional
　Microsoft® Windows® 2000 Server
　Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
* Windows XP の製品名は以下のとおりです。
　Microsoft® Windows® XP Professional
　Microsoft® Windows® XP Home Edition
　Microsoft® Windows® XP Media Center Edition
　Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition
* Windows Vista の製品名は以下のとおりです。
　Microsoft® Windows Vista® Ultimate
　Microsoft® Windows Vista® Business
　Microsoft® Windows Vista® Home Premium
　Microsoft® Windows Vista® Home Basic
　Microsoft® Windows Vista® Enterprise
* Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。
　Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition
　Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition
　Microsoft® Windows Server® 2003 Web Edition
　Microsoft® Windows Server® 2003 Datacenter Edition
* Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。
　Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
　Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
　Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Datacenter Edition
* Windows NT 4.0 の製品名は以下のとおりです。
　Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0
　Microsoft® Windows NT® Server 4.0

BMLinkS について

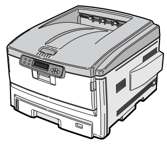
- BMLinkS は、社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会（Japan Business Machine and Information System Industries Association<JBMIA>）が推進しているオフィス機器インターフェイスです。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS 認証を受けています。
- BMLinkS 標準仕様バージョンについては、BMLinkS のインストールガイドを参照してください。
- BMLinkS カードを装着した本機は、BMLinkS プリントサービスを実装しています。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり
1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

株式会社 リコー
東京都中央区銀座8-13-1 リコービル 〒104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

IPSiO SP C711 ソフトウェアガイド



消耗品に関するお問い合わせ

弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。
NetRICOH のホームページからもご購入できます。
http://www.netricoh.com/

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。
修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。
転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介いたします。
http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html

操作方法、製品の仕様に関するお問い合わせ

操作方法や製品の仕様については、「お客様相談センター」にお問い合わせください。

FreeDial **0120-000-475**
FAX 0120-479-417

- 受付時間：平日（月～金）9 時～ 18 時／土曜日 9 時～ 12 時、13 時～ 17 時　（祝祭日、弊社休業日を除く）
- 通話料は無料です。
- 音声ガイダンスに従い製品別の番号をプッシュトーンでお知らせください。トーン信号が出せない電話機の場合は、そのまましばらくお待ちいただきますとオペレーターに接続します。

※対応状況の確認と対応品質の向上のため、通話を録音させていただいております。
http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

TTW インフォメーションセンター

TrueType フォントの仕様およびインストール等に関するお問い合わせは、「TTW インフォメーションセンター」にご連絡ください。

045-477-1639

- 受付時間：9 ～ 12 時、13 ～ 17 時（土、日、祝日、リコーの休業日を除く）

最新ドライバーおよびユーティリティー情報

最新版のドライバーおよびユーティリティーをインターネットのリコーホームページから入手できます。

- インターネット / リコーホームページ：http://www.ricoh.co.jp/download/index.html

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

JA　2007 年 12 月 G154-8509A